

14.5-17イ



\*1200501211399\*

印度の麻工業の  
黄麻工業の  
満洲に於ける麻袋

満鐵調査課



始



145-176

凡例

發行所寄贈本

一、麻袋は滿洲に於ける農産物輸送上の必需品にして、是が調査研究は徒爾ならずと信じ、茲に稿を纏めて上梓する事にした。

一、本編は主として滿洲に於ける麻袋のみを調査する豫定であつたが、全世界に分布されてゐる麻袋は殆ど印度産のもので、麻袋を研究するに當つては印度の黄麻工業より説かねばならぬ關係上、「印度の黄麻工業と滿洲に於ける麻袋」とした。

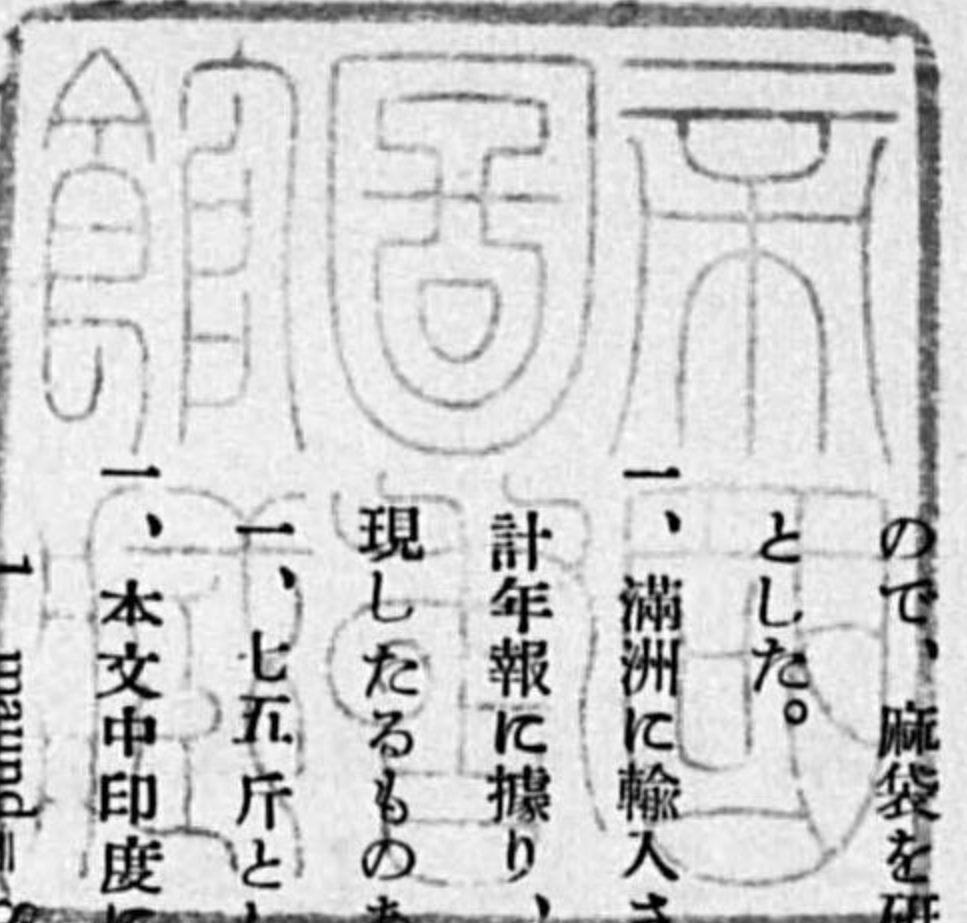
一、滿洲に輸入されたる數量の統計は主として當課發行の北支那貿易年報、滿洲貿易詳細統計、滿鐵輸送數量は滿鐵統計年報に據り、東支鐵道輸送數量は哈爾濱事務所翻譯の東支鐵道年報より採りたるも、其の數量に於て擔或は噸にて現したるものありて枚數を知る能はざりしに依り、麻袋の重量が一枚普通一斤七、八分なるにより、其の平均斤量を一、七五斤とし、換算して枚數を出した。

一、本文中印度に於ける度量衡換算率は左の如し。

- 1 maund = 8 passere = 日本斤換算 六一・二〇八斤
- 1 passere = 5 seers = 同 七・七七六斤
- 1 seer = 16 chitack = 同 一・五五五二斤
- 1 chitack = 5 tolos

一、本調査に當つて直接間接に援助と指導を受けた諸彦、殊に三井物産大連支店野田登氏並に奉天製麻株式會社中山東

凡例



一郎氏及び印度に於ける黄麻生産状況の寫眞を提供された滿洲製麻株式會社中村亮氏に對して茲に深甚の謝意を表する。

一、本編擔當者、課員石井正泰。校閲者、課員工藤武夫、同三箇功。

昭和五年一月

滿鐵調查課

發行所 寄贈本

印度の黄麻工業と滿洲に於ける麻袋

目次

第一編 麻袋の原料

第一章 印度黄麻の沿革……………一

第二章 黄麻の植物學上の特性……………三

第三章 印度に於ける黄麻の栽培……………四

第四章 印度に於ける黄麻の産額……………六

第五章 印度黄麻の品質及等級……………八

    第一節 品質決定の標準……………八

    第二節 各地産黄麻の特質……………〇

    第三節 黄麻の等級……………二

    第四節 黄麻の商標……………四

        第一項 一般の商標……………四

        第二項 代用商標……………五

第三項 標準商標……………一六

第四項 最高商標と最低商標……………一六

第五節 黄麻の相場……………一七

**第六章 印度に於ける地方集散市場……………一九**

第一節 主要集散市場……………一九

第二節 市場の組織……………二〇

第三節 取引方法……………二一

第四節 甲谷陀に於ける諸例……………二二

第一項 Soose Jute の荷造……………二三

第二項 Kutchha Bale の等級……………二四

第三項 奥地物取引……………二五

第四項 現物取引……………二七

第五項 黄麻取引に關する商業機關……………二九

**第七章 印度に於ける黄麻の出廻狀況……………三〇**

第一節 出廻徑路……………三〇

第二節 出廻時期及出廻額……………三一

第三節 分配と消費狀況……………三二

第一項 分配狀況……………三二

第二項 消費狀況……………三三

**第八章 印度産黄麻の輸出……………三五**

第一節 輸出の起源と消長……………三五

第二節 輸出の時期……………三七

第三節 輸出手續……………三九

第一項 積出指圖……………三九

第二項 通關手續……………四〇

第三項 輸出税及港務局諸掛……………四二

第四節 仕向地及輸出高……………四三

**第九章 滿洲産黄麻……………四七**

第一節 黄麻の植物學上の特性……………四七

第二節 主要産地……………四七

第三節 黄麻の栽培……………四九

第四節 滿洲黄麻と印度黄麻の採算比較……………四九

第二編 印度に於ける黄麻工業

五一

第一章 黄麻工業の沿革

五一

第二章 黄麻工業の現況

五五

第三章 生産状態

五六

第一節 繰業日数及時間

五六

第二節 製造順序

五八

第三節 生産高

六四

第四章 黄麻製品の種類

六五

第一節 麻袋

六五

第二節 麻布

六七

第五章 黄麻製品の荷造

七〇

第一節 荷造の種類

七〇

第二節 荷造費

七六

第三節 容積

七六

第六章 黄麻製品の取引

七八

第一節 工場との直接取引

七八

第二節 Second Hand Business

七九

第三節 建値

八〇

第四節 値段計算法

八一

第五節 取引の選擇權

八六

第六節 相場

八九

第七章 黄麻製品の輸出

九〇

第一節 積出指圖

九〇

第二節 通關手續

九一

第三節 輸出諸掛

九二

第四節 輸出引合

九三

第五節 輸出諸掛恒數

九四

第六節 麻布の輸出高

九七

第七節 麻袋の輸出高

九九

第三編 滿洲に於ける麻袋

第一章 麻袋の輸入

第一節 滿洲に於ける麻袋の總輸入高……………一三三

第二節 各海關別輸入高……………一四四

第一項 大連港輸入高……………一四四

第二項 營口港輸入高……………一二〇

第三項 安東港輸入高……………一二二

第四項 哈爾濱管内輸入高……………一二五

第三節 麻袋輸入徑路の變遷……………一二六

第二章 麻袋の滿鐵主要驛分布狀態

第一節 大連驛發着數量……………一二九

第二節 營口驛發着數量……………一三〇

第三節 安東、沙河鎮驛發着數量……………一三三

第三章 麻袋の取引

第一節 取引の沿革……………一三六

第二節 大連株式商品取引所……………一三七

第三節 昭和三年中に於ける取引狀態……………一四五

第四節 相場……………一五二

第四章 滿洲に於ける麻袋需給狀態

第一節 南滿主要都市需給狀態……………一五六

第一項 奉天……………一五六

第二項 鐵嶺……………一六二

第三項 開原……………一六四

第四項 四平街……………一六七

第五項 長春……………一六九

第六項 安東及沙河鎮……………一七四

第七項 營口……………一七五

第二節 北滿に於ける麻袋需給狀態……………一七八

第一項 東支鐵道麻袋總輸送數量……………一七八

第二項 東支鐵道各管區別麻袋需給狀態……………一八〇

第三項 東支各驛麻袋分布狀態……………一八〇

第四項 大連經由と浦鹽經由の運賃比較……………一八六

第五項 取引方法……………一八九

第五章 麻袋の種類及用途季節……………一八九

第六章 滿洲に於ける製麻工業……………一九一

第一節 總説……………一九一

第二節 滿洲製麻株式會社……………一九三

第三節 奉天製麻株式會社……………一九七

第七章 麻袋需給の變遷及混合保管……………二〇〇

第一節 需給の變遷……………二〇〇

第二節 混合保管と麻袋……………二〇一

第一項 大豆混合保管……………二〇一

第二項 小麥混合保管……………二〇四

第三項 麻袋格差金……………二〇五

第八章 麻袋の耐久力……………二〇六

第一節 使用回数と損傷度合……………二〇六

第二節 滿鐵に於ける麻袋の耐久力調……………二〇七

第三節 古麻袋の修理並荷造經費……………二〇九

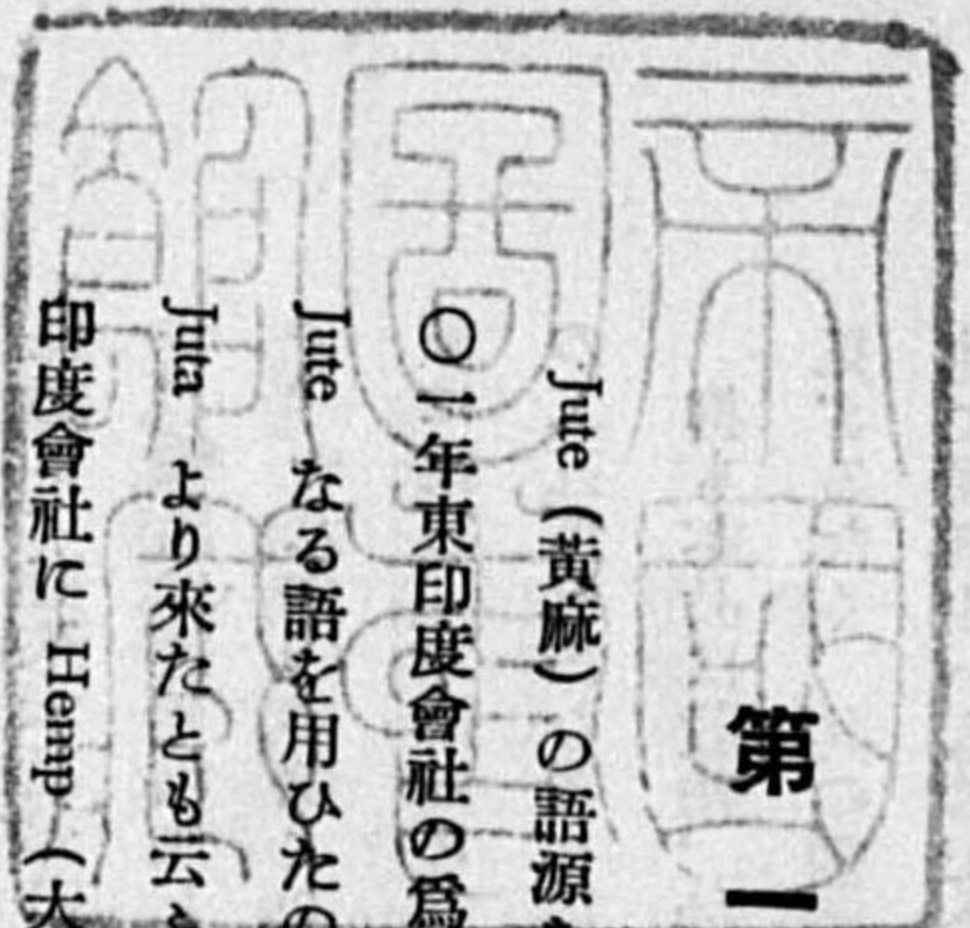
第四節 古麻袋の相場……………二一〇

第九章 グレーン、エレベーター施設と麻袋の將來……………二二二

# 印度の黄麻工業と滿洲に於ける麻袋

## 第一編 麻袋の原料

### 第一章 印度黄麻の沿革



Jute (黄麻) の語源を尋ねるに、其の最初の研究者たるブカナン、ハミルトン博士 (Dr. Buchanan, Hamilton) は一八〇一年東印度會社の爲に現今の黄麻の一論文を草し、その内には Jute なる文字の代りに Jute San Fibre と記して居た。Jute なる語を用ひたのは、後年にボックスボルフ博士 (Dr. Boxborough) にして一説には Jute はサンスクリット語なる Jata より來たとも云ふ。ヒンズユースタン語に Jata と云ふ語があつて、それは虚偽者と云ふ意ださうである。最初東印度會社に Hemp (大麻) の代用として Jute を賣り込んだが Hemp によく似てゐるが、其の性質の異りたる處から偽物即ち Jute なる語を用ふるやうになつたのであらうと云はれて居る。

印度に於ける黄麻は古くから土人間に衣服の原料として用ひられて居たが、耕作者が自家用に供するより寧ろ他に販賣する方が利益多きため最近殆んど全部が販賣を目的として耕作さるゝに至つた。然らば此の黄麻耕作の商業的起源は何日頃なりやと云ふに近々百餘年前に過ぎず、寧ろその餘りに新しきに一驚せざるを得ないのである。



初めて Jute Fibre なる名の輸出表に現れたのは一八二八年で、最初は英國ダンディの機業家が Jute をして Hemp 代用品たらしむる目的にて之が輸入を試み種々苦心研究したものであるが、當時に於ては其の輸入高極めて僅少にして然も英國以外には輸出なく、印度貿易上黄麻なるものは一顧の價値も有しなかつたものである。

然るに偶々一八五四年クリミア戦争突發に際し英國に輸入さるべき露國産大麻の輸入杜絶し、其の結果黄麻の輸入を促進し、爾來本品が英國機業家の最初の目的たる大麻代用品として上等の製織には適せない事が發見せられしにも拘らず、輸出は逐年増加し、現時に於ては年々二億餘萬留比の多額のもの、原料として輸出さるゝやうになつたのみならず、一八六〇年頃より漸く興りし甲谷陀に於ける黄麻工場の製品が、海外諸國に輸出せらるゝ額四億二千萬餘留比の巨額に達し、黄麻並に其の製品は愈々世界的に名聲を博するに至つたのである。而して黄麻及黄麻製品は英領印度輸出高の二五%を占むるに至つた。

抑も本品は穀物、砂糖、礫石、羊毛、鹽、セメント、其他一般原料品、半製品の包装材料として世界至る所に需要を見ざるなく、其の需要が斯くも普遍的にして、且つ其の額の巨大、而も産出を一地方に限られたるが如きは本品を措て他に類例少いものである。

僅々百年に足らざる歴史を有する印度黄麻は今や其の作付面積二百三十萬英町、産額七百萬樞の巨額に達し、内約三百萬樞は英國を初め海外諸國に散在する黄麻工場の原料として纖維の儘輸出せられ、殘餘は國內工場の原料となりて、製品の種類に依つて海外需要地に輸出せらるゝのである。

現在の工場數八十有餘、公稱資本金三億二千餘萬留比と三十二萬の職工を擁する印度黄麻工業の導火は實に一八五五年設立せられたるビシラ (Bisra) 黄麻工場にして此の紡織機械最初のエンジンの響こそ千古の靜寂を誇りしフグリー

河畔をして今日の殷賑をなさしめたる第一聲にして、ベンゴール曠原に天を衝く大煙突林立たるを見る壯觀は、其の當時の人々の夢想だにせざりし事なるべく、斯くて今日の黄麻は英領印度ベンゴール洲第一の農作物にして數百萬の農民を養ひ、商品としては、印度輸出品中重要な地位を占め、更に大工業運轉の原料となり印度大國富源の一をなすに至つたと同時に世界的大商品として必要缺くべからざるものとなつたのである。

## 第二章 黄麻の植物學上の特性

學名 コルコラス、キャツプシナリス (Cochlosoma capsularis, L.)

英國名 ジフト (Jute)

印度名 パット (Pat)

黄麻は田麻科に屬する一年草にして、莖は圓形、丈は五尺乃至一丈五尺許に成長する。基部の直径三分乃至七分あり通常、梢部に於て少數の枝梗を生じ、木質部と韌皮部とは容易に分離するを得べく、木質は柔軟にして韌皮は頗る強靱なる纖維を有する。莖は綠色乃至紅色にして、葉は披針狀乃至長楕圓形を爲し、邊緣に鋸齒あり、其の長さ三寸乃至八寸幅一寸乃至二寸である。葉片の基部に於て左右兩側の各一鋸齒は著しく伸長し鬚狀を呈する。花は枝梗の葉腋に生じ、二、三群生するもの多けれども、又單一なることがある。五萼五瓣にして、瓣は黄色である。果實は一種の蒴にして大體球狀なるも外面に凹凸あり、而して、縦に十餘條の凹線を有する。各果は數十粒の種子を含み、種子は暗褐色にして光澤がある。本作物栽培の主たる目的物は莖の韌皮纖維である。

本作物と同屬の植物にして纖維を採取し得べきもの左の五種がある。

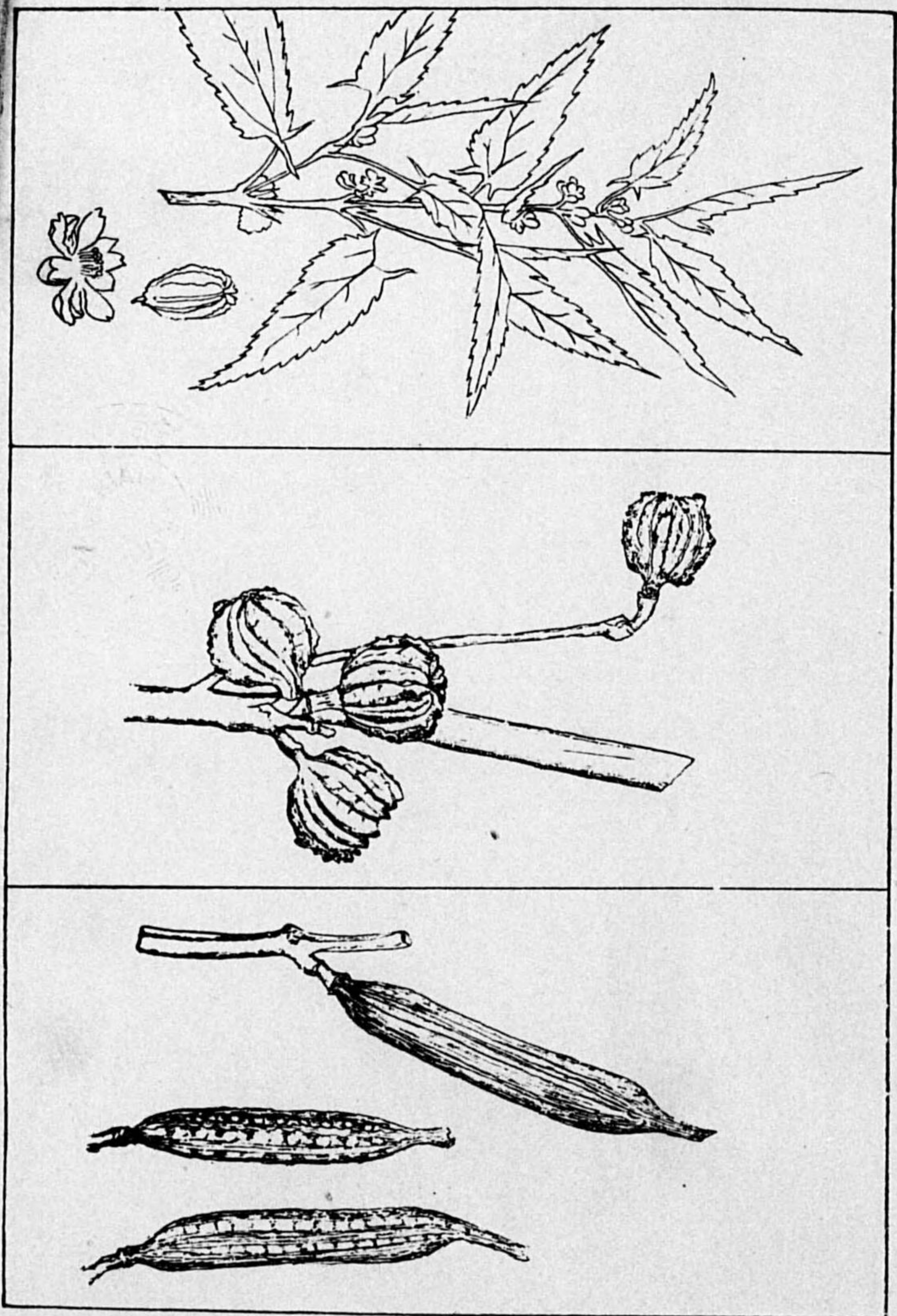
- (一) コルコラス、オリトリアス (Cochorus oltrius)
- (二) コルコラス、フスカス (C. fuscus)
- (三) コルコラス、フワシキユラリス (C. fascicularis)
- (四) コルコラス、トリロキユラリス (C. trilocularis)
- (五) コルコラス、デマンギユラリス (C. densingularis)

此等の植物も皆、英語にてジユートと稱せられ、印度の多くの地方に於てはバツトと稱せられて居る。而して此等の植物より採取したる繊維も亦同名稱を以つて呼ばれるのである。然れども世界的に最も廣く栽培せらるゝはキヤツプシユラリスにして印度に於てはオリトリアスも亦多少栽培せられる。後者の性状は大體前者に類似すれども、其の莖は圓筒状である。纖維作物としての價値は稍や前者に劣る。

### 第三章 印度に於ける黄麻の栽培

黄麻の播種期は降雨状態により一定せずと雖も普通低地に於ては二月末より、高地に於ては三月末より播種し、二月四月を最も盛んなりとすも、五月に入り尙播種を行ふ地方もある。

播種の量は一英町に付普通十封度乃至十五封度にして、發芽後一呎内外に成長したる時除草を行へば播種後三箇月乃至四箇月にして幹の高さ、七八呎に達し、黄色の花を開くに至る。土地肥沃にして天候良好なる時は幹の高さ十二呎乃至十五呎に成長すること稀れとせず、麻の繊維を採取せんとする時は此の開花期を見計ひ刈取を行ふも、種子を得んとする時は更に約一箇月を放置して充分に結實するを待つて刈取る。



黄麻

實果熟未及花稍枝 (Capsularis)

實果 (Capsularis)

實果 (Colitorius)

地上二、三寸の所より切り取りたる幹又は根のまゝに抜き取りたる幹は二十本乃至三十本の適當の大きに束ね、錘を附して水溜中に浸す。浸水日數十日乃至二十日間（普通二週間）に及ぶ時は醱酵作用完全に行はれて纖維を抽出するに適當の狀態となるを以つて、此の時麻束を水中より取出し纖維を茎より剝ぎ取り、之を更に水中にて洗滌し、纖維に附着せる腐敗せる表皮を去り、竹竿にかけて日光により乾燥する。此の浸水作業を Retting 又は Steeping と云ふ。斯くの如くにして得たる纖維は Dima と稱する太鼓形の荷造となし、又は麻束のまゝにて地方集散市場に搬出する。

今印度政府最後の黄麻作柄豫想より割り出したる作付面積を示せば左の如くである。

黄麻作付面積累年表（印度政府調）

年次	ペンゴール 及ニューチビハル	ビハル及オリッサ	アツサム	合計
一九二〇年	一一、一〇五、三三三 <sup>英町</sup>	一七八、七五〇 <sup>英町</sup>	一一八、二〇〇 <sup>英町</sup>	二、五〇一、二七三 <sup>英町</sup>
一九二一年	一一、三二九、一九〇	一〇八、三六八	七五、八〇〇	一、五一三、三五八
一九二二年	一一、二一八、九〇八	一四六、〇九八	九〇、八〇〇	一、四五五、八〇六
一九二三年	一一、〇一四、六一五	一八三、七七〇	一一四、三〇〇	二、三二二、六八五
一九二四年	一一、三九〇、一〇三	二二二、二〇〇	一三〇、四〇〇	二、七三三、七〇三
一九二五年	一一、五五二、九三六	二四八、三一八	一二五、〇〇〇	二、九二六、二五四
一九二六年	三、一七〇、五五四	二八〇、四四〇	一七九、〇〇〇	三、六二九、九九四
一九二七年	二、九六二、一〇〇	二四二、〇〇〇	一六八、〇〇〇	三、三三二、一〇〇

黄麻の栽培面積は麻と他の農作物との市價の關係及播種當時に於ける降雨の狀態により年々多少の増減あるを免れない

### 第四章 印度に於ける黄麻の産額

黄麻の豊凶は印度經濟界に及ぼす影響甚大なるものあるため、印度政府は毎年二回其作柄豫想數字を發表して居る。第一回豫想は七月上に旬發表せられ産地に於ける植付反別と、二月より六月末までの雨量とを記載す。第二回豫想は九月中旬に發表せられ植付反別作柄、收穫俵數及び七月八月の雨量統計を記載す。印度政府發表の作柄豫想は地方官吏の調査報告を基礎とし、各州に駐在する農務當局者の取纏めたる報告を綜合し、農務省より之を公表するも時に實收額と多大の懸隔ありて、必ずしも政府發表の數字を信頼すること能はずと雖も、現在之に優る正確なる調査なきを以つて政府の收穫豫想は其年に於ける黄麻供給量の大勢を決するものとして同業者の最も注意する所である。

左に印度政府の發表せる收穫豫想と實收穫との對照を掲げてその一般を窺ふこととする。

黄麻生産高累年表

年次	第一回豫想		第二回豫想		實收高
	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	
一九二一年	一、五三六、八〇二 <small>英町</small>	四、〇五二、六〇九 <small>捆</small>	一、五二三、三五八 <small>英町</small>	七、二〇九、五〇〇 <small>捆</small>	七、二〇九、五〇〇 <small>捆</small>
一九二二年	一、四五六、五四六	四、二三六、八二八	一、四五五、八六六	五、四八六、〇〇〇	五、四八六、〇〇〇
一九二三年	二、二九七、五二〇	六、九九五、八〇七	二、三二一、六八五	八、五〇〇、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇
一九二四年	二、六九〇、六八四	八、〇四四、八九二	二、七三二、七〇三	八、六八〇、一〇〇	八、六八〇、一〇〇
一九二五年	二、九一三、八一三	七、八五一、三三八	二、九二六、二五四	八、九六〇、八〇〇	八、九六〇、八〇〇



黄麻の整地



土塊を粉砕せる状態



種 播



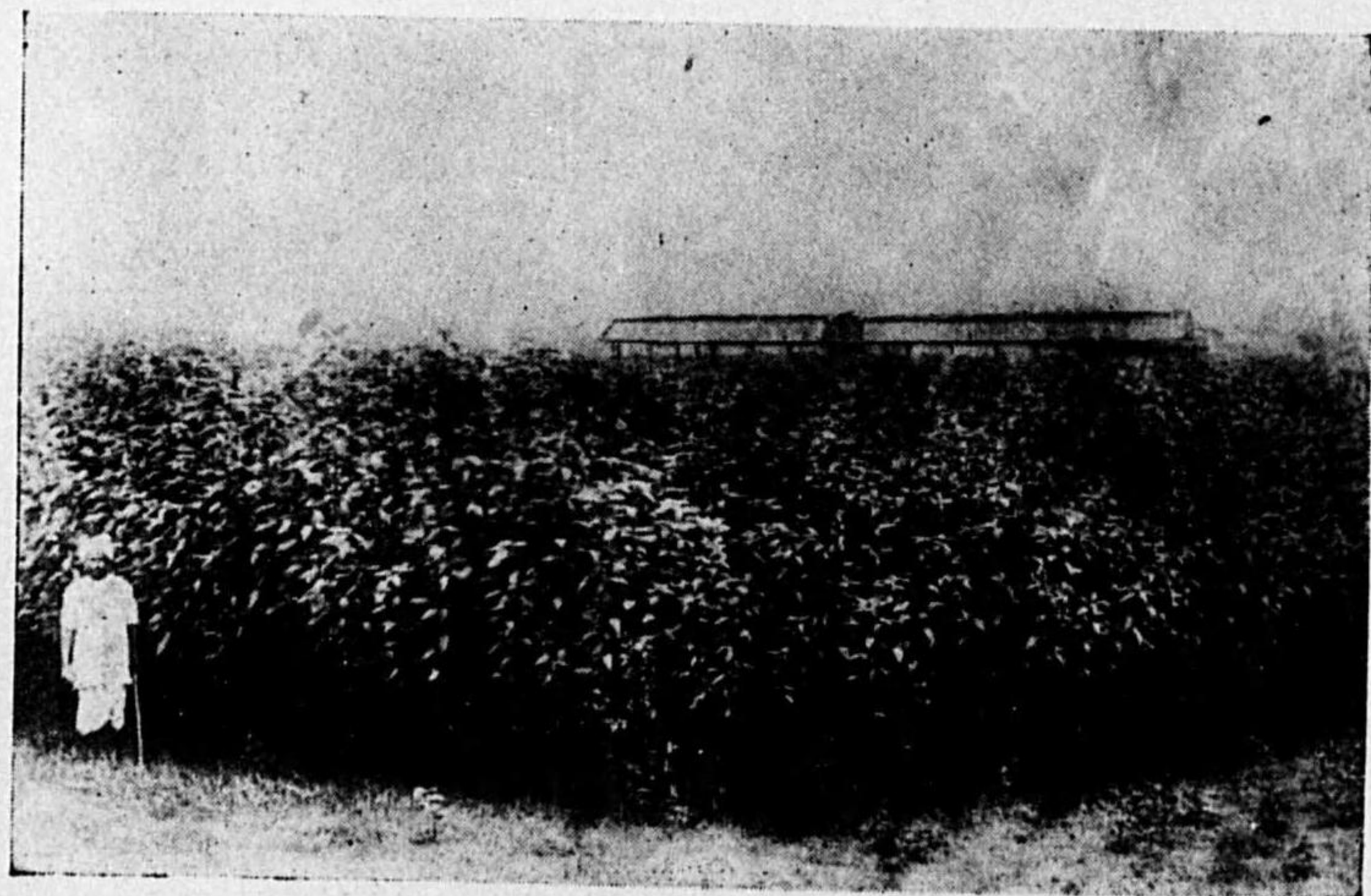
景 状 る く か を 耨 耙 に 後 種 播

種 播 の 状 況

種 播 の 状 況

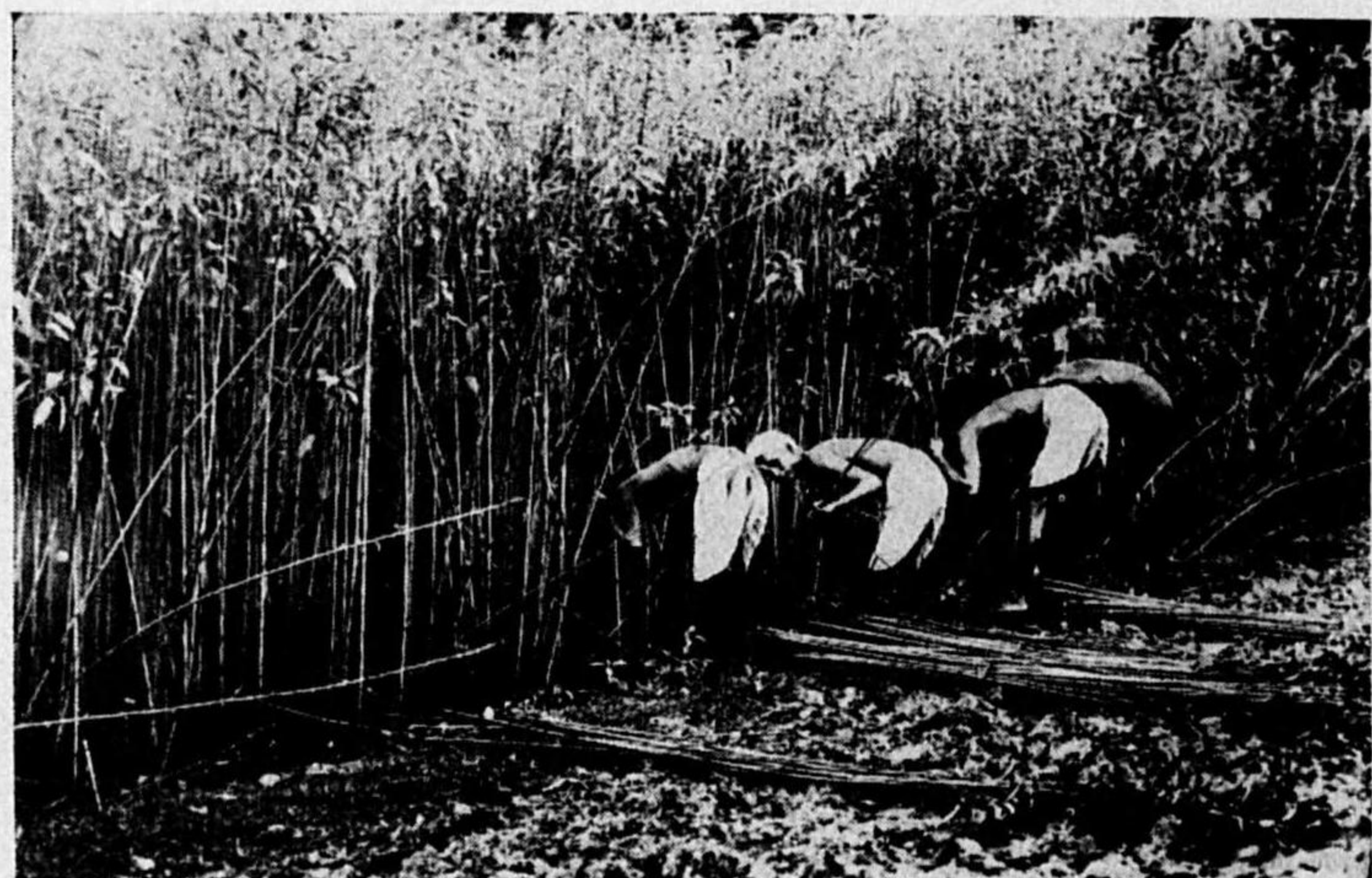


草 除



畑 麻 黄 る け 於 に 地 燥 乾





種 收 の 麻 黄



所るね束を麻め爲の(め爲の酔製)水浸



所るせ取採を維織ち打てに植木後酔醗



燥 乾 の 維 織



備考 梱は四〇〇封度

年次	最終豫想	一英町當收量	一英町當實收量
一九二一年		二・六八 <small>梱</small>	四・七六 <small>梱</small>
一九二二年		二・九一	三・七七
一九二三年		三・〇二	三・六七
一九二四年		二・九四	三・一八
一九二五年		二・六八	三・〇六
一九二六年		三・〇〇	三・三六
一九二七年		三・〇三	三・三四

一英町當收穫高表

更に印度政府最終豫想及び實收高を基礎として一英町當り平均收量率を算出すれば次の如くである。

備考 一梱は四〇〇封度である。

一九二六年	三、六〇五、〇〇〇	三、六二九、九九四	一〇、八八八、九〇〇	一二、一八七、五〇〇
一九二七年	三、三八二、一〇〇	三、三七一、一〇〇	一〇、三二九、七〇〇	一一、二五七、〇〇〇

## 第五章 黄麻の品質及等級

### 第一節 品質決定の標準

黄麻の品質を決定する標準となるべきものは大體左の諸項目である。

- A、強力の程度
- B、色澤の善悪
- C、瑕疵の有無
- D、繊維の硬軟
- E、繊維の長短
- F、根部の大小
- G、温氣の多少

#### A、強力の程度

繊維の強弱は黄麻の品質を決定するに最も重要な一條件にして、強力乏しきものは紡織の際屢々切斷する。恐れがある。Loose Jute の品質優劣を示す爲めに囊に Hessian warp and weft. Sacking warp and weft. 夫々何割と指定して取引したるは即ち此の強力の程度を示す爲に外ならない。一般に東部ベンガル産の黄麻は北部ベンガル産のものに比し強靱なるもの多く、且つ高地産のものは低地産のものに比し強力大なる模様である。

#### B、色澤の善悪

色澤は黄麻の品種、地味の相違及び浸水作業の良否によるべしと雖も、浸水作業に使用する水質の善悪によること甚大である。東部ベルガン就中低地地方は清水豊富なるを以つて色澤善き黄麻多きに反し、北部ベルガン及び高地地方にして混濁せる水溜にて浸水作業を行ひたるものは繊維黒色又は灰色を帯びて光澤に乏しい。色澤の善悪は又繊維の強力に密接なる關係がある。即ち淡き金茶色を帯びて光澤強きものは繊維頗る強靱なりと雖も、光澤乏しくして鈍重なる白色又は灰色を呈するものは繊維軟弱である。

#### C、瑕疵の有無

黄麻の瑕疵として主要なる缺點を Specky Croppy 及び Heart Damage とす。

Specky とは麻の成長中幹より枝を生じ、或は害虫に侵蝕せられたる爲めに生じたる節穴の跡にして Specky を有する繊維は紡織に當り直に切斷する。

Croppy とは浸水作業に當り麻束が充分水中に浸没せられざる爲表皮の醱酵作用完全に行はれず、之が爲め浸水不完全の部分は宛も根の部分に於けるが如く硬化する。又低地に栽培せらるゝ麻が降雨多量の爲め水中に成長し、而かも刈取に先だち、俄に減水する時は同様 Croppy を生ずる場合が多い。

Heart Damage は Jute が多量の水分を含有する時醱酵作用によつて起る缺點にして、黄麻は之が爲光澤を失ひ黄褐の色に變じ、繊維は著しく脆弱となり、甚しきに至つては粉狀と變化する。されば水氣ある黄麻は充分乾燥の上荷造なす事を要す。

#### D、繊維の硬軟

繊維の柔軟なることは黄麻の特質である。繊維細かくして柔軟なるを尙び、繊維若くして硬剛なるを嫌ふ、又繊維の

離合は硬軟に密接なる関係を有す。即ち繊維のより分裂せるものは軟く、繊維の融合せるものは硬しとされてゐる。

**E、纖維の長短**

纖維の長短は黄麻の等級を定むる場合に於ける重要條件なりと雖も、纖維長きを以つて品質優良なりと謂ふことは出來ない。一般に低地産のものは比較的長く高地産のものは比較的短かくして強力に反比例する傾向がある。

**F、根部の大小**

砂地に栽培せらるゝ黄麻の根は小なるに反し、粘土質の地の耕作せらるゝ黄麻の根は大である、又一般に根の大なるものは根の小なるものに比し纖維は強靱である。

**G、温氣の多少**

植物纖維本來の性質として一定の水分を含有することは當然なりと雖も其水分の量は時季と天候とにより又多少の相違あるを免れない。殊に黄麻出廻りの初期は、時宛も印度の雨期にあるを以て濕氣を含むものが多い。

乾燥不充分的爲め又は重量増加の目的を以て故意に水を與へ、過分の水分を含む時は貯藏中又は運送中に醱酵作用を起し *Heart Damage* を生ずるを以つて、黄麻の濕氣如何に付いては特に細心の注意を拂ふ必要がある。

**第二節 各地産黄麻の特質**

第一節に於て説明したる品質決定の標準に従ひ、各地方に産する黄麻の特質に付き大略を述べれば次の如くである。

**A、東部の品質 (Eastern Quality)**

東部ベンガル中特に *Naryangunye Dacca Mymensing* 及び *Akhaura* 地方のものは *Cutting* (切麻) 少く光澤に富み、手

觸り柔軟にして纖維細かく極めて強靱である。此等の地方より出廻る麻を特に *ジャット*、*ジュート* (*Jat Jute*) と謂ひ品質最も優良なるものとせられてゐる。

**B、北部の品質 (Northern Quality)**

北部ベンガルのものは東部ベンガル産に比し、一般に纖維長けれども、光澤及び強力に於て劣り、且つ *Cutting* が多い。又纖維一般に粗大にして比較的強靱である。

**C、セミー、ジャット品質 (Semi Jat Quality)**

*Sarisbari Serajunge* 等の所謂中部ベンガル地方より出廻る麻は上記兩者の中間に位する品質を有し、一名中部品質 (*Medium Quality*) と稱せらる。 *Jat Jute* に對し之に屬せざるものを *District Jute* と總稱する。

**D、トッサ (Tossa)**

各地方に栽培せらるゝ一種の黄麻なれども其の産額は黄麻全産額の一分五乃至二分に過ぎず、普通の黄麻 (特にホワイト、ジュートと呼ぶ) 同様上記三種の品質と區別せらる。トッサの纖維は一般に茶褐色をなし、*Cutting* 少く、強靱にして長尺物が多い。

**E、ダイジー (Daisee)**

甲谷陀附近より産する黄麻にして一般に褐色を呈してゐる。纖維比較的長くして *Cutting* 少きを特色とするも水氣多くして強力に乏しき缺點がある。

**F、ダツカ (Dacca)**

ダツカは特殊の黄麻にあらずして東部品質の優良品を以つて荷造せられたる一の等級に過ぎず、普通の *Fines* より

少々上位にあるを常例とす。

### G' マンゴー (Mango)

マンゴーは C. D. Mangos 氏の創設したる一等級なりと雖も現在は Lightning の異名に過ぎずして Lightning を現在でも C.D.M. と呼ぶ。現在の Lightning は各地方産の麻を以つて荷造せらるゝ爲、特に北部品質 (Northern Quality) を以つて荷造せられたる。Lightning を Mango と稱し區別する者が多い。

### H' メンタ (Meshita)

黄麻に酷似せる同名の植物より黄麻と同様の方法を以つて抽製せられたる繊細にして、黄麻に比し硬剛脆弱にして、時日の経過と共に品質低下の度早しと雖も、色は黄麻よりも一般に白く、且つ、Cutings 極めて少きを特色とする。昨今主として之を栽培するは Madaripur 地方である。

## 第三節 黄麻の等級

黄麻は廣義に於ては Rejections (屑麻) 及び Cutings (切麻) をも含むと雖も狹義に於ては Rejections 及び Cutings を含まず。Reds より Hearts までの等級に選別仕譯せられたる黄麻のみを意味する。

黄麻の等級は荷造人 (Baler) 各自に於て品質の標準を設け仕譯し。任意の Mark と名稱とを與ふるものなるを以て A の Baler の Lightning は B の Baler の Heart に相當する場合あり、或は一人の Baler にして同一の等級に對し品質の標準を異にする二種又は三種の Mark を設くる者もありて、政府に於て統一の規定を設け、品質の検査を行へるマニラ麻の如く一律に論ずることが出来ない。現在一般に行はるゝ格付の順位に従ひ White Jute の等級を列記すれば左

の通りである。

Reds.

Firsts.

Lightning.

Hearts.

Rejections.

Cutings.

此の外に特殊の等級として Dacca 及び Mango あり、前者は Eastern Quality を以つて荷造したる Firsts の優良品とも謂ふべきもの、後者は Northern Quality を以つて荷造したる Lightnings に外ならざること、第六章、第二節に於て述べた如くである。

更に White Jute に對し Red Jute とも謂ふべき Tossa 及び Daisee の特種の麻あり、Tossa は一般茶褐色を帯び Cutings 少なくして強靱なるを特色とし、其作柄と需給の關係により時々變動ありと雖も Firsts に比し、一俵 Rs 2/1 高なるを普通とす、Daisee は甲谷陀附近に産する褐色の黄麻にして水氣多く強力乏しき缺點あるも、纖維比較的長くして Cutings 少なく Lightning と略ぼ同値にあるを常態とする。

Rejection は Sleeping 不良又は Damage の爲めに品質粗悪にして黄麻として最下位にある。Hearts に選別することを得ざる所謂屑麻として Morah に仕譯したる Straight Moringing Rejection と Morah に仕譯せず荷造したる Habby Jabby Rejection とあり、Cutings は黄麻の選別仕譯に當り切り取りたる根の部分にして主として其の長さにより Naraingunge Cutings.

Ordinary Cutting, Mixing Cutting 等の等級に細別す。

左に土人 Baler の品質標準 (Native Standard of the quality) に基き各等級の相場を示し、等級間の値開きの参考とせらる。

等級	(一九二八年八月一日現在)
1. Rebs	Rs 85/-
2. Dacca	Rs 34/-
3. Tossa	Rs 81/-
4. Tirsts	Rs 79/-
5. Daisee	Rs 74/-
6. Mangos	Rs 72/-
7. Lightnings	Rs 72/-
8. Hearts	Rs 64/-
9. Tejections	Rs 45/-
10. Cuttings	Rs 23/-

#### 第四節 黄麻の商標

##### 第一項 一般の商標

輸出業者又はプレス、ハウス (Press House) とは輸出向黄麻の仕譯選別及 Pucca Bale 荷造 (輸出向荷造を) 行ふ所なりは分類せられたる品質に従ひ夫々各自の定めたる商標を附して輸出するものである。

其の各自の商標は甲谷陀黄麻包装組合に登録せられたるものにして、其数は數千に達し、毎年七月一日前後に同組合から發行せらるゝ登録簿に登録されてないもの及ロンドン並にダンデー、黄麻組合に登録されて居ない商標は取引上公然と使用することは認められない。

而して右登録せられたる商標を附して三箇年間苦情が起る事なく英國向完全に輸出せられたるものは倫敦黄麻組合より特にグローブ商標として認められる。而して此のグローブ商標の包装者は後日問題が生じても何等責任を負ふ必要がないことになつてゐる。

之に反して然らざるものは他日問題の發生の場合には包装者自身責任を負ふと云ふ保證書を買手に商品賣渡と同時に提供せねばならぬ。故にグローブ商標を無保證書商標と謂ひ、然らざるものを保證書付商標と謂はれてゐる。

此の無保證書商標として認められたることは、品質が確實にして信用するに充分であると云ふことを倫敦黄麻組合に依つて裏書せられたることなるを以つて、市場に於ける信用は益々加はり、取引が非常に圓滑に行はれ少々高値にても安心して買ふ事が出来る。

斯くの如く非常な特典を附與せられて居るので各自品質の精選に努め、商業道德を重じ益々向上する次第であるが、萬一にも品質粗悪なる場合には直ちに倫敦黄麻組合は之を取消して下ふ。

##### 第二項 代用商標

グローブ商標以外の普通の商標がグローブ商標の代用として取引せらるゝ場合がある。換言すればグローブ商標でな

い他の總ての商標は代用たり得ることが出来る。其の代り次の如き條件を附せられる。  
 保證書附商標が無保證書商標の代用として賣られたる際、若し苦情が発生したる場合は賣手は同商品の標準品よりの差額を賠償する外、更に賠償金額の五割を罰金として支拂はねばならぬ。之に反して單に保證書附として賣られたる際は苦情發生の時にても品質の標準品に對する差額丈の賠償にて済むものである。

尙ほ一つの方法は前記の登録せられざる商標を附することは認められないが、特種の商品にて極めて少ない例ではあるが、若し已むを得ず登録されない商標を使用することを希望するものには左の條件にて許可されてゐる。  
 賣手は其の商品が登録されてゐる商標と同品質の物にても一噸に付十志丈値引せねばならぬ。若し品質が劣つてゐる場合は責任は賣方にあつて、即ち買手は組合に依つて不良品たることを認められ且つ裁定價格が決定せられたる註文品價格との差額を辨償させることが出来る。

又不良品が一噸五十志以上の劣等品であつた場合は裁定日より五日以内に送狀を出荷主、即ち賣手へ返送する手續をなし、其の不良品たることを組合に依つて認められた日、又は裁定價格決定の當日に於ける契約品の市價に噸當り十志丈加へたる額を賣方より賠償させることが出来る。

### 第三項 標準商標

標準商標はグロープ商標とは別物であつて甲谷陀黄麻包装組合に登録された商標は全部標準商標である。即ち商標夫れ自身の品質を標準として、其の商標を以つて賣買せられたる時は之を標準商標と謂ふ。要するに他の商標の代用として賣買せられざる限り總て標準商標である。そこでグロープ商標が標準商標たり得ることは勿論である。


### 第四項 最高商標と最低商標

輸出業者は前記の黄麻の標準に付、自己の商標を定めて居る事は前述の通りであるが、更に商標を品質により上等品、下等品に區別する。而して、此の上等商標、下等商標を表す爲めには習慣に依つて上等商標に對して「Z」或は又上等品、下等品、平均品質なる事を表すには「Z/E」或は「D/E」を用ふ。


今 First の  に例を採れば

(A) Top Mark  2

(B) Bottom Mark  3

(C) Equal assortment (取合せ)  2/3

而して (C) は (A) と (B) との兩品質が一俵中に等分混じて居るものではない。

即ち  2/3 と云ふベツカペール(輸出向荷造の意)はない

(C) 百樵の賣買ありたる時は (A) は五十樵 (B) は五十樵の引渡あるものゝ意味である。

### 第五節 黄麻の相場

黄麻相場の變動は需要供給の關係に基くものであることは勿論であるが、更に相場變動の原因となるべき種々の材料を考察して、進退を決する人氣作用により騰落を招く方が遙かに其の程度大なりと云はれてゐる。左に主なる相場變動

の原因を掲ぐれば、其の大體を知ることが出来やう。

(イ) 收穫豫想

印度政府が毎年七月上旬發表する植付反別の豫想及び、九月中旬發表する收穫高の豫想は其の年度に於ける黄麻の供給力を推定するに、最も有力なる材料となるが故に、其の増減は直に需給の大勢を決するものとして、市況に重大なる影響を及ぼすものである。

(ロ) 出廻高と在荷高

Loose Jute (粗製黄麻)は七月中旬より出廻り初め十、十一、十二月を其の最盛期として以後六、七月に至り漸次減少するを通例としてゐる。奥地よりの出廻り多きに拘らず海外よりの入註及び甲谷陀工場の買付少なき時は、甲谷陀市場に於ける在荷を増して相場軟化し、奥地よりの出廻少きに反し、工場の買付及び海外の輸出商談旺盛なる時は甲谷陀市場に於ける在荷高は激減し、相場昂騰の氣配を示すに至る。

(ハ) 甲谷陀工場の進退

黄麻全産額の六割を消費する甲谷陀工場の進退は、各工場の買持原料の多少と製品賣約高等によりて決するものであるが、其の買付振り如何が黄麻の市況に最も直接、且つ重大なる影響を與ふことは言を俟たざる所である。

(ニ) 輸出の消長

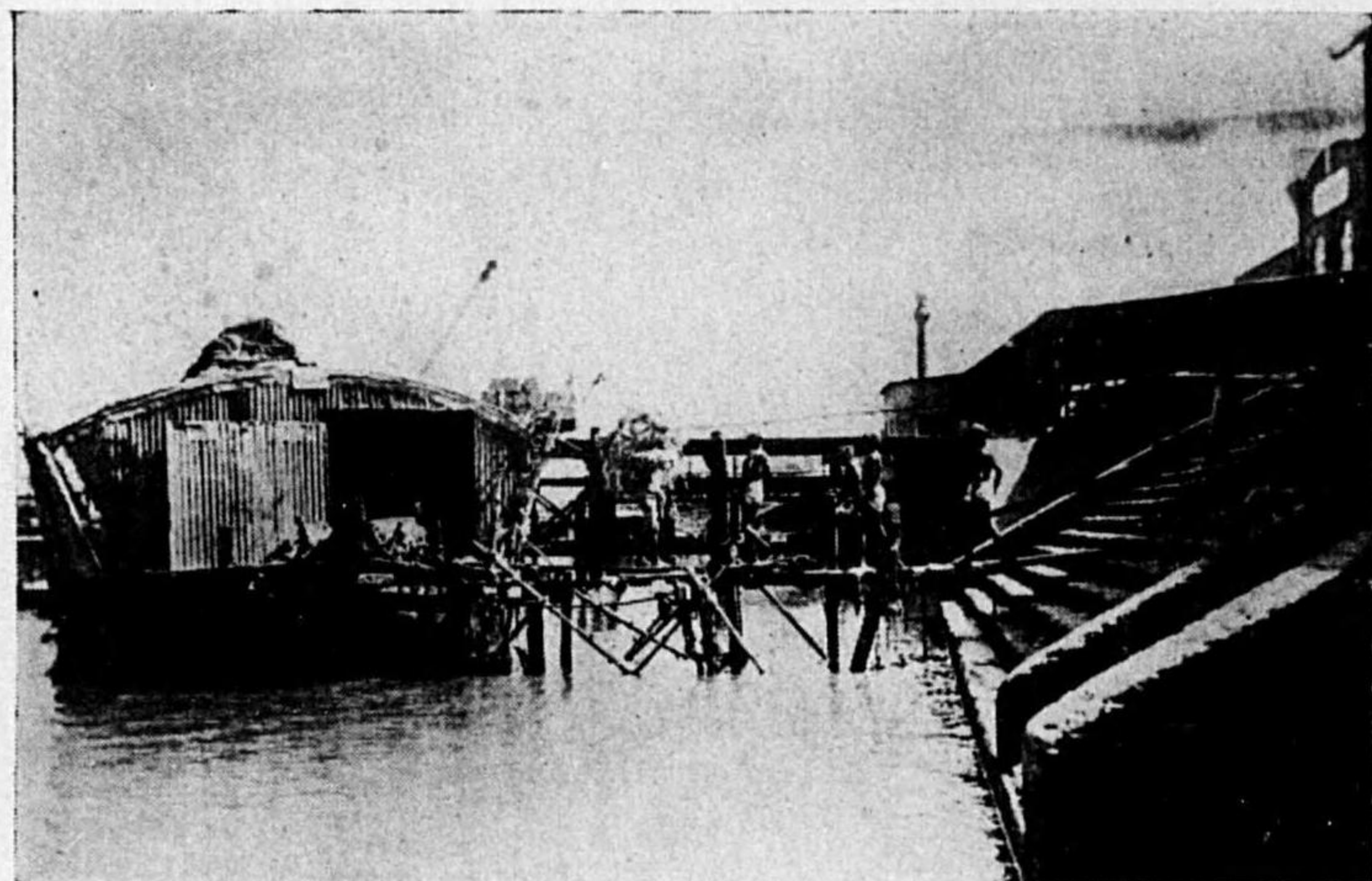
黄麻全産額の四割を使用する海外各需要地よりの入註は Shipper (輸出業者) 及び Baler (輸出向荷造業者) の買氣に密接なる關係を有し、甲谷陀工場の進退と共に相場騰落の一主因たるを失はず、殊に全輸出高の八割五分を占むる歐洲の中心市場たる倫敦の向背は Shipper 及び Baler の最も注意すべき所である。



市場へ搬出状況



黄麻輸送用の舟



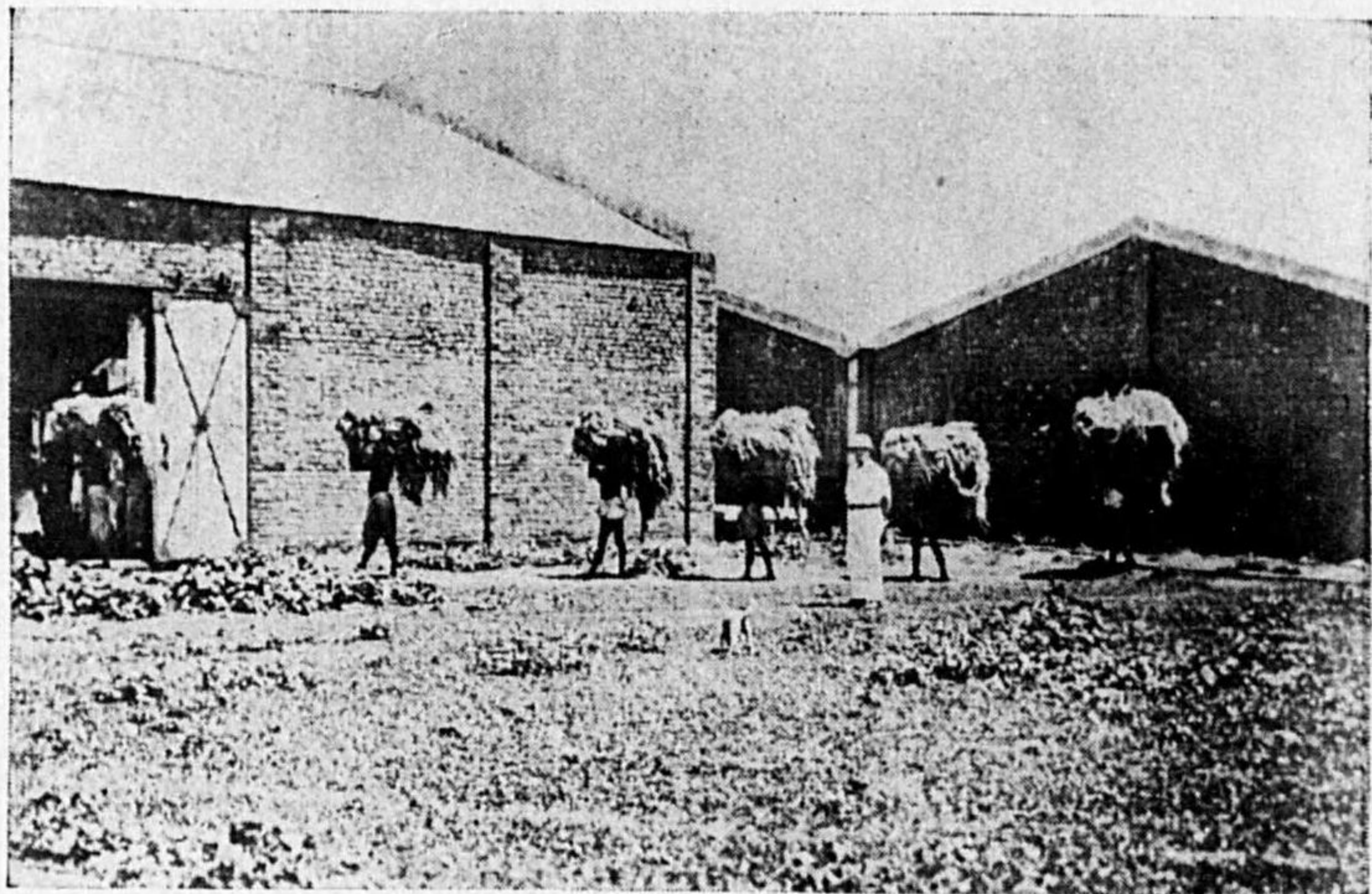
況 狀 揚 陸 へ 場 工 り よ 舟



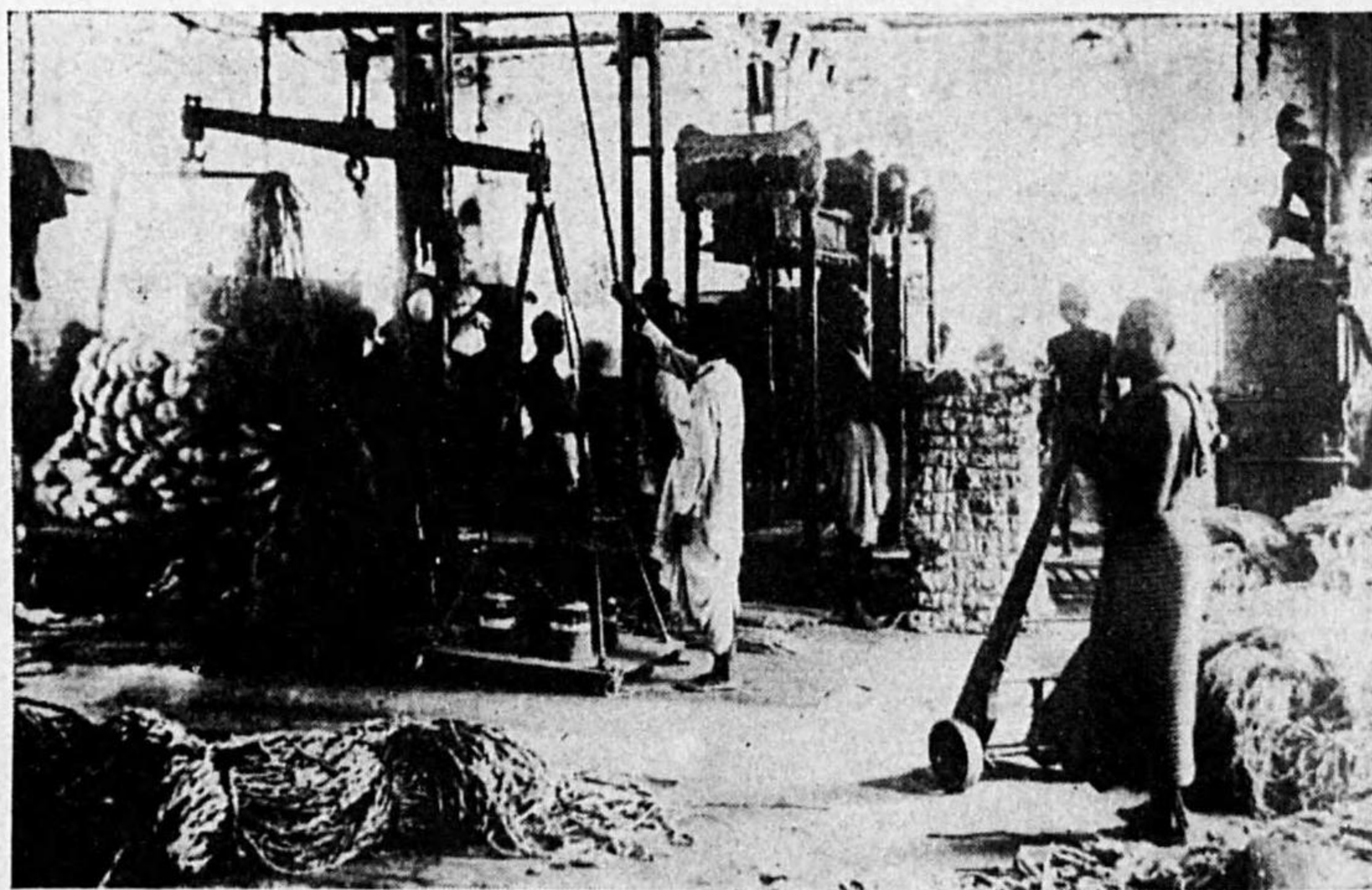
別 撰 の 麻 黄



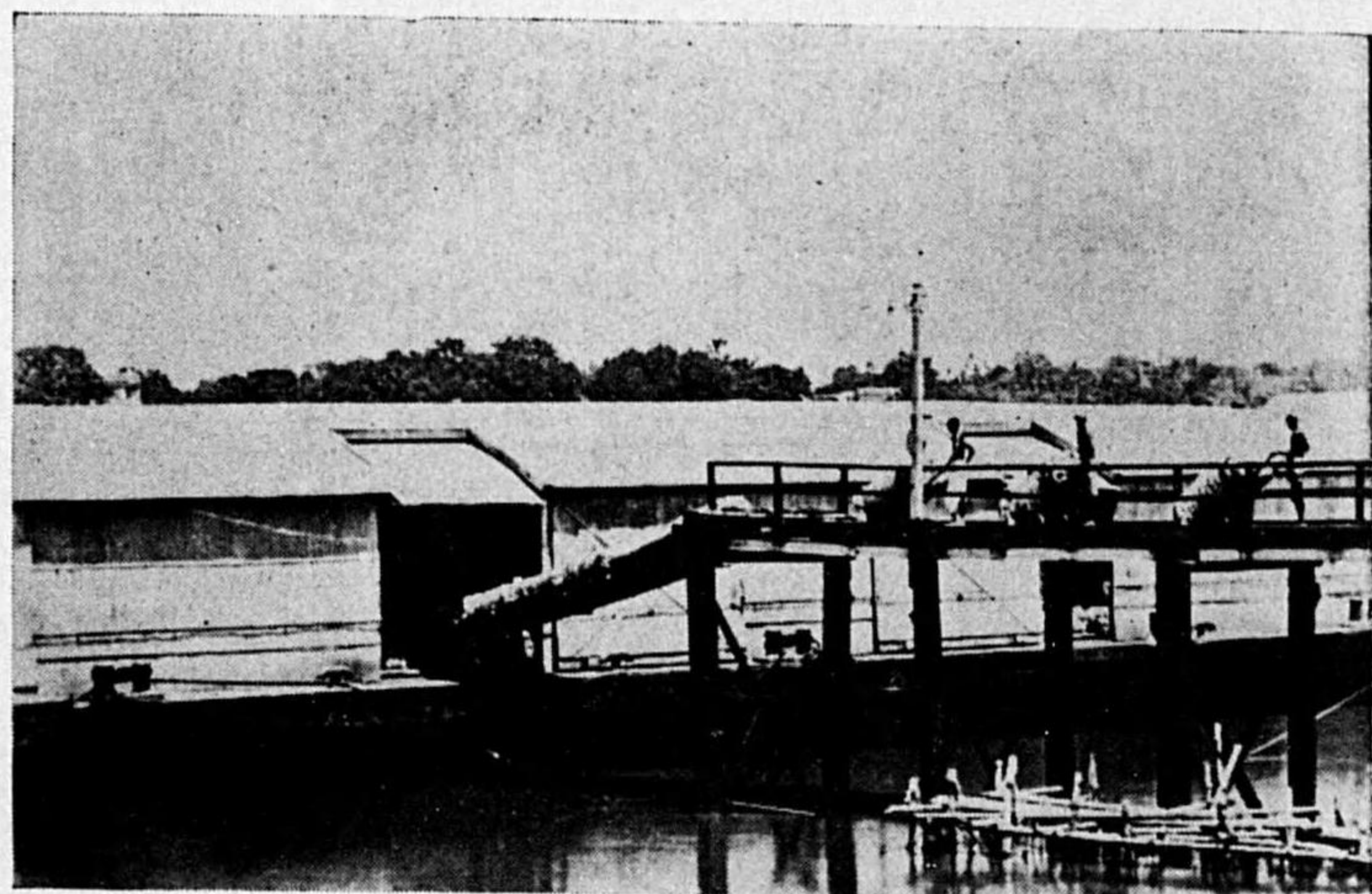




況 状 る す 入 搬 へ 室 搾 壓



況 状 る せ 造 荷 て し 搾 壓



入搬庫倉頭埠の麻黄輸出



業作替積車舟の麻黄

(木) 製品の市況

麻布、麻袋等の製品の市況が原料たる黄麻の相場と不離の因果関係を有することは今更説明の要なき所である。

(へ) 定期市場

現在の Fata 市場（カルカッタの一市場名）に於て現品の受渡を認むと雖も其目的は依然として往時の如き差金取引にありて黄麻の取扱に直接關係なき者に至るまで取引をなす現状なれば其仕手關係及人爲的策動が豫想外の變動を來し健實なる一般市場を攪亂することは決して稀ではない。

## 第六章 印度に於ける地方集散市場

### 第一節 主要集散市場

黄麻産地に於ける主なる集散市場は次の通りにして、孰れも河川又は鐵道により甲谷陀の中心市場に搬出するに便利なる地である。

A、東部ベンゴール地方に於ける主要集散市場

1. Faridpur
2. Chundpur
3. Narayangunge
4. Dacca

### 第一編 麻袋の原料

第一編 麻袋の原料

- 5. Akhaura
- 6. Mymensing
- 7. Natrakona
- 8. Sarisabari
- 9. Serajgunge

B、北部ベンゴール地方に於ける主要集散市場

- 1. Siliguri
- 2. Haliabari
- 3. Jalpaiguri
- 4. Bogra
- 5. Goalpara
- 6. Dohor
- 7. Dinaipur

第二節 市場の組織

地方集散地に於ける市場の組織は、各地方により自ら異なるも、先づ三種に分類することが出来る。

(イ) 常設市場

賣手は市場内の店頭で栽培者より買集めたるまゝの麻束、又は上中下三等品に大別したる麻束を陳列して買手の來たるを待つ常設のものである。此の市場に於て取引せらるゝ黄麻は荷造を施さざる散荷にして、東部ベンゴール市場は多く之に屬する様である。

(ロ) 市場なきもの

市場なき地方に於ては Mahajan 及び (一種の仲買人) Mill (工場) Shipper (輸出業者) の出張員は事務室、荷造場を兼備する倉庫 (Premis) を有し、多年密接なる關係ある Bepari を通じ、或は栽培者より直接に黄麻の買付に従事する。Akhaura 及び Mymensing 地方は此の方法による者が多し。

(ハ) 麻市

麻市は常設市場と異り定時に開かるゝ一時的市場である、此の麻市は二種あつて一つは毎日開かるゝもの、他の一つは一週間に二回乃至三回開かるゝものである。Bengal, Bihar, Orissa, Assam, の麻産地に共通する組織となつてゐる。前者の適例は Goalpara にして毎朝十時頃栽培者及び Bepari は河岸の空地に集り、競賣の形式を以つて取引を行ふ。後者は地方の中心市場の附近にある小市場に於て一週數回、日を定めて行ふ大道市にして地方の中心市場に居住する Mahajan 及び Mill, Shipper 出張員が出掛けて買付をなす、之を Hat と謂ふ。

第三節 取引方法

各地市場は其地方特有の商慣習あるを以つて、其の取引方法を一律に論ずることは不可能なれば、左記各組織を有する代表的市場に就き取引方法を略記することとする。

(イ) Netrokona

Netrokona は東部ベンガールの一大中心市場たる Mymensingh より鐵路約三時間の所にある常設市場である。買手は先づ賣手を其の店頭を訪ひ、現品を検査したる後商談を進めるものとしてゐる。

此の地方の建値は八七 $\frac{1}{2}$ 封度に相當する目方を基準とする。黄麻の受渡しに付いては計量器を用ひず、買手專屬の「コイヤル」と稱する計量人が約 5 Seers 宛に縛られたる麻束の數を計算し、斤量不足及び品質粗悪のものを排却して總量を計算する。賣手は 100 Maunds (1 Maunda = 82 $\frac{1}{2}$  lbs.) に付 20 Seers の目引と 100 Maunds に付き 4 Annas の計量人手數料とを買手に與へ代金の授受を行ふのである。

(ロ) Akhaura

此の地方は常設市場の設備なきを以て、買手は豫め Bepari 又は直接栽培者に相當の前渡金を與へて黄麻の買出に従事する。従つて此の買付方法には所要の品質を有する麻を得られざる不便と、前渡金回収不能の危険を伴ふものなるを以て充分なる注意をなすを要する。重量は買手の倉庫に於て計量器を以つて行ふ。賣手は前項と大同小異の目引を買手に與ふるを一般の商慣習として居る。

(ハ) Coalpari

此の地方の取引は河岸の空地に於て競賣の方法により行はれ、買手は直に看貫の上現品の引取をなすを要す。代金は總重量より 1 maund に付き 1 seer の目引を控除したるものに對して支拂ふ、建値の重量單位は約九〇 $\frac{1}{2}$ 封度に相當す。

第四節 甲谷陀に於ける諸例

第一項 Loose Jute の荷造

地方集散市場より甲谷陀に出廻る黄麻は一俵約 1 maund の Drum 又は 1 $\frac{1}{2}$  maunds 或は 3 $\frac{1}{2}$  maunds の Kutcha Bale に荷造せられたるものにして、此等を輸出向の Pucca Bale と對し、Loose Jute と總稱す。Drum は栽培者が各自其の收穫せる麻を手締めにより左圖の如く大鼓形に荷造したるものにして、品質の選別を行はざるを以つて一定の等級を設くること困難なれども、Kutcha Bale は地方集散市場に於ける Premis 所有者が各自の定むる標準に従ひ、品質を選別の上壓搾機により長方形の荷造を施したるものなるを以つて自から一定の等級がある。

Drum



Kutcha Bale



第二項 Kutcha Bale の等級

Kutcha Bale の等級は年々多少異り、且つ、其の品質の標準及び名稱は *Bale* により相違あるを以つて、一概に論ずることを得ざるも一九二七、二八年度産麻に就いて用ひられたる等級及び名稱は左の通りである。

2s	.....	Twos
3s	.....	Threes
4s	.....	Fours
R	.....	Rejections
TR	.....	Terrible Rejections
HJR	.....	Habby Jabby Rejections

TR の代りに BR を用ひ、或は R の次に直ちに HJR に相當する等級に SR を使用する者あるを以つて等級と名稱とに依り、直に其の品質の標準を知ることが得ざるを以つて、Kutcha Bale の取引に當りては豫め各 Bale の品質標準を知ることが必要とする。各等級間に於ける値開きは出廻數量、在荷の増減、需給の状態により異なること勿論なるも、普通 1 maund に付き Rs 1/7 乃至 Rs 1/8 の値開とす。

往時は Kutcha Bale の品質標準を示す Hessian Warp and weft. Sacking Warp and weft. 及び Cutting の割合を用ひ、賣手に於て其割合を保證して取引を行ひたるも、現在に於ては單に Standard of the Mark の條件にて賣買せらるゝ爲め、往時に比し却て品質標準の明瞭を缺く憾みあり、之が爲め昨今 Loose Jute の商人間と Loose Jute Dealer's Association を組織し、往時の如き取引條件に改正せんとする議起り、實行方法講究中なれば近く實現を見るであらう。



(一) 造 荷 の 麻 黄



(二) 造 荷 の 麻 黄

往時行はれたる Kutchha Bale の等級及び名稱の一例を参考までに掲ぐれば左の如くである。

Ones.....	Hessian 80%	Warp 15%	Cutting 5%
Twos.....	Hessian 57%	Warp 40%	Wett & Cutting 10%
Threes.....	Warp 70%	Wett & Cutting 30%	
Fours.....	Warp 40%	Wett & Cutting 60%	
Rejections.....	Wett & Cutting		

Loose Jute 取引の形式は奥地 Baler との間における Kutchha Bale の先物取引と甲谷陀市場における Drum 及び Kutchha Bale の現物取引とに大別することを得る、以下順次之を説明する。

### 第三項 奥地物取引

奥地物取引は常に甲谷陀に於ける仲買人を通じて行はれる。仲買人は單に賣買を仲立するを原則とするも、買手に於て賣手を信用せざる場合は自ら契約の當事者となり、契約履行の責に任ずることがある。従つて仲買手数料も一定せずと雖も多くの場合歐羅巴の仲買人は一%、土地の仲買人は四分の三%にして總て買手の負擔となる。奥地物の取引條件左の如し。

#### (イ) 品 質

品質は黄麻の收穫年度、産地方名、Bale 及び Mark, Kutchha Bale の等級を指示し “Standard of the Mark” の條件にて賣買せらる。

#### (ロ) 荷 造

一俵約  $1\frac{1}{2}$  maunds と約  $3\frac{1}{2}$  maunds の二種の荷造あれども取引の最も多きは後者である。兩者共に壓搾機により締めたる Jute Rope 掛けの長方形裸荷造にして小俵は約六立方呎、大俵は約十三立方呎半ある。

(ハ) 建 値

建値は買手の指定したる工場の荷揚場又は Press House の倉庫渡条件に依る 1 Calcutta Bazar maund 建とす。1 Calcutta maund =  $82\frac{2}{15}$  封度(買手が驛渡貨車乗条件にて荷受する時は、荷卸賃及指定物所までの運搬賃として賣手は 1 maund に付き 1 annas を建値より値引するものとする。

(ニ) 受 渡

受渡は船荷證券又は鐵道貨物引換證を以つて行ふ。

(ホ) 積 期

單に積月を以つて約定したる場合は其月の末日まで、積出期限を特定したる場合は其期日までの船荷證券又は鐵道貨物引換證の日附あるものを有効とする。

(ヘ) 重 量

買手の指定したる工場又は Press House に到着したる際に行ふ改貫重量を以つて受渡重量とする。但し、公認計量人が各荷口に付き10%を檢量して得たる平均重量を以つて最終とする。

(ト) 保 險

運送中の保險は賣手の負擔なること勿論なれ共、買手が保險代理店を營む場合は賣手は買手に當該保險會社に附保することを許す。

(チ) 支 拂

賣手が European Baler なる時は、船荷證券又は鐵道貨物引換證交換に金額の代金を支拂ひ改看に際し、重量不足する時は之に對する代金の返還を受くる。賣手が Native Baler なる時は船荷證券又は鐵道貨物引換證引換に代金全額の九割を支拂ひ、改貫の上残額一割を精算授受す、一口の約定數量二五〇俵以上の場合には二五〇俵以下の一部荷渡に對し、其都度代金の支拂を行はなす。

(リ) 不 履 行

賣手が契約條件に従ひたる積荷書類を買手に提出し得ざる場合は、買手に左記方法を任意に選擇することを得

- (一) 無條件にて契約を解除す。
- (二) 賣手をして棄約値段と契約滿了當日の相場との差額を支拂はしめ契約を解除す。
- (三) 賣手の要求に基き一定の期間契約の履行を延期す。

(ヌ) 苦 情

苦情問題は總て Bengal chamber of commerce の規定する Arbitration により解決する。此の Arbitration の決定は最終にして賣買兩當事者を拘束する。

第四項 現 物 取 引

甲谷陀に於ける Loose Jute の現物市場内に保管倉庫を有する Arader と稱する商人が地方の荷主より Drum 及び Kutcha Bole の委託を受け、委託主より一定の手數料を受入れて現物の受託販賣を爲す所にして、甲谷陀に於ける主なる Loose Jute の現物市場は左の如くである。



第一編 麻袋の原料

- Hatkola Bazar
- Fulbagund Bazar
- Bagh Bazar
- Sham Bazar
- Chitapore Bazar
- Cossipore Bazar
- Uladinghi Bazar

此等の市場に於ける取引は豫め、現品を検査したる上商談を進め、商談成立の時は其の當日又は翌日直に受渡を行ふものなるを以つて契約書の交換をなさず。又買手が直接買付に當るものと仲買人を通じて買付をなすものと兩様あり。賣手が仲買人に支拂ふ手数料は普通 1 maund に付 6 pies とす。

(イ) 建 値

建値は賣手の倉庫渡し條件に依る 1 Calcutta Bazar maund ( $28\frac{2}{15}$  封度) 建なるを以つて、工場又は Press House までの運搬賃は買手に於て負擔する。

(ロ) 重 量

現品取引に際し、賣手が倉庫内に於て買手立會の上、賣手方が行ふ看買を以つて受渡重量とする。

(ハ) 支 拂

工場又は Press House に現品の到着したる後直に現金を支拂ふ事になつてゐる。

第五項 黄麻取引に関する商業機關

(1.) Indian Jute Mills Associations

印度に於ける黄麻工場組合にして一八八四年設立せられ、組合工場の利益の増進を圖り、保護發達に努め、輸出状態需要地の状態に鑑み生産を調節し、職工の幸福の増進等、工場相互の統一を計るを目的として設立せられたるものである。

(2.) Calcutta Baled Jute Associations

甲谷陀に於て取引せらるゝ包装せる黄麻の統一を圖るを目的として、設立せられたる機關にして、包装黄麻の取引關係者に依つて組織せらる。

(2.) Jute Dealers Associations

甲谷陀に於ける歐洲人の黄麻取引商人に依つて最近設立せられたるものにして、黄麻の輸出貿易の進展を圖るを目的としてゐる。

(4.) Indian Jute Association

黄麻取扱商相互間の一般利益を増進さする目的にて設立せられたるものである。

(5.) Calcutta Jute Balers Association

黄麻取扱商人、荷造工場經營者、輸出業者に依つて一九〇九年に設立せられたるものである。印度に於ける黄麻に関する種々の統計、有益なる通信をなし、需要地の事情の調査又は組合員間に生ぜし問題の解決、組合員對一般取引上の苦痛を處理する等、組合員の向上、發展を計るを目的としてゐる。

### 第五章 印度に於ける黄麻の出廻状況

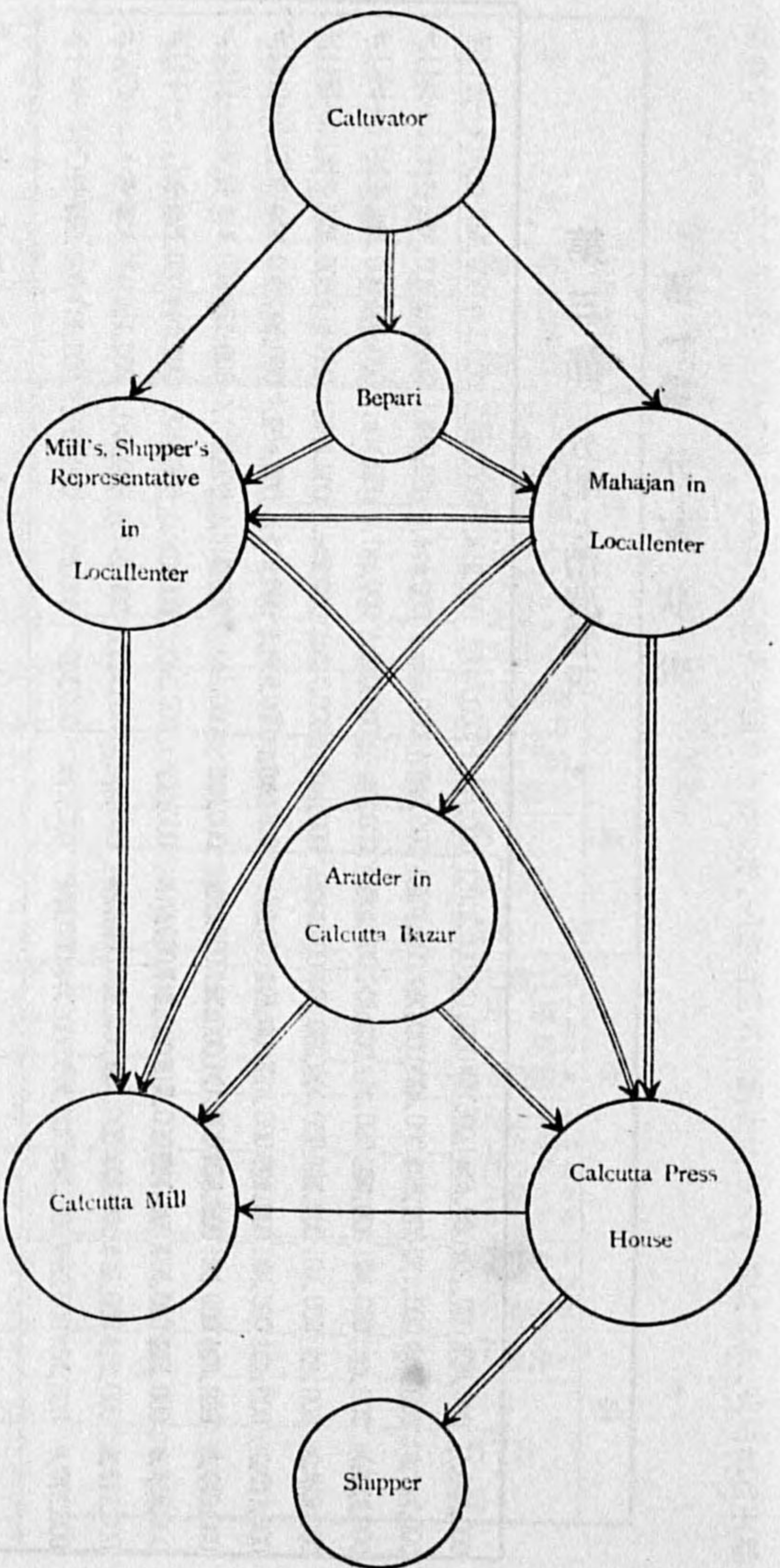
#### 第一節 出廻経路

栽培者によりて抽製せられたる Jute は Drum 又は麻束となし、Bepari 又は Paikaro と呼ぶ仲買商人が Mahajan と稱する有資階級の商人より委託を受け、或は自己の勘定を以て買集め、牛車又は舟によりて地方の集散市場に搬出する。Bepari の買付けたる Jute は Mahajan の倉庫に於て大體の品質選別を行ひ  $1\frac{1}{2}$  maunds 又は  $3\frac{1}{2}$  maunds の Kutcha Bale に作り、或は Drum の儘で Calcutta に倉庫を有する Aratchn に送りて委託販賣に附すか、或は其地方に Jute 買付の爲駐在する Mill 及び Shipper の出張員に賣渡す。

栽培者の有する黄麻は Mahajan より委託を受けたる Bepari の手より買付らるゝを最も普通の経路とするも Shipper 又は Mill の出張員が直接栽培者より買付ける場合が少なくない。Mahajan は Bepari に對し普通前資金を授與し、黄麻の買付をなさしめ、其の買集めたる黄麻に對し、1 maund に付き 1 anna の手数料を支拂ふを普通としてゐる。Shipper 及び Mill の出張員は Mahajan と同様地方集散地に倉庫を所有し、Kutcha Bale に荷造したる上 Calcutta に送附するものとしてゐる。約  $1\frac{1}{2}$  maunds Kutcha Bale を Chota Kutcha Bale (小俵)と云ひ約  $3\frac{1}{2}$  maunds の Kutcha Bale を Bara Kutcha Bale (大俵)と云ふ。

註 1 Standard maunds =  $82\frac{2}{7}$  lbs とす。

上述したる出廻経路を更に圖解して示せば左の如くである。



#### 第二節 出廻時期及出廻額

東部ベンガル (Densal) 地方は例年七月中旬より北部ベンガル地方は八月下旬よりカルカッタ市場に出廻り始め、毎年九、十、十一、十二月の四箇月を其最盛期とするも、市價の高低により出廻の緩急、増減を來す場合が多い。左に一

第一編 麻袋の原料

九二〇年以降に於ける甲谷陀着荷の状態を示し参考とする。

甲谷陀到着黄麻数量累年表

備考、単位は捆、一捆は四〇〇封度

年次	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	合計
一九一九—二〇年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000
一九二〇—二一年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000
一九二一—二二年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000
一九二二—二三年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000
一九二三—二四年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000
一九二四—二五年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000
一九二五—二六年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000
一九二六—二七年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000
一九二七—二八年	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	1,240,000	14,880,000

第三節 分配と消費状況

第一項 分配状況

黄麻の産額及其の出廻り状態に付ては既に説明せる通りであるが、之が如何に分配せらるゝやに就いて、次に其の大略

を記さん。

黄麻の分配表 (単位捆、一捆=四〇〇封度)

年次	印度政府最		供		給		分		配	
	想	高	前年度の繰越推定高	カルカッタの到着数量	地方的の送り高	計	工場到着量	カルカッタの輸出	ウブレスの推定数	計
一九二一—二二年	4,530,000	4,530,000	2,500,000	7,400,000	10,000,000	7,400,000	4,530,000	2,870,000	1,530,000	7,400,000
一九二二—二三	4,360,000	4,360,000	3,000,000	7,360,000	9,000,000	7,360,000	4,360,000	2,800,000	1,560,000	7,360,000
一九二三—二四年	4,940,000	4,940,000	1,500,000	6,440,000	8,000,000	6,440,000	4,940,000	2,800,000	1,640,000	6,440,000
一九二四—二五年	4,040,000	4,040,000	3,000,000	7,040,000	8,000,000	7,040,000	4,040,000	2,800,000	1,240,000	7,040,000
一九二五—二六年	4,850,000	4,850,000	2,000,000	6,850,000	8,000,000	6,850,000	4,850,000	2,800,000	1,050,000	6,850,000
一九二六—二七年	4,680,000	4,680,000	2,500,000	7,180,000	8,000,000	7,180,000	4,680,000	2,800,000	1,380,000	7,180,000
一九二七—二八年	4,390,000	4,390,000	2,500,000	6,890,000	8,000,000	6,890,000	4,390,000	2,800,000	1,100,000	6,890,000

即ち近年に於ける黄麻の分配状態は、出廻り高の約六割はカルカッタ工場に荷受けられ、約四割が海外に輸出せらるゝのである。

第二項 消費状態

甲谷陀工場の黄麻消費高は、其の荷受高及び製品の輸出高並に在荷高等により比較的近似の数量を推測することを得べしと雖も、海外各國に於ける黄麻の消費高は、單に世界各國の製品市況と輸出高とにより推定するの外なきを以つて、

黄麻の世界的消費總高を推測することは困難なるも、甲谷陀に於ける一般同業者が比較的正確なる數字として推定せる世界的消費高を示せば左の如くである。

甲谷陀工場の黄麻消費量推定 (單位梱、一梱=四〇〇封度)

年次	前年度繰越 六月末現在高	工場荷受數量 七月より六月迄	供給數量 七月より六月迄計	手持品の數量 六月末現在	消費量推定 七月より六月迄
一九二一—二二年	三、五七五、〇〇〇	四、七七五、〇〇〇	八、三五〇、〇〇〇	三、八五〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
一九二二—二三	三、八五〇、〇〇〇	二、九〇〇、〇〇〇	六、七五〇、〇〇〇	二、一七五、〇〇〇	四、五七五、〇〇〇
一九二三—二四	二、一七五、〇〇〇	五、〇五〇、〇〇〇	七、二二五、〇〇〇	二、二二五、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
一九二四—二五	二、二二五、〇〇〇	四、八七五、〇〇〇	七、一〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇
一九二五—二六	一、九〇〇、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇	七、三〇〇、〇〇〇	一、六五〇、〇〇〇	五、六五〇、〇〇〇
一九二六—二七	一、六五〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	九、一五〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	五、五五〇、〇〇〇
一九二七—二八	三、六〇〇、〇〇〇	六、三五〇、〇〇〇	九、九五〇、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	五、七五〇、〇〇〇

印度以外の工場の黄麻消費量推定 (單位梱、一梱=四〇〇封度)

年次	前年度繰越 六月末現在高	甲谷陀、チタゴン グよりの輸出高 七月より六月迄	供給數量 七月より六月迄計	手持品の數量 七月より六月迄	消費量推定 七月より六月迄
一九二一—二二年	一、〇〇〇、〇〇〇	二、九七五、〇〇〇	三、九七五、〇〇〇	九七五、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
一九二二—二三	九七五、〇〇〇	二、九五〇、〇〇〇	三、九五〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇	二、七七五、〇〇〇
一九二三—二四	一、一五〇、〇〇〇	三、八二五、〇〇〇	四、九五〇、〇〇〇	一、三二五、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇
一九二四—二五	一、三二五、〇〇〇	三、五二五、〇〇〇	五、一五〇、〇〇〇	九二五、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇
一九二五—二六	九二五、〇〇〇	四、八五〇、〇〇〇	六、三〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	四、四〇〇、〇〇〇
一九二六—二七	九二五、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、四五〇、〇〇〇	一、〇二五、〇〇〇	三、四二五、〇〇〇
一九二七—二八	一、〇二五、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	五、五二五、〇〇〇	一、四二五、〇〇〇	四、〇七五、〇〇〇

最近に於ける甲谷陀工場一箇月平均消費量は四十八萬梱、海外工場の一箇月平均消費高は三十六萬梱と推定せらる。

世界各國に於ける黄麻の消費高 (單位梱、一梱=四〇〇封度)

年次	甲谷陀工場に於ける 消費推定量	世界各國工場の 消費推定量	印度内地に於ける 消費推定量	合計
一九二一—二二年	四、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	七、九〇〇、〇〇〇
一九二二—二三	四、五七五、〇〇〇	二、七七五、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	七、七五〇、〇〇〇
一九二三—二四	五、〇〇〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九、二五〇、〇〇〇
一九二四—二五	五、二〇〇、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九、九〇〇、〇〇〇
一九二五—二六	五、六五〇、〇〇〇	三、四二五、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九、五七五、〇〇〇
一九二六—二七	五、五五〇、〇〇〇	四、〇七五、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一〇、一二五、〇〇〇
一九二七—二八	五、七五〇、〇〇〇	四、四〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一〇、六五〇、〇〇〇

### 第八章 印度産黄麻の輸出

#### 第一節 輸出の起源と消長

印度黄麻の海外輸出は、一八二四年に於ける英國向輸出を嚆矢とするも、其の目的は Dandak に於て大麻の代用品と

して使用せんとするにありし爲失敗に歸し、一八三二年初めて粗麻布の製織に成功し、包装材料として使用せらるゝに至つてより黄麻工業は漸次有望視され、各國相踵いて工場設立を見るに至つた。初めて英國へ輸出せられたるは一八二八年にして僅か一八噸であつたが、前記一八三二年粗麻布製織に成功してより一躍一八二噸に増加し、一八五一年には二九、一二〇噸の激増を見るに至り、戦前迄は毎年三十萬噸に達する輸出高を示すに至つた、尙ほ其外獨逸に十八萬噸、米國へ十六萬噸、佛國、オーストリア、伊太利、西班牙の順に輸出せられ、最近に於ては八〇〇、〇〇〇噸(四五〇、〇〇〇捆)の黄麻を年々海外に輸出する盛況を見るに至つた。一九一二年以降に於ける黄麻(Jute)屑物(Rejection)切屑(Cutting)の輸出年高を掲げ、輸出の消長を窺へば次の如くである。

黄麻輸出高累年表 (單位捆、一捆=四〇〇封度)

年次	黄麻 (Jute)	屑物 (Rejection)	切屑 (Cutting)	合計
一九二二—二三年	四、四〇三、〇一三	八五、五九五	二九八、九五五	四、七八七、五六三
一九二一—二二年	三、六三四、二六六	七九、八六五	二七五、七五〇	三、九八九、八八一
一九二〇—二一年	二、六一八、七八五	七七、二七八	二八三、〇八四	二、九七九、一四七
一九一九—二〇年	二、七五七、〇九四	八二、五〇四	二七七、二四二	三、一六八、四〇〇
一九一八—一九年	二、四九三、七五〇	八八、九二六	二三七、三九一	二、八二〇、〇六七
一九一七—一九一八年	二、九四四、一七三	一三四、一五一	三〇〇、四〇一	三、三七八、七二五
一九一六—一九一七年	二、〇三九、〇一七	六一、三五〇	二七二、八七六	二、三七八、二四三

年次	黄麻 (Jute)	屑物 (Rejection)	切屑 (Cutting)	合計
一九二二—二三年	三、六二七、六二五	一五七、一〇六	二〇三、二八四	三、九八八、〇一五
一九二一—二二年	二、五六七、四〇〇	一五三、四二五	一九七、九九三	二、九一八、八一八
一九二〇—二一年	三、三四二、四六七	一七一、四九五	二七二、七四二	三、七八六、七〇四
一九一九—二〇年	三、四六八、五五二	一六六、九三一	一八八、〇五三	三、八二三、五三六
一九一八—一九一九年	三、一三四、三九〇	一七六、二二四	二〇四、三五二	三、五一四、九六五
一九一七—一九一八年	四、〇二二、九八二	一七五、七二〇	二五一、八〇二	四、四五〇、五〇六
一九一六—一九一七年	四、四六〇、二五〇	一六九、三六〇	二七六、六〇〇	四、九〇六、二一〇

第二節 輸出の時期

黄麻は毎年七月中旬より甲谷陀市場に出廻り初め、九月より十二月までが其の最盛時期である。爲めに海外への輸出も亦九月より翌年一月の間が最も殷盛を極め、其の以後は翌年の新物出廻を見るまで漸次減少するのを普通としてゐる。甲谷陀に於ける Jute 市場は二月二十日より九月限の新麻取引を開始するも、一般市場に於ては六月初旬頃より新物取引を始むるを通例としてゐる。七、八、九月後物には新舊兩麻あるを以つて、端境期に於ける取引は新麻(New crop)と舊麻(Old crop)とを區別する必要がある。

註 端境期とは、出廻期、最盛期、端境期、閑散期と云ふ如き出廻用語である。

今甲谷陀、チタゴングより輸出せる最近年間に於ける月別數量を掲ぐれば次の如くである。

黄麻輸出月別表 (單位捆、一捆=四〇〇封度)

一九二六—一九二七年度

月次	黄麻 (Jute)	屑物 (Rejection)	切屑 (Cutting)	合計
七月	九四、八一八	四、二五二	七、一二七	一〇六、一九七
八月	一四一、九二一	八、九〇九	四、八四〇	一五五、六七〇
九月	三〇二、二七九	一六、九六五	一四、七八九	三四四、〇三三
十月	四八〇、七九一	二四、七一一	二六、〇二八	五三一、五三七
十一月	四三九、六五二	一九、七七八	三四、三二一	四九三、七五一
十二月	五八六、一四一	二二、六三四	三〇、四一四	六三九、一八九
一月	五〇〇、九五九	二九、九二八	二八、二七一	五五九、一五八
二月	三九六、八三〇	一三、六〇七	三六、二五七	四四六、六九四
三月	二九六、〇九二	一〇、九〇五	一九、〇一七	三三六、〇一四
四月	三三八、四〇八	七、四三三	二〇、二三八	三五六、〇七九
五月	二四三、〇一八	二二、七四〇	一六、〇七三	三三三、九九八
六月	二二二、〇七三	三、八五三	一三、九〇七	二七四、二三二
合計	四、〇三三、九八二	一七五、七二二	二五一、八〇二	四、四五〇、五〇六
一九二七—一九二八年度	一七一、三三八	七、二二六	七、〇三〇	一八五、四八四
七月	一三九、四九四	一五、四八九	八、二二六	二六三、一〇九
八月				

月次	合計	合計	合計	
九月	四三八、六六二	五三、七〇一	三七、〇五七	五二九、四二〇
十月	四八七、九七二	一五、四七八	三四、一六七	五三七、六一七
十一月	五四三、七六二	二二、三八三	四二、四〇一	六〇九、五四六
十二月	六七八、九〇七	二七、一五四	五一、二四七	七五七、三〇八
一月	五〇一、六八六	九、〇一一	三三、九七一	五四四、六六八
二月	二八〇、五二七	六、六〇三	一一、六四八	二九九、七七八
三月	二六六、四二二	五、二七六	一〇、三五七	二八二、〇四五
四月	二五三、二八〇	二、五一九	一三、八九三	二六九、六九二
五月	三三三、九九八	一、八四二	一四、八四七	三四〇、六八七
六月	二七四、二二二	一、七七八	一〇、八五六	二八六、八五六
合計	四、四六〇、二五〇	一六九、三六〇	二七六、六〇〇	四、九〇六、二一〇

第三節 積出手續

第一項 積出指圖

一、積出指圖書

一設市場に於て使用せらるる、Calcutta Baled Jute Association の契約書の取引條件は、賣手は買手より積出指圖書を受けたる日より三日以内に現品を Alongside することを要すと規定せるを以て、受渡期日に達したる契約書を Alongside せしめんとせば、買手は少くとも中間三日（休日を除く）餘裕を附したる積出指圖書を、賣手宛に發行するを要する。

例へば一九二八年五月渡の黄麻を其月の最終就業日五月三十一日に Alongside せしめんとする時は、廿七日の日曜日及び廿九日三十日の公休日を除き、正味三日間を廻りたる五月二十四日までに積出の指圖をなすことを要す。

水路解船によりて積出さるゝ場合は、解船が本船船側に到着したる時、陸路荷車によりて積出さるゝ場合は、荷車が税關上屋又は船渠倉庫に到着したる時を以て Alongside の時とし、Alongside の時より二日間（休日を除く）以内に本船に積込まざる場合は、其時以後の解船碇泊料又は上屋倉敷料は買人の負擔なるを Calcutta Baled Jute Association 規定の條件とするも、事際は賣手に於て相當の期間は之等の費用を負擔するを慣例としてゐる。

一口の積出數量は二五〇俵以上なる事を要するを以つて特約なき限り二五〇俵以下の積出指圖は "Under boat load" (註、少量にては損失を招くが故にと云ふ意味の用語) として賣手に於て拒絶することを得。

## 二、積出案内書

Baler が買手の積出指圖に應じ、契約品を積出したる場合は積出品の明細及船番號、荷車番號を記載したる積出案内書を發送する。これを Boat note 又は Advice note と云ふ。積出案内書を受取りたる買手が更に之を他に轉賣せる場合は Arrival notice を以つて其買手に積出のありたることを通知する。

## 第二項 通關手續

### 一、輸出申告書 (Shipping Bill)

水路解船に依り積出す場合は、輸出申告書正副二通を作製して先づ之を Port commissioners (港務局) に提出して、River Due を支拂ひて積出許可の檢印を受け、更に之を税關に提出して輸出税の支拂を爲す。輸出税支拂の領收印を受けたる申告書副本は本船に出張せる税關吏 (Preventive officer) に手交するものとす。

Port commissioners は税關の徴收以外の港務一切を掌る半官半民の機關にして海務局又は港務署と謂ふべき性質のものである。港務局に River Due 引當として豫め預金をなし置く時は、申告の度毎に River Due の支拂をなさずして積出許可の檢印を受くる便がある。

### 二、輸出依頼書 (Export Challan)

陸路より積出す場合は、輸出申告書の他に Deposit Export Challan と稱する積出依頼書を Port Commissioners に提出して積込事務一切を同局に委任するを要す。水路解船に依りて積出さるゝものにして、積取の關係上一度上屋又は船渠倉庫に陸揚の必要を生じたる場合は、前段と同様其の積込を Commissioners に依頼するを要す。此の場合荷主に依りて積込を依頼する書式を Dock Challan と謂ひ、船會社又は其代理店の依頼する書式を Marine Challan と謂ふ。

### 三、輸出保證狀 (Letter of guarantee to Preventive officer)

正規の輸出申告が間に合はざる場合は、本船に出張せる税關吏宛に關稅及公課の支拂保證狀を提出して、輸出の許可を受くることを得。此の場合は荷物積込後四十八時間以内に、正規の輸出申告書を税關に提出することを要す。

### 四、積戻申請書 (Reland Application)

輸出申告の終りたる荷物にして積出を中止したる場合は、現物は税關吏の證明を得て、本船の出港認許當日より五日間以内に、積戻申請書を税關集金課に提出し、關稅拂戻の手續をなす。

### 五、積荷明細書 (Statement of Shipment)

積出を終了したる時は、本船の出港認許の當日より十日以内に、積荷明細書正副二通を作製して、港務局に提出しなくてはならない。港務局は之を船會社より提出の積荷目録 (Manifest) に對照し、誤記なきことを確めたる上、River Due

積荷諸掛及上屋倉敷料等の精算を行ふ。輸出申告者が上記期間内に積荷明細書の提出を怠りたる時は、一日一件に付二留比の科料を課せられる。

通關手續に當る現物員は、豫め之を港務局に届出で其承認を受くる必要がある。之を Licensed Circurs と云ふ。

第三項 輸出税及び港務局諸掛

一、輸出税及公課

黄麻の輸出に當り、支拂を要する關稅及公課は左の通りである。

項	目	單位數量	稅率		
			黃	麻	物切
港務局諸掛	河口稅	二、二四〇封度一噸に付	一留比四安	一留比四安	一留比四安
	出稅	四〇〇封度一ペールに付	四留比八安	四留比八安	四留比四安
	關稅	四〇〇封度一ペールに付	二安	二安	二安

即ち Jute 及び Rejections の輸出税及び公課は一俵に就き Rs 4-13-7 として Cuttings は一俵に就き Rs 1-9-7 である。

二、港務局諸掛

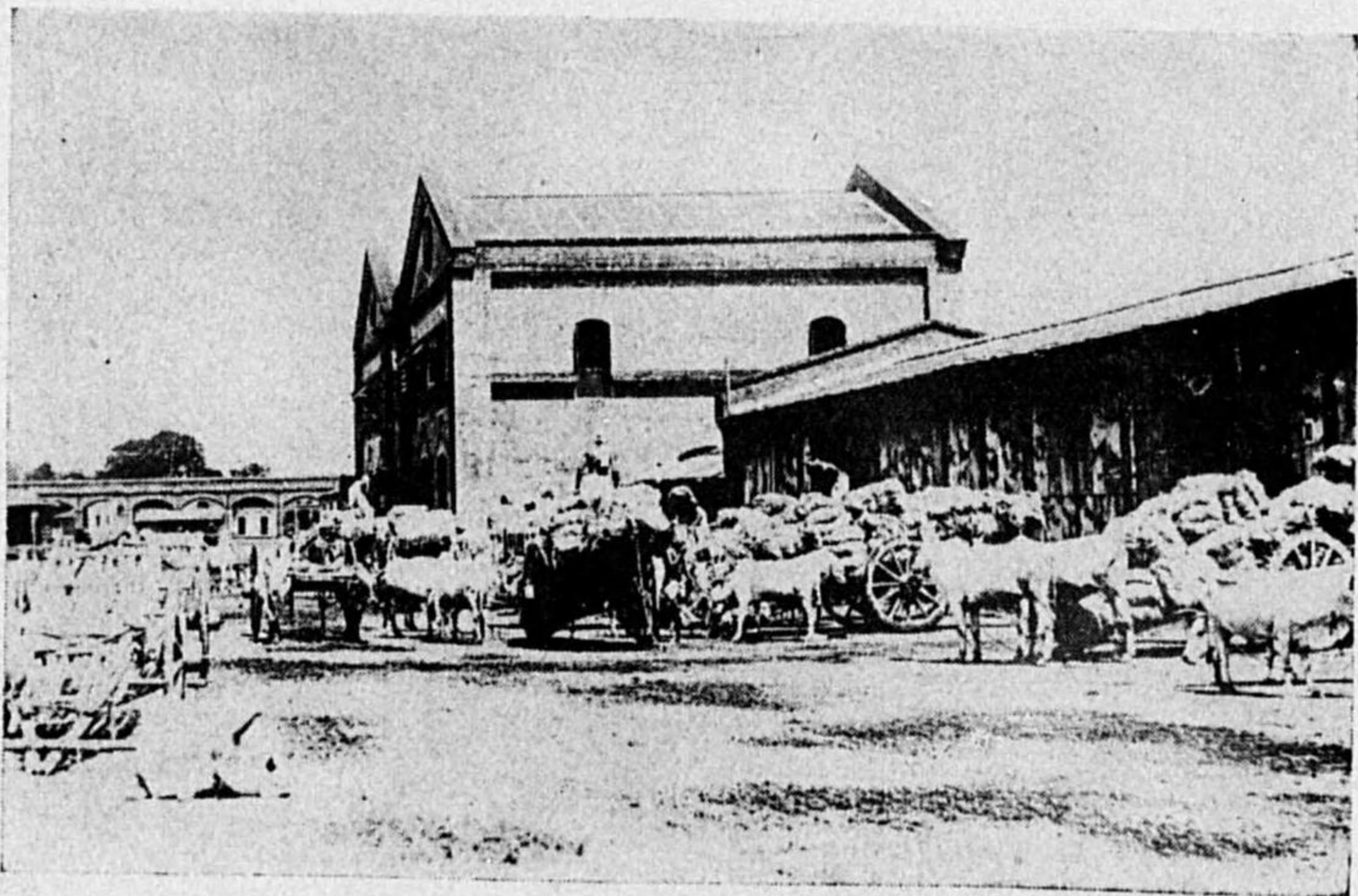
陸路より積出をなす場合は、積込事務一切を Port Commissioners に委任する。Port Commissioners の規定せる諸掛は左の通りにして、其の積込諸掛は「F.S.S」條件の建値中に含まれる。

港務局諸掛

イ、荷降し費用は船積費用の三分の一



(人度印) 力苦搬運麻黄



業作の力苦



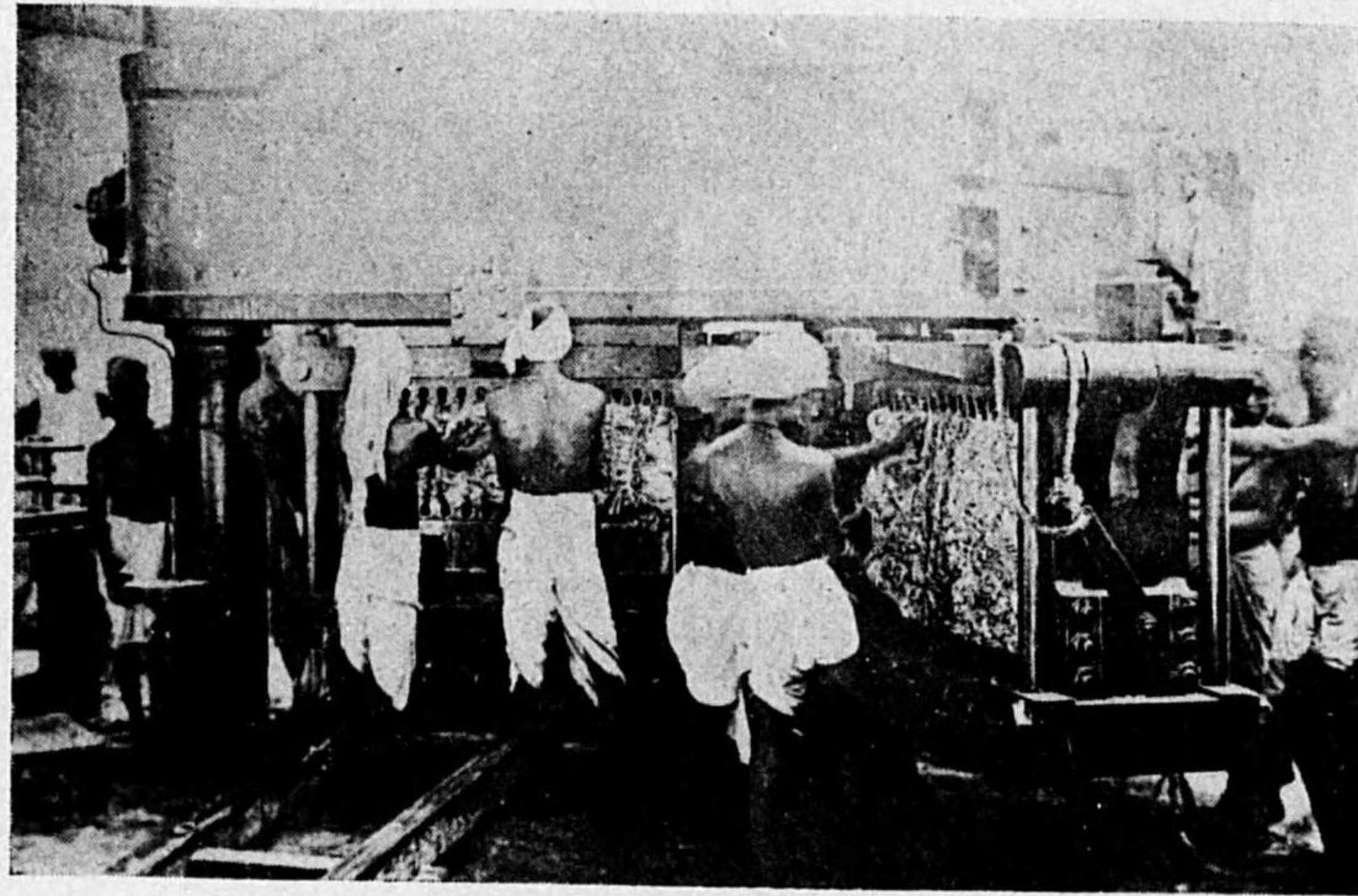


麻黄るれば運へ室搾歴

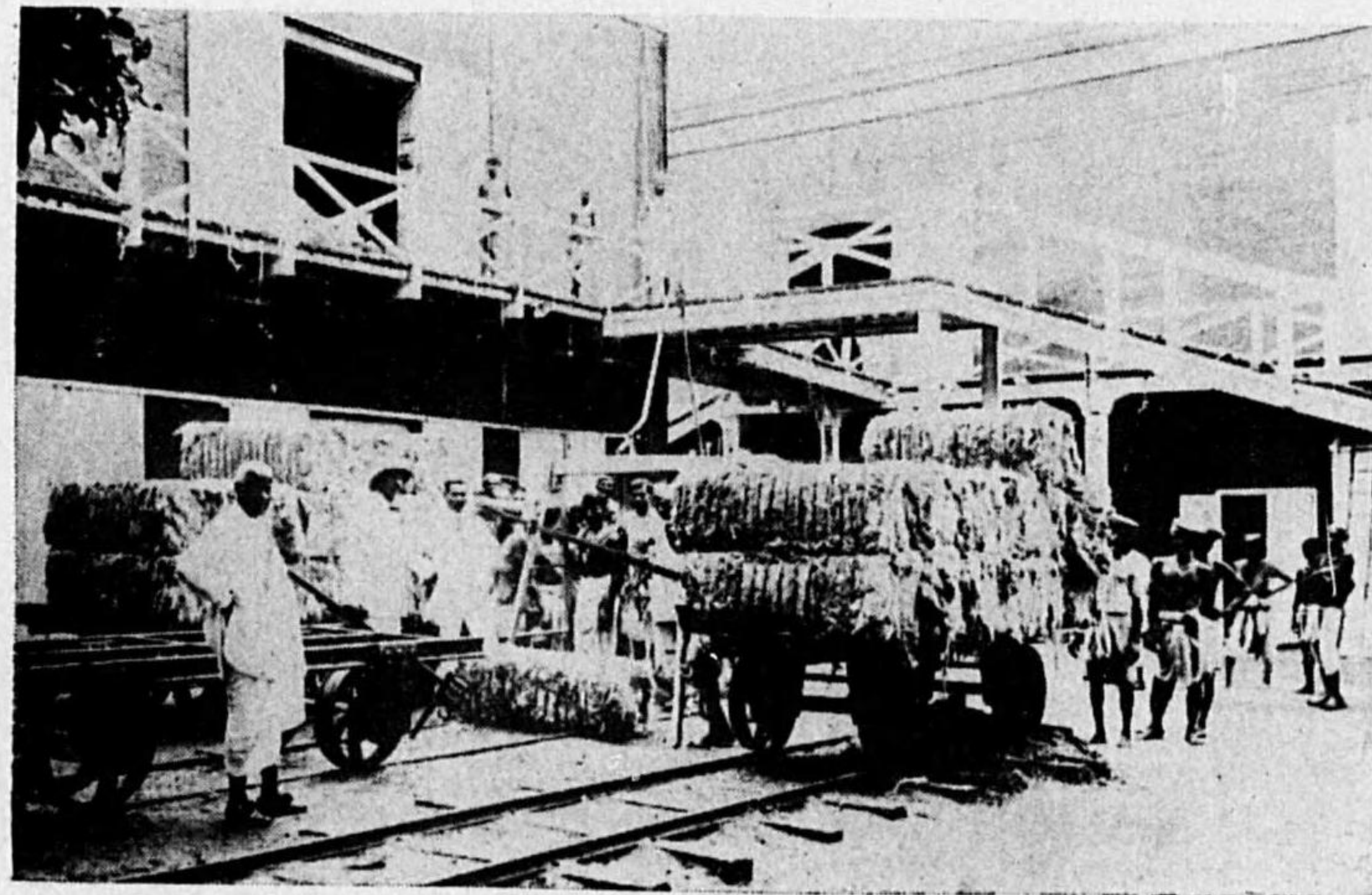


所るへ揃を麻てに庫倉

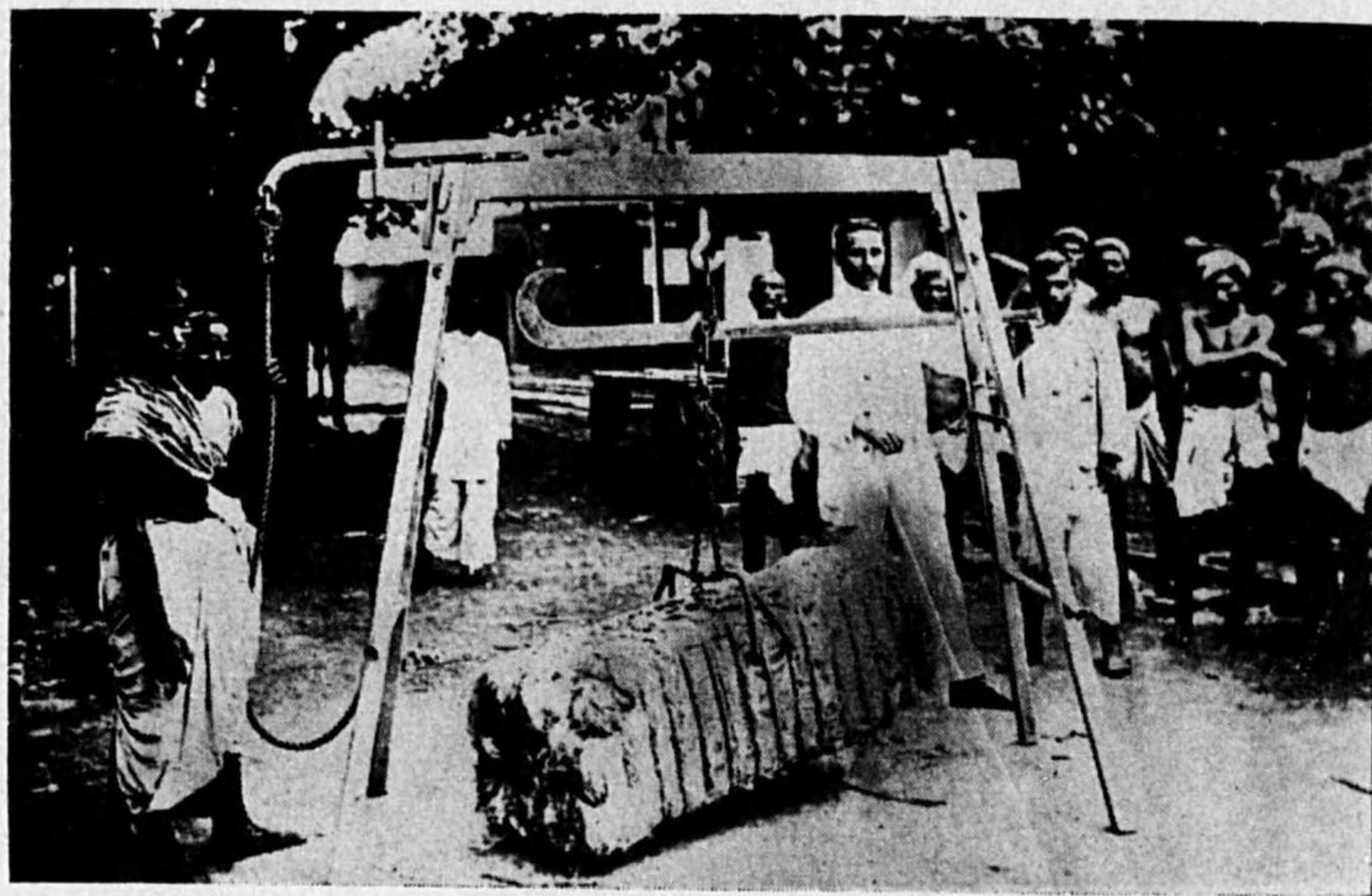
北



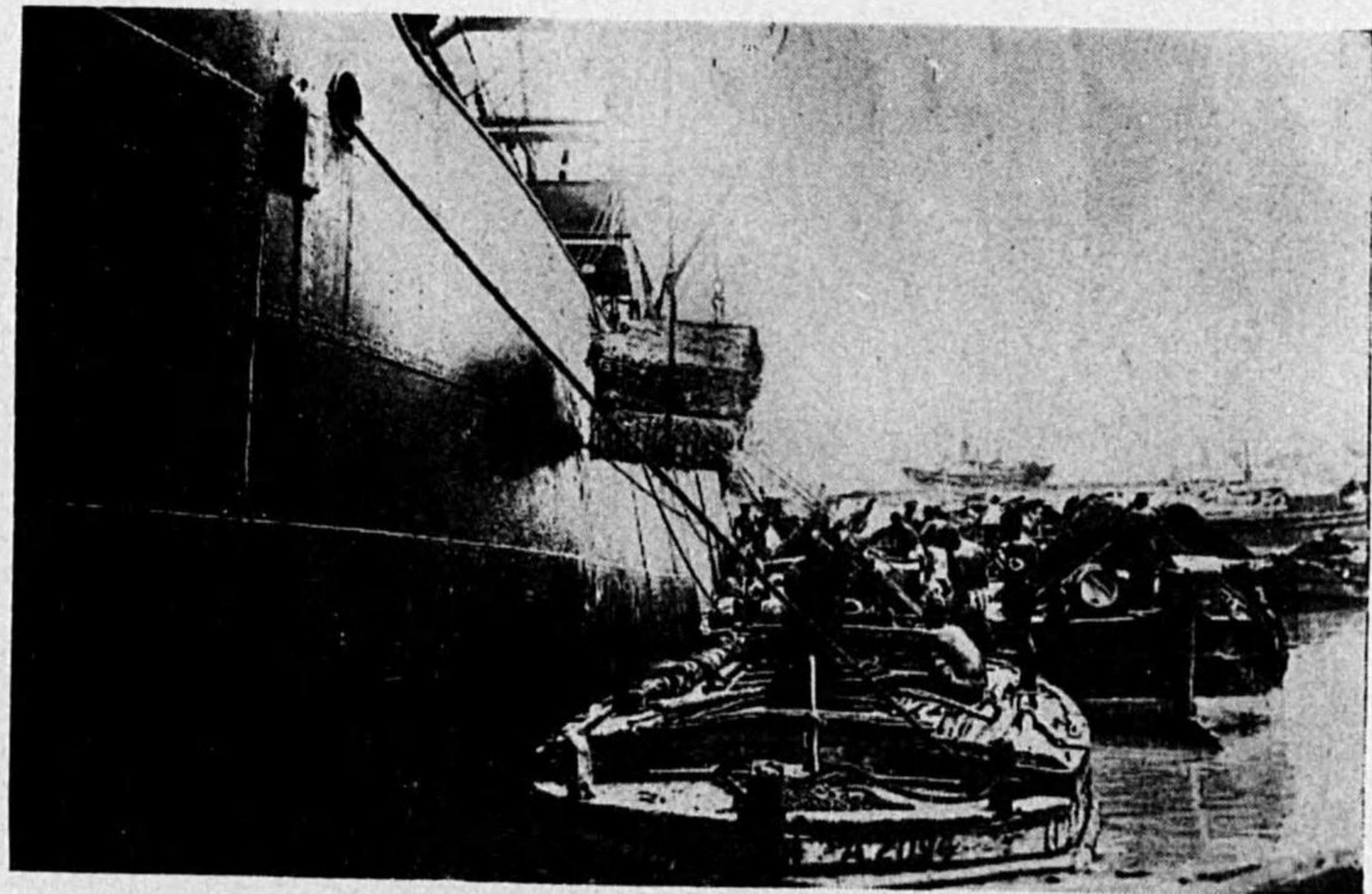
況 状 搾 壓



所 る 計 を 方 目 の 麻 黄 出 輸



器量計の麻黄



況状込積船本



ロ、船積の費用は一梱に付 Rs. 0-4-0  
ハ、上屋使用料

(一) 輸出前上屋使用料は一週間、若しくは二週間以内は船積料の二五%

(二) 手續遲滞せる爲の保管料は一週間若しくは二週間以内一梱に付き Rs. 0-20-0 三週間以内一梱に付き Rs. 0-3-0 四週間以内は Rs. 0-4-0 其の後は一週間毎に Rs. 0-6-0

(三) 倉庫に空所無き場合の上屋使用料

a. 倉庫より上屋へ移し、該上屋より船積せる場合は一週間乃至一週間以内一梱に付き Rs. 0-1 $\frac{1}{2}$ -0.

b. 指定の上屋に荷卸をなし、該上屋より船積せる場合は一週間乃至一週間以内一梱に付き Rs. 0-2-0.

c. 甲の上屋にて荷卸をなし、乙の上屋に移し、該上屋より船積せる場合は一週間乃至二週間以内は一梱に付き Rs. 0-3-0. 三週間及其の後は (一)の場合と同じ。

ニ、検査の爲の解荷手数料は一梱に付き Rs. 0-8-0

ホ、荷揚費用は一梱に付き Rs. 0-4-0.

#### 第四節 仕向地及輸出高

黄麻の仕向地として最大のものは歐洲大陸諸國にて、全輸出高の六割を占むると雖も、其の買付は倫敦の商人を經由するものが多い。次は英國の二割五分にして其の九割までは倫敦に仕向けられる。米國は Hessian cloth の需要地として第一位を占むるも、黄麻は僅かに全輸出高の一割二分乃至一割四分を算するに過ぎない、日本、支那、濠洲、其他諸

國向け輸出は合算して三分内外の状態にあり、従つて全輸出高の八割五分を占むる歐洲諸國の向背が、甲谷陀工場の買付と共に如何に黄麻の市況に著しき影響を與ふるかを知るであらう。

左に黄麻各國向輸出高累年表を示してその一般を窺ふこととする。

黄麻仕向地別輸出高累年表 (單位捆、一捆=四〇〇封度)

仕向地	年次										
	(七月より六月迄)	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
ダン	一、三三〇、六五五	一、八四〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
ロンドン	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
リバープール	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
ハンブルグ	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
ブレンメル	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
アントワープ	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
ダンケルク	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
マルセイユ	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
ボローネ	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
トリノ	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
ポルトガル	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
その他	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
合計	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇

仕向地	年次										
	(七月より六月迄)	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
アムステルダム	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
ベルギー	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
フランス	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
ドイツ	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
オランダ	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
その他	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
合計	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇

日本及支那各港向輸出高表 (單位捆、一捆=四〇〇封度)

次年	種類	神戸	大連	香港	上海	高雄	基隆	其他	合計
年五二・年四二九一	Jute Rejection Cuttings 計	50,166 4,264 5,264 5,264	3,950 1,400 1,400	6,566 10 6,566	2,767 5,264 10,031			2,767	6,965 80 1,473 1,473
年六二・年五二九一	Jute Rejection Cuttings 計	4,100 1,100 4,100	10,833 3,400 11,750	2,955 100 2,955	1,766 2,610 2,296	1,000			6,021 5,264 6,965
年七二・年六二九一	Jute Rejection Cuttings 計	4,264 1,100 4,264	6,965 100 6,965	7,066 100 7,166	2,266 2,266 2,266				6,965 5,264 5,264
年八二・年七二九一	Jute Rejection Cuttings 計	4,264 10 4,264	1,473 2,264 1,473	8,264 200 8,064	2,264 6,965 2,264			7,166	6,965 11,750 10,031

## 第九章 滿洲産 纒麻

### 第一節 纒麻の植物學上の特性

學名 アブチロンアビセンネ (*Abutilon avicennae*, Gaertner)  
 英國名 インデアナムロー (*Indian mallow*)  
 支那名 纒麻 (ケイマ) 青麻 (チンマ)  
 日本名 苧麻 (パウマ) 別名 イチビ、キリアサ

纒麻は錦葵科に屬する一年生草木にして、高さ六、七尺に成長し、葉は心臟形をなし、花は五萼、五瓣、其の色黄色である。莖を結び内には多數の種子を含む。栽培の目的とするものは莖の靱皮纖維である。  
 纒麻の纖維は白色にして光澤可なるも、其の細美の程度と強力に於ては大麻及び亞麻に及ばずして黄麻に近い。而して染色の容易なる點は遙かに黄麻に優つて居る。主として黄麻の代用品として麻袋、麻布、麻絲等素繩類の原料として用ひられる。

### 第二節 纒麻の主要産地

纒麻の原産地は明瞭ではないが、印度の西北部シンド (Sind) 及びカシミヤ (Kashmir) 地方に於て自生されると云ふ。支那にては古來より栽培し、其の最も多く産するは四川、直隸地方で滿洲に於ては遼河一帯 (遼河、太子河及渾河の沿岸) 地方に限られ産出されてゐる。

滿洲産織麻に關しては其の參考資料殆んどなく、産地事情及び年産額等を記すること困難なるも、遼陽地方の特産商によりて調査したる所に據れば、遼河一帯に産する織麻は年産額七百萬斤乃至一千二百萬斤にして、而かも年に依り非常なる差異があると云はれてゐる。之が原因は主として印度黃麻の相場により製麻業者の買付高が常に一定せず、織麻の相場安きときは耕作を手控ることあり、又織麻は水を多量に要する植物なるが故に、旱天等の爲枯死、又は發育不全となり、且つ渇水の爲め水洗ひ不能に陥ること等あり、更に需要地が殆んど限られてゐる關係上、相場は常に叩かれ勝にて農夫の収益少なき爲め、自然雜穀耕作に移り易く、雜穀耕作に適せざる地に不承々々に栽培する傾向がある。之れ即ち織麻産額の増大せざる所以である。

今參考までに大正九年以降に於ける遼陽驛發送の織麻の數量を掲ぐれば左の如くである。

遼陽驛發送織麻數量累年表

年次	數量(噸)	斤換算
大正九年	四九三	七四五、四一六
大正十年	五〇三	七六〇、五三六
大正十一年	六五九	九九六、四〇八
大正十二年	六九九	一、〇五六、八八八
大正十三年	三、三〇六	四、九九八、三六九
大正十四年	四、三四八	六、五七四、六三〇
昭和元年	四、四三二	六、七〇一、三五五



織麻の結實せるもの

昭和二年  
昭和三年

七、六二四 一一、五二六、八八三  
五、一六四 七、八〇七、三六三

### 第三節 滿洲に於ける繸麻の栽培

繸麻は温帯の氣候に適する植物であるが、其の種子は寒氣其の他の天然障害に對して甚だ強きを以つて、其の栽培は頗る容易である。我邦に於ては五月の上旬乃至六月上旬を以つて播種の適期としてゐるが、滿洲にては毎年三、四月頃解氷を待つて直ちに播種し、下種してより三箇月乃至四箇月を経て莖の下部に黄色を呈したる時收穫するを普通としてゐる。取入に際し鎌にて根本より刈取るものは稀で、大概は根のまゝ引抜き莖を束ねて池又は小川に浸し、七日乃至十日にて完全に醗酵作用の行はれたる後靱皮部を剝離し、直ちに洗滌して纖維以外の物質を除き乾燥するのである。

### 第四節 滿洲繸麻と印度黃麻の採算比較

繸麻(原俵の儘) 目減り及使用不能部分二五%乃至三〇%

黃麻(原俵の儘) 目減り及使用不能部分一〇%

印度黃麻百斤 十五圓の場合、原料費は十六圓六十七錢となる。

滿洲繸麻百斤 十二圓の場合、二五%の目減と見て原料費十六圓となる。

故に印度黃麻 Native Heart (一俵三百斤) 四十五圓の場合、繸麻百斤の相場は十二圓位と見て差支へない。

内地及滿洲に於ける製麻會社は製袋の場合三〇%位の繸麻を混織するを普通としてゐる。而して日本内地に於ける繸



麻混織麻袋の価格は印度織麻袋より一枚一錢位高値とされてゐる。尙ほ織麻は麻袋、麻布混織用として需要せらるゝ外、繩用とし又電気絶縁用として、日本の需要は漸次増加しつつある状態である。此の點に於て印度物より優良視されて居る故、將來益々需要が増加さる傾向である。

## 第二編 印度に於ける黄麻工業

### 第一章 黄麻工業の沿革

英領印度に於ける黄麻工場は英人ジョージ、アクランドが一八五五年初めてピシラ(Bishra)に工場を設立せしものゝ以つて嚆矢とする。アクランドが始めて甲谷陀に來りしは一八五三年にして、當時製紙業に従事せし彼は土人が黄麻を手にて紡ぎ手機に掛けて布を織るを見て織維を利用して安價な且つ良質の製紙を得んと苦心研究の結果、翌年製紙機械と之に要する資本とを得る目的にて英國に歸りたる處、當時英國ダンデーにては既に印度よりジュートを輸入して麻布の製出せられつゝあるを見て、直ちに製紙事業の研究を捨て、ダンデーに於て當時有力なりしジョン、ラーレーなる人の後援に依り、印度に於て黄麻工場を建設することとなり、茲に數臺の製織機械と紡績機械とを購入して、二人の息子と數人の技師等を同伴して再び印度に渡來し、愈々ピシラにジュート工場を設立し、一八五五年初めて機械の運轉を見るに至つた。然るに如何なる事業に於ても創設者の酬ひらるゝ事尠き例に洩れず、成績頗る面白からず、遂に一八六七年ピシラの工場を閉鎖するの已むなきに至つた。

アクランドの後を受けて事業の繼續を計りたるはジョージ、ヘンダーソンにして彼は一八五九年 Bornese Jute Co. なるものを設立し、初めて力織機を使用し、事業着々好成績を收め多大の利益を擧げ、一八七二年に至り株式組織に變更して "Baingre Jute Manufacturing" Co. と改稱した。

茲に於て黄麻工業は漸く世人の注意を惹くに至り續いて "Gouripie, Serangunge, Jute Mill" の三會社の設立を見た。

Baingre Jute Manufacturing Co. は Borneese Jute Co. を引受け、後僅か半箇年にして一割五分の配當を爲し、其の株式は七十%のプレミアヤムを生ずるに至り、一八七三年には二割五分の配當をなし、他會社の利益も亦之に伴ひ、黄麻工業が其當時如何に利益を擧げ得たるかは此れに依りても窺ひ得られる。

各社斯の如き好成绩なる爲、黄麻工業は資本家の注意を惹き一八七二年以來新會社續々と興り一八七五年迄に新らしく設立せられしもの實に左の十三社を數ふるに至つた。

- Eard Glosar.
- Budge. Budge.
- Sibpore.
- Champlany, (Registered in England)
- Samnunggur. (Registered in England)
- Howrah.
- Oriental. (Now Union)
- Asiatic. (Now Soorah)
- Clive.
- Bengal Pressing & Manufacturing Co.
- Kustormger. (Now Central)
- Ganger. (Registered in England)
- Hastings.

斯くの如き濫設の結果織機數一、二五、より一躍三、〇〇〇臺に達し、茲に生産過剰を來し、當初資本家の嫉視の

焦點たりし「Baingre」工場も一八七四年には二割となり、一八七五年には一割と配當は漸落の已むなきに至り、自後十年間は甲谷陀黄麻工業は受難期に入り、總ての工場は非常なる辛酸を嘗むるに至つた。

當時最も悲境に陥りたるは

- Oriental.
- Asiatic.
- Bangel Pressing & Manufacturing Co.
- Kustormger.

等にして是等は辛くも名義變更をなして命脈を保ち、一八七五年に至る迄に唯 Kanahaty Jute Mill 一社の新設を見たるに過ぎぬ、之は輸出商 Jardine Skinner & Co. の經營にして一八七七年に設立せられたものである。

一八八二年には織機數五、一五八臺なりしが漸く黄麻製品に對する需要は増加し十數年間苦境に沈淪せし工場も稍前途に曙光を認むるに至り、暗黒時代を切抜けたる各工場は鋭意經營法の改良、新機械の輸入、職工の訓練等に意を注ぎ着々改善の歩を進めし結果事業の成績は更に擧り、茲に再び黄麻工場は股盛を極むるに至つた。一八九五年より一九〇〇年に新設せられたる工場數は一、九、機臺數三、九、〇六五を算し、其後歐洲大戰好況時代に恵まれ工場數九十、機臺數五萬餘臺、資本二億二十萬留比、職工數三十五萬、一日の生産高三千噸を超へ茲に製綿工場と共に印度工業の巨擘となるに至つたのである。

尙ほ一八七九年以降に於ける甲谷陀黄麻工場發達の大勢を表に依つて窺へば左の如くである。

工場發達狀態累年比較表

年次	工場數	公稱資本	従業人員	織機數	錘數
自一八七九—一八八四年	二二	二七,〇七〇,〇〇〇 <sub>留比</sub>	三八,八〇〇人	五,五〇〇 <sub>臺</sub>	八八,〇〇〇 <sub>個</sub>
一八八四—一八八九年	二四	三四,一六〇,〇〇〇	五二,七〇〇	七,〇〇〇	一三八,四〇〇
一八八九—一八九四年	二六	四〇,二六〇,〇〇〇	六四,三〇〇	八,三〇〇	一七二,六〇〇
一八九四—一八九九年	三一	五二,二二〇,〇〇〇	八六,七〇〇	一一,七〇〇	二四四,八〇〇
一八九九—一九〇四年	三六	六八,〇〇〇,〇〇〇	一一四,二〇〇	一六,二〇〇	三三四,六〇〇
一九〇四—一九〇九年	四六	九六,〇〇〇,〇〇〇	一六五,〇〇〇	二四,八〇〇	五一〇,五〇〇
一九〇九—一九一〇年	六〇	一一五,一〇〇,〇〇〇	二〇四,一〇〇	三二,四〇〇	六四五,九〇〇
一九一〇—一九一一年	五八	一一五,〇〇〇,〇〇〇	二一六,四〇〇	三三,一〇〇	六八二,五〇〇
一九一一—一九一二年	五九	一一九,三〇〇,〇〇〇	二〇一,三〇〇	三三,九〇〇	六七七,五〇〇
一九一二—一九一三年	六一	一一九,六五〇,〇〇〇	二〇四,〇〇〇	三四,〇〇〇	七〇八,七〇〇
一九一三—一九一四年	六四	一三〇,九二〇,〇〇〇	二一六,三〇〇	三六,〇〇〇	七四四,三〇〇
一九一四—一九一五年	七〇	一三九,四三〇,〇〇〇	二三八,三〇〇	三八,四〇〇	七九五,五〇〇
一九一五—一九一六年	七〇	一三三,二六〇,〇〇〇	二五四,一〇〇	三九,七〇〇	八二二,四〇〇
一九一六—一九一七年	七四	一三九,五五〇,〇〇〇	二六二,六〇〇	三九,七〇〇	八二四,三〇〇
一九一七—一九一八年	七六	一四二,八五〇,〇〇〇	二六六,〇〇〇	四〇,六〇〇	八三四,〇〇〇
一九一八—一九一九年	七六	一四七,七二〇,〇〇〇	二七五,五〇〇	四〇,〇〇〇	八三九,九〇〇
一九一九—一九二〇年	七六	一五六,三五〇,〇〇〇	二八〇,四〇〇	四一,〇〇〇	八五六,三〇〇
一九二〇—一九二一年	七七	一九二,三五〇,〇〇〇	二八八,四〇〇	四一,六〇〇	八六九,九〇〇

一九二一—一九二二年	八一	二二二,二四〇,〇〇〇	二八八,四〇〇	四三,〇〇〇	九〇八,三〇〇
一九二二—一九二三年	八〇	二三二,五〇〇,〇〇〇	三三一,二〇〇	四七,五〇〇	一,〇三三,一〇〇
一九二三—一九二四年	八七	二六八,四〇〇,〇〇〇	三三〇,四〇〇	四九,〇〇〇	一,〇四三,四〇〇
一九二四—一九二五年	九〇	三二二,三〇〇,〇〇〇	三四一,七〇〇	五〇,三〇〇	一,〇六七,六〇〇

## 第二章 黄麻工業現況

黄麻工場は原料の産地が水運に便なるガンヂス河の流域なること及び其の製品は總て甲谷陀港より輸出さるゝ關係上フグリー河の兩岸が最も適當なる地として、即ち八十有餘の黄麻工場は甲谷陀を中心として上流二十哩、下流十五哩の兩岸に散在し此等の工場は更に鐵道に依り繋れてゐる。

黄麻工業に投資されたる資本は實に二億三千万留比に達し、其の大半は印度資本家の投資せるのみならず所謂企業家の投資せる Ordinary Capital, (普通株資本金) Preference Capital, (優先株資本金) の外 Debenture Capital, (借入資本金) の多額なるを見ては、黄麻工業が印度の有凡る階級に其の資本を仰いでゐることを意味し、従つて本工業は單に企業家に有望視されてゐるのみならず、一般資本家にも確實なる事業として認められて居る事を窺知することが出来る。

次に黄麻工業の成績を既往に徴するに、一八七〇年に於ける黄麻工場濫設の結果は二、三の例外を除いては總て經營困難に陥りしも、其後經營法の改良、新機械の使用職工の熟練等により其能率を昂めると同時に一方又製品の需要は漸次増加し來りしため業績漸次好轉し、殊に歐洲大戰に依る價格暴騰の結果意外の巨利を博し一九一五年には十一割、一九一六年には二十七割の配當を爲すものあるに至つた。

其の後一九二〇年に來つた世界的パニックの爲め本工業も亦多大の打撃を蒙り、従つて其の利益も亦減少したりと雖も、尙ほ多くの工場は四割乃至八割の配當をなしつつある現状にて、之れ全く好況時代に多額の積立金を爲し、不斷用意を缺かさりし結果にして些の經營難を感じ居らざること到底他工業に類を見ることは出来ない。

### 第三章 生産狀況

#### 第一節 操業日數及び時間

需要供給調節の目的にて一九一八年頃（戰時中）は一週五日間作業してゐたが、最近は更に一日短縮して四日間作業である。而して職工は一日十三時間半の就業であるが、請負仕事を除いては、同一職工が一日十三時間半連続労働するのは保健上有害なるのみならず、能率減少を來すを以つて先づ職工組み分を三つのグループに分ちて、各グループは一日八時間半又は九時間半働く事としてゐる。即ちAグループは朝五時半出勤、午前九時まで従業し、一時間休憩して更に午前十時より午後三時まで働き其の日の仕事を終る。B、Cのグループも斯くの如くして作業をなし、各グループ共始業時間並に休憩時間を異にし機械運轉に差支なき様にしてゐる。

即ち

- A. 午前五時半より就業午前九時迄一時間休憩午前十時より午後三時迄……………計八時間半
- B. 午前六時より午前十時迄、午後二時より午前七時迄……………計九時間
- C. 午前九時より午後二時迄、一時間休憩午後三時より午後七時迄……………計九時間

工場高級使用人及び技師は總て歐洲人である。機臺一台に就き職工の數は七人乃至八人を普通とし、内二割五分は女子又は年少者とす。

今一八一八年以降月別一週間就業日數表を示せば左の如くである。

一週間就業日數月別表

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一九一八年	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	五	四
一九一九年	四	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二〇年	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二一年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二二年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二三年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二四年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二五年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二六年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二七年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一九二八年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

黄麻製品に對する世界的需要漸増の傾向にあるに拘らず、甲谷陀工場が永年操業日數の短縮により生産制限を繼續せ

る結果、近年歐洲各國に於ける黄麻工場の膨脹を招きて甲谷陀製品の販路を侵略せらるゝ一方印度内地にて新設工場勃かに計畫せらるゝに至りたるを以つて、現在に於ては組合加入の工場も操業時間を延長して、之に對抗せんとする氣運にある。

## 第二節 製造順序

備考 本節末に附せる寫眞を對照して記事を讀めば便利である

各會社の工場に於ける製造順序は、各々其の會社の方針に基き多少の相違はあるが、大方大同小異なれば、今一會社の黄麻工場に就き製造工程を略説する。

同社工場は機臺九〇〇臺を有する。

### (1.) Batching.

(イ) Selection Jute Godown より工場に運び入れたる黄麻を開俵し、之を品質によりて區別する。是に従事する職工は六十人である。

一日の作業高六十五噸乃至七十噸。

(ロ) Softening, Softener 七臺あり開俵されたる黄麻は其纖維硬ければ凹凸のある鐵棒の廻轉する間に黄麻を喰込せて軟くなし、更に水と油を注で一層軟くし Carding (梳る) Drawing (引延す) を容易ならしめる。油は鑛油を用ひ、其水と油との量は、原料の重量に對し油五%、水一五%である。即ち原料百封度を柔軟機に掛け、柔軟機を出た時には目方百二十封度となる。一臺の柔軟機は一日九、十噸の黄麻を柔軟にする事を得る、職工は一臺に五人にして、賃銀は一

週間二留比乃至二留比半とす。

### (ク) Waste Breaker.

Teaserとも云ひ包装に用ひられたるジュートロープ、其他工場に於て生じたる一切の屑を、麻袋製造用緯に用ふる爲め此の機械に掛けて纖維を掃梳り Carding に移す。二臺ありて二臺にて一日八、九噸の仕事をする。職工は一臺毎に十四人を要し、賃銀は一週二留比半である。

### (ニ) Jute Root Comber.

元來黄麻の根の部分は柔軟機に掛けるも尙硬くて、到底麻布の原料とすることは出来ぬ故、根を切り取り、上等の部分丈を Carding に移すものであるが、此の Comber は柔軟機より出た黄麻を互に反對の方向に進むる鎖の間に入れて通過せしめ其の根の部分を軟かくすると同時に、多數の針にてかきむしる仕掛有りて一々根を切るのを省き、針にてかきむしられたる纖維は麻袋製造用緯として Waste breaker より出たるものと共に Carding に移される。本機七臺あり、一臺一日五、六噸の仕事をなす。職工一臺に付六人にして職工一人の賃銀は一週三留比見當である。

### (ホ) Cutting 柔軟機より出でたるものを凸形の刃を植付けられたる臺を用ひて根を切斷する。

### (2.) Preparing.

(イ) Carding 紡績機に移す用意として柔軟機を出た黄麻を此の機械に掛けて纖維を細かく裂くと同時に之を揃へて次の工程に移す爲め帶狀となす。

Carding 〇 Breaker Card と Finishing Card と有り、前者は荒梳にして後者は仕上梳である。

Breaker Card に掛ける黄麻の量は、其の目的により異なる。即ち製袋用緯には三十二封度、麻布、緯絲、經絲、製袋用

経絲には二十八封度を與へる。Breaker Card は二十三臺あり、一臺に要する職工は女子三人、子供一人にして賃銀は一週一留比九安見當にして一臺一日に三噸の能力を有する。

Finishing Card は三十二臺あり、一臺に付二人の男工を要し、一日一臺の能力は二噸である。此の Finishing Card は 3 Pairs Card と 4 Pairs Card とありて、前者は製袋用、麻布用の緯絲、後者は経絲用である。

(ロ) Drawing 此の工程は Carding に引續き纖維を揃へながら引伸すものにして First, Second, Third の 3 Drawing あり、即ち製袋用経絲並に麻布、緯絲、經絲には Third Drawing 迄用ふれ共、製袋用緯絲には Second Drawing にて止める。而して First より Third に至る伸度は各四倍である。引き伸し機械の数は Roving 三臺に付一臺に付き各二人を要し、賃銀は二留比である。

(ク) Roving Roving を出た帶状のものを更に纖維を裂き、且つ揃へて引伸す。此の伸度は八倍である。Roving Machine 四臺ありて各機六十四箇の錘を有する。職工各臺に男女各一人を要し、賃銀一週間三留比である。

(3.) Spinning 即ち Weaving に要する絲を作る處にして紡績機百九十二臺有り、内二十四臺は五十六箇の六吋枠を有し、残り百六十八臺は七十二箇の四吋枠を有す。而して六吋枠は専ら袋用、緯絲用にて四吋枠は麻布、緯絲、經絲並に袋用、經絲用である。職工は四吋枠は一人、六吋枠には二人を要し、一週賃銀三留比である。

(4.) Winding  
(イ) Cap Winding

緯絲を蠟燭形に巻くものにして製織に際し杼 (Shuttle) に入れるに適當なる形となし、織機二十五臺に付普通本機一臺を要す。

(ア) Spool Winding 之れは経絲を Beaming に適する様に巻き直す工程にして織機三十臺に付一臺を要する、賃銀は一週四留比四安見當である。

(5.) Beaming Beaming とは経絲を織機に掛ける様整理する工程にして整經機十九臺あり、Spool Winding にて準備した絲を作らんとする布の中により絲の數を定めて之に糊付をなし、大きな Warp Beam に巻付ける。一日十四 Beam をなす。而して One Beam は袋に付 5—6 Cuts 麻布に付 11—12 Cuts である。One Cuts とは百ヤードを云ふ。一臺に付職工五人を要し一週賃銀五留比である。

(6.) Weaving 織機數九百臺にして、通常麻布には六百五十臺、製袋用に二百臺、残りをキャンパス其他に用ふ。然し、仕事の都合にて種々織機の遺練を爲すを以て常に麻布用何臺、製袋用何臺と云ふ事はない。一日一臺の出來高次の如し。

Hessian	
11×14	170—180 yds.
11×13	180—190 "
11×12	200—210 "

9×11 280—300 ”

Sacking

Heavy Cee 300 yds.

A. Twiel 300 ”

E. Bag 350 ”

Canvas 13 ”

賃銀は一週六留比五安である。

(7.) Finishing

此の係りは織機にて織上げられたる布の仕上げを爲す處にして、麻布、麻袋共先づ Measuring Machine にて尺度を計り、Damping Machine にて布を濡めらせ、Calendar から Cutting Machine に掛けて端を縫ひ袋を造る。

(イ) Measuring Machine.

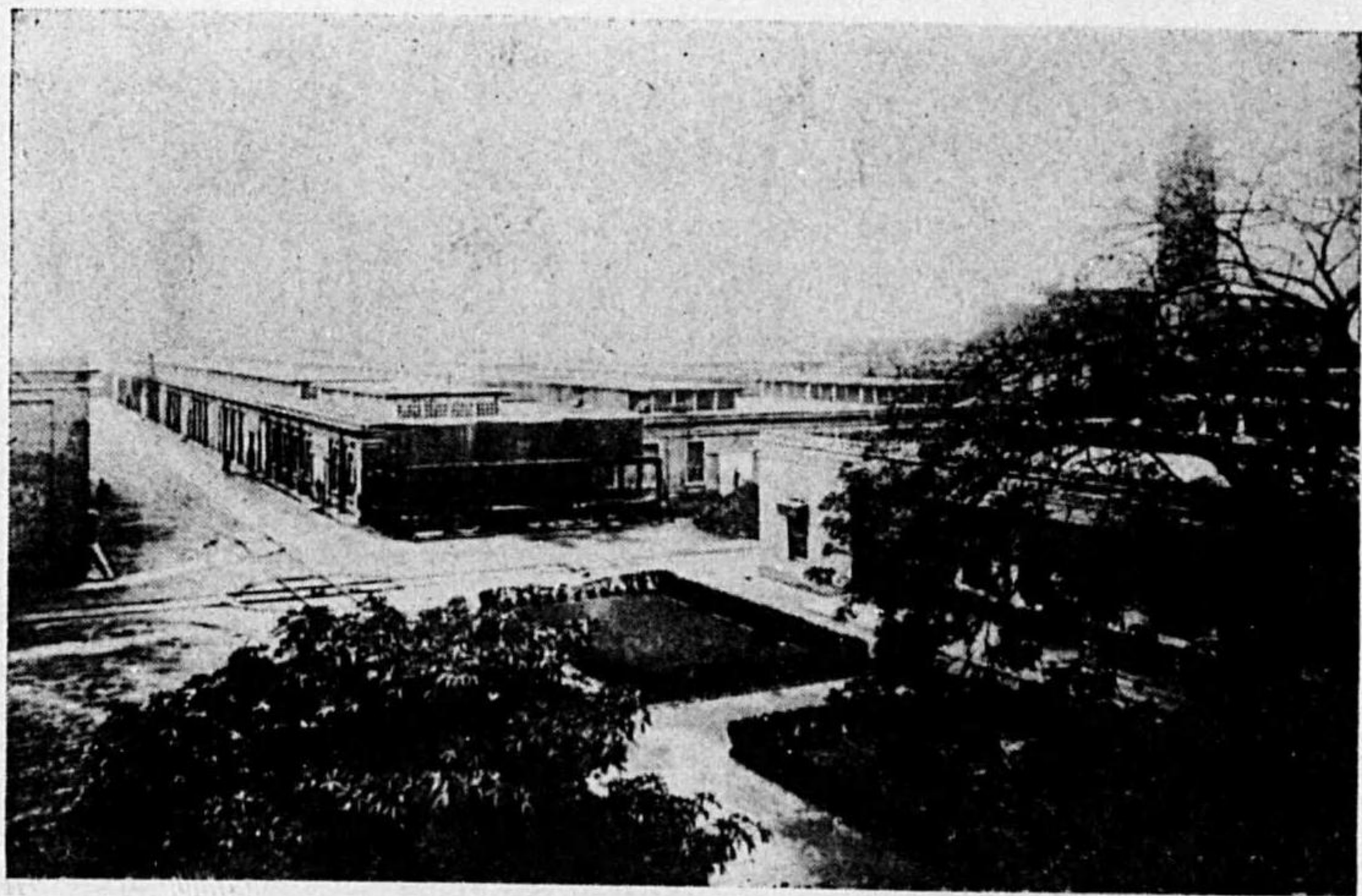
Calendar 二臺に付本機一臺、即ち五臺ありて一臺に付三人の職工を要する。賃銀は一週二留比である。

(ロ) Damping Machine.

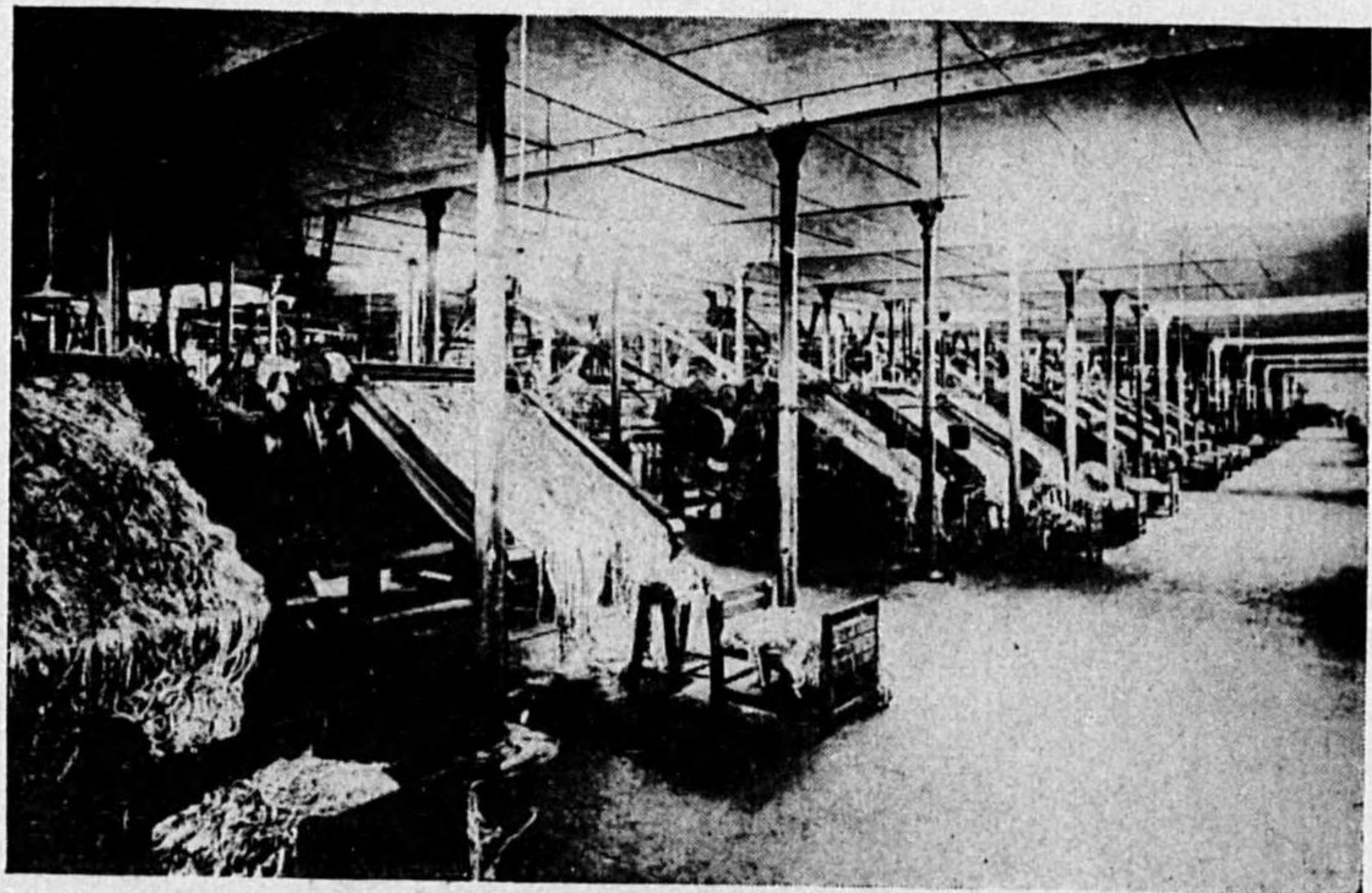
尺度を取つた布を、本機に掛けて布を濡めす。麻布用二臺、袋用一臺ある。

(ク) Calendar.

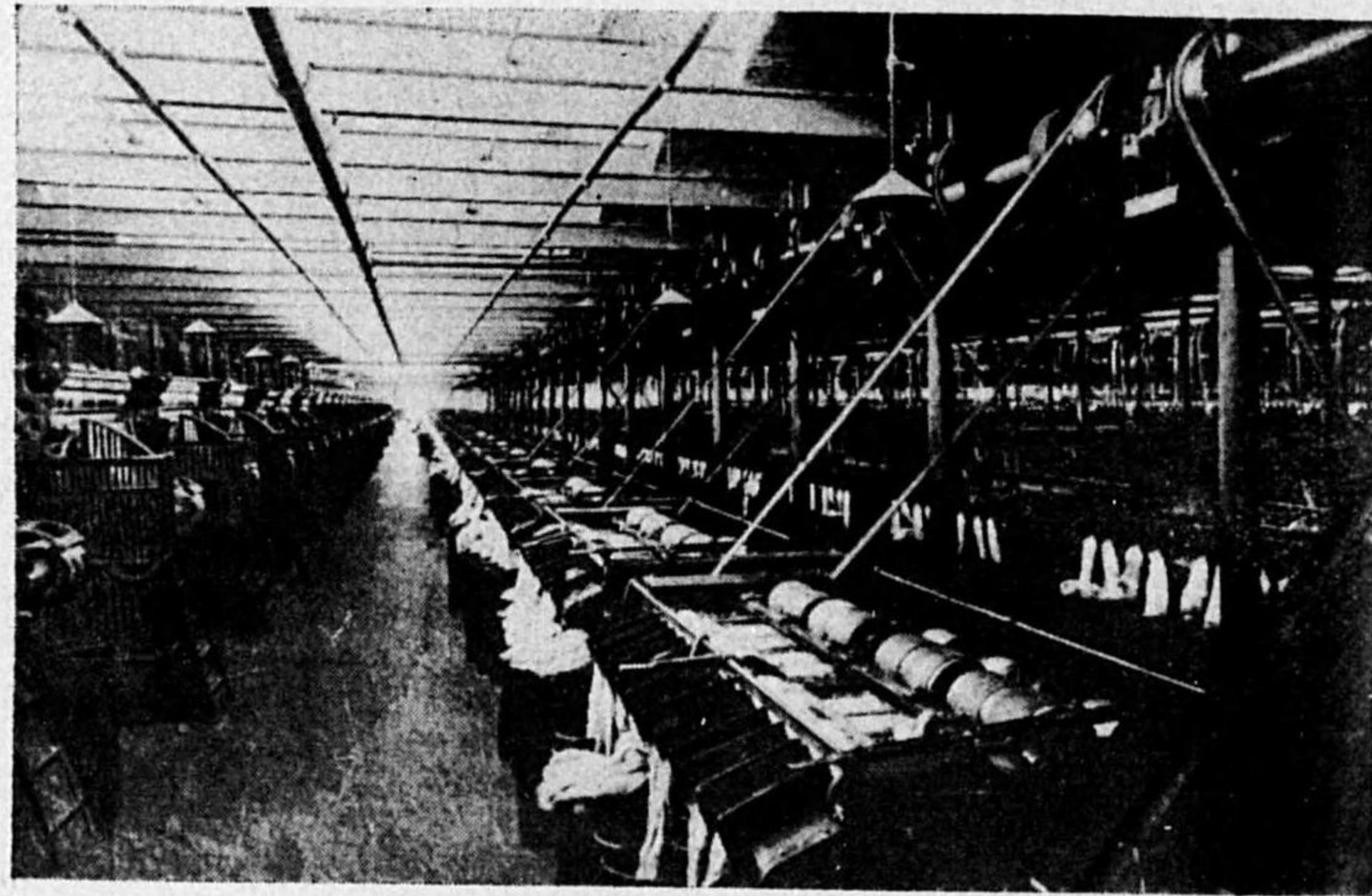
本機は十臺あり、是は濡つた前記布を蒸汽ローラーの間を通過せしめて艶出をなす。一臺一時間に八百碼の仕上げをし各臺二人の職工を要し、一週の賃銀三留比とす。



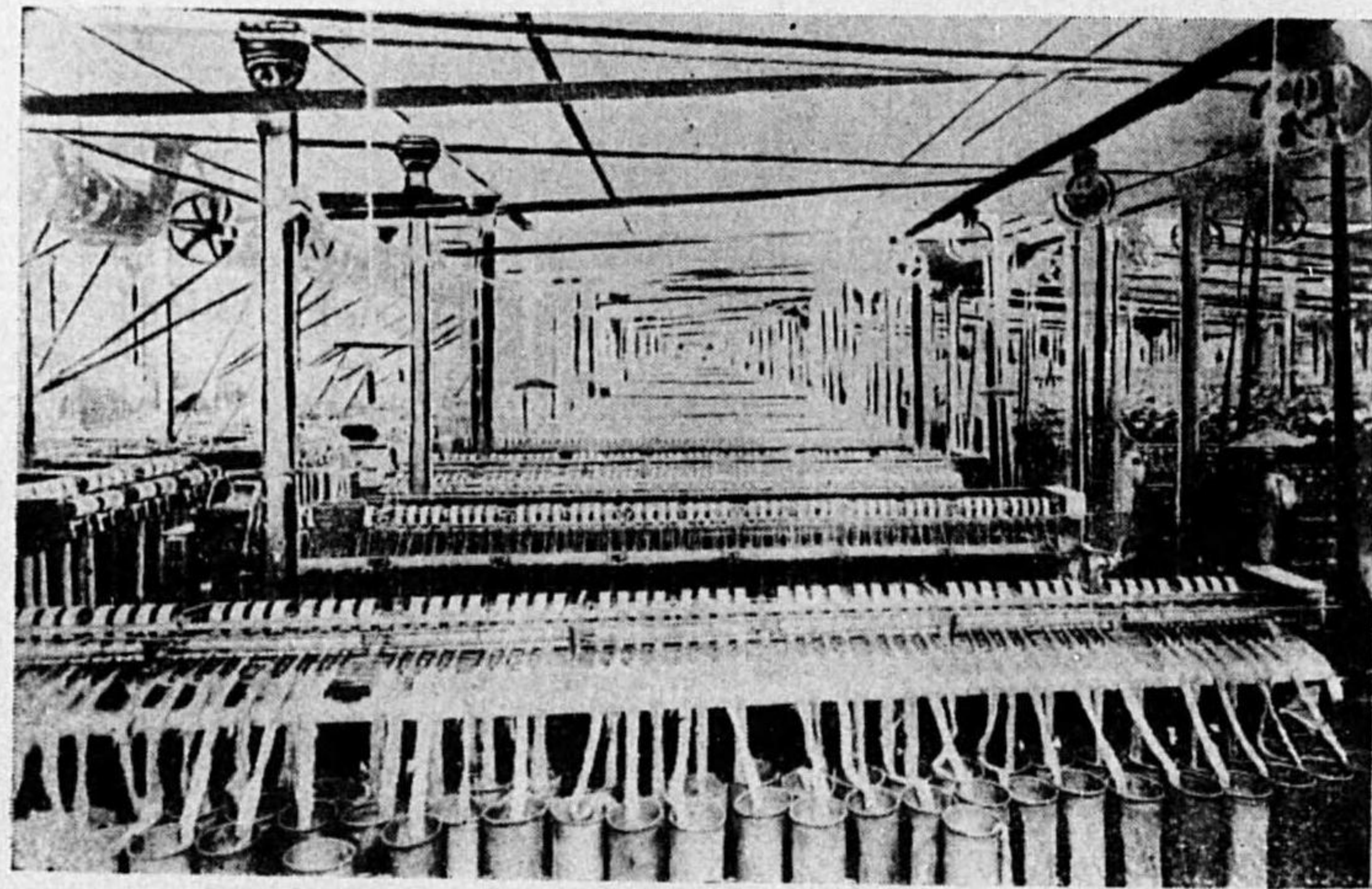
景全場工麻製タツカルカ



Carding (Breakers)

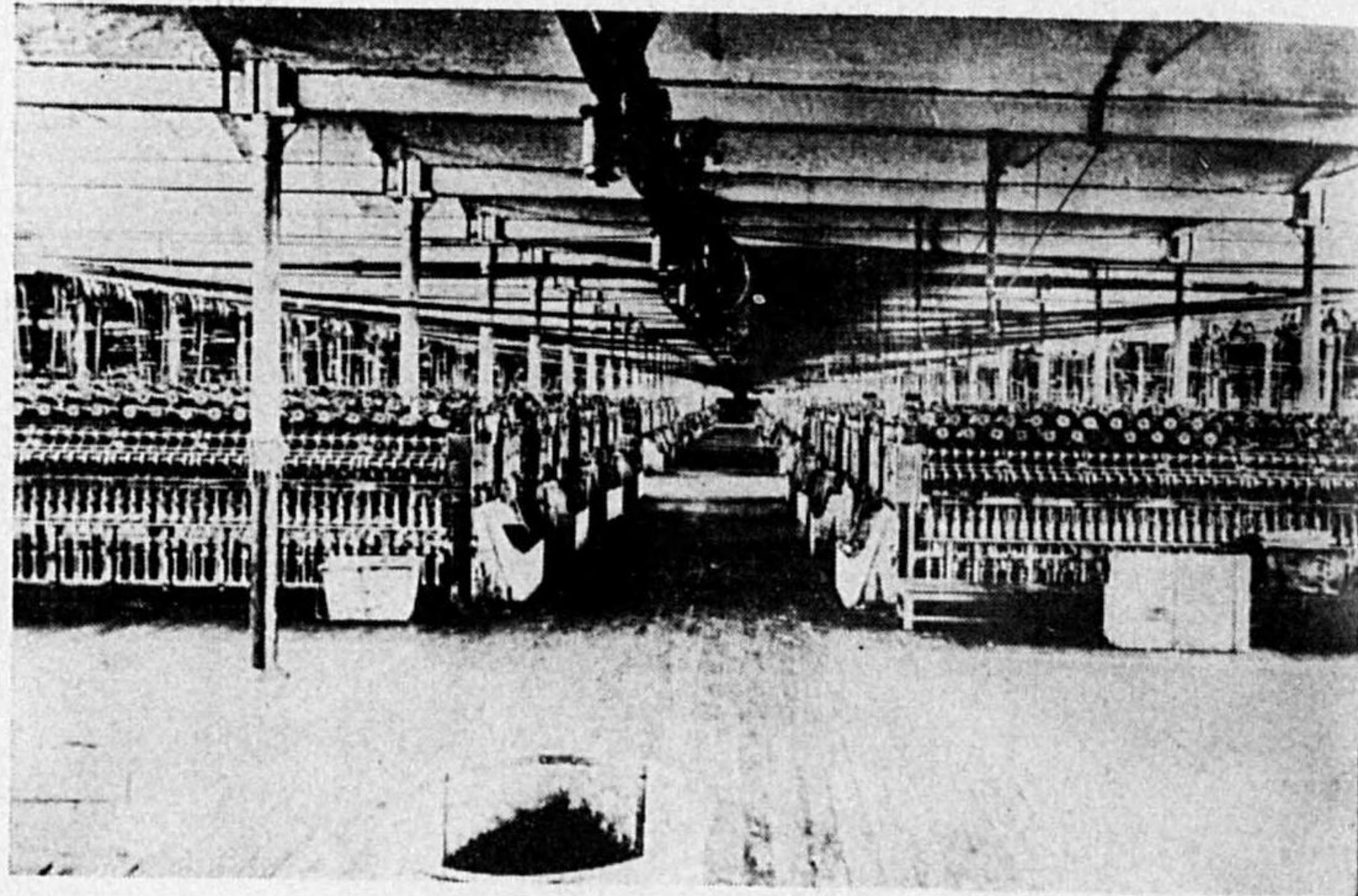


Preparing Department (Drawings)

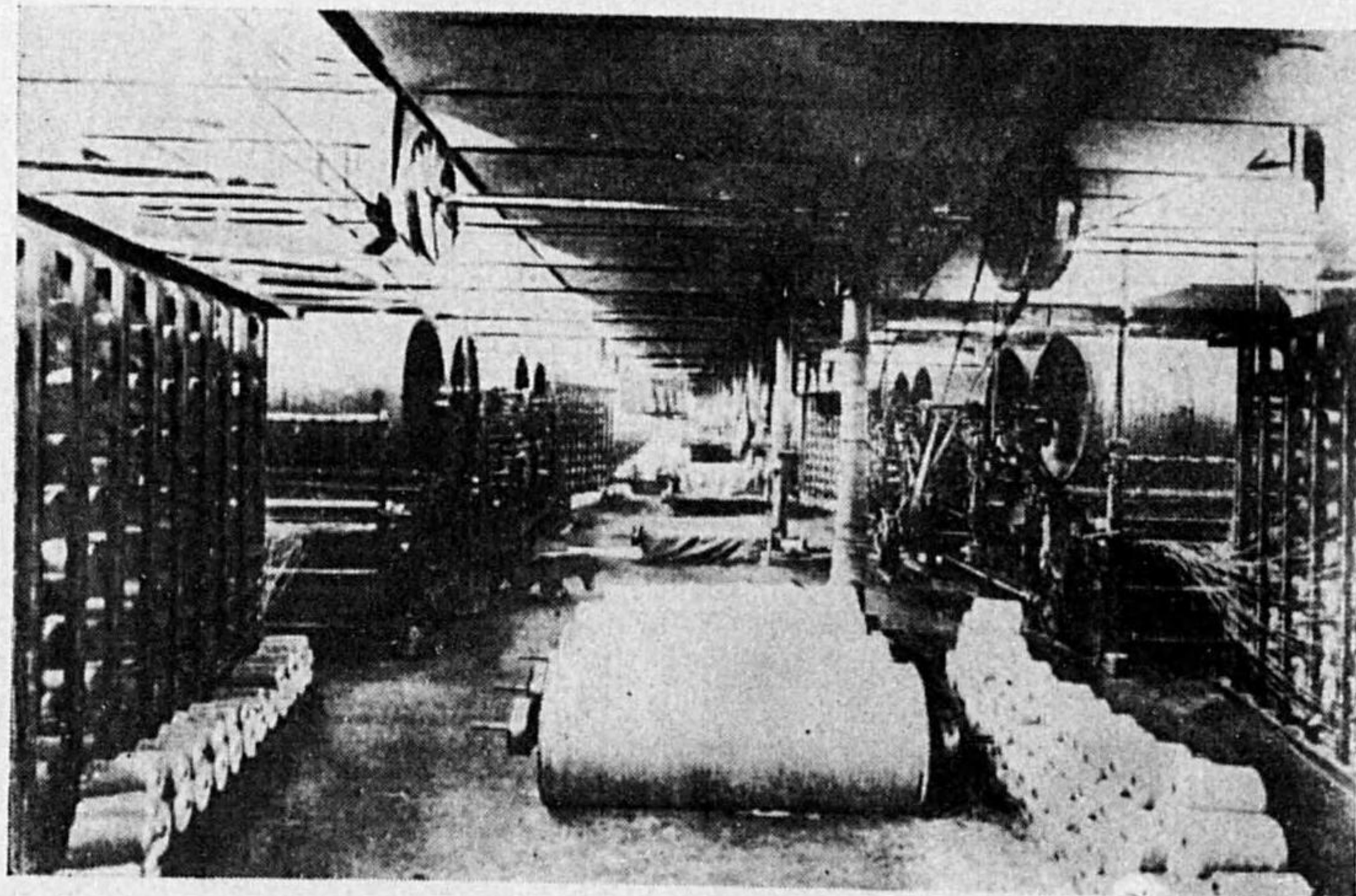


Roving Department





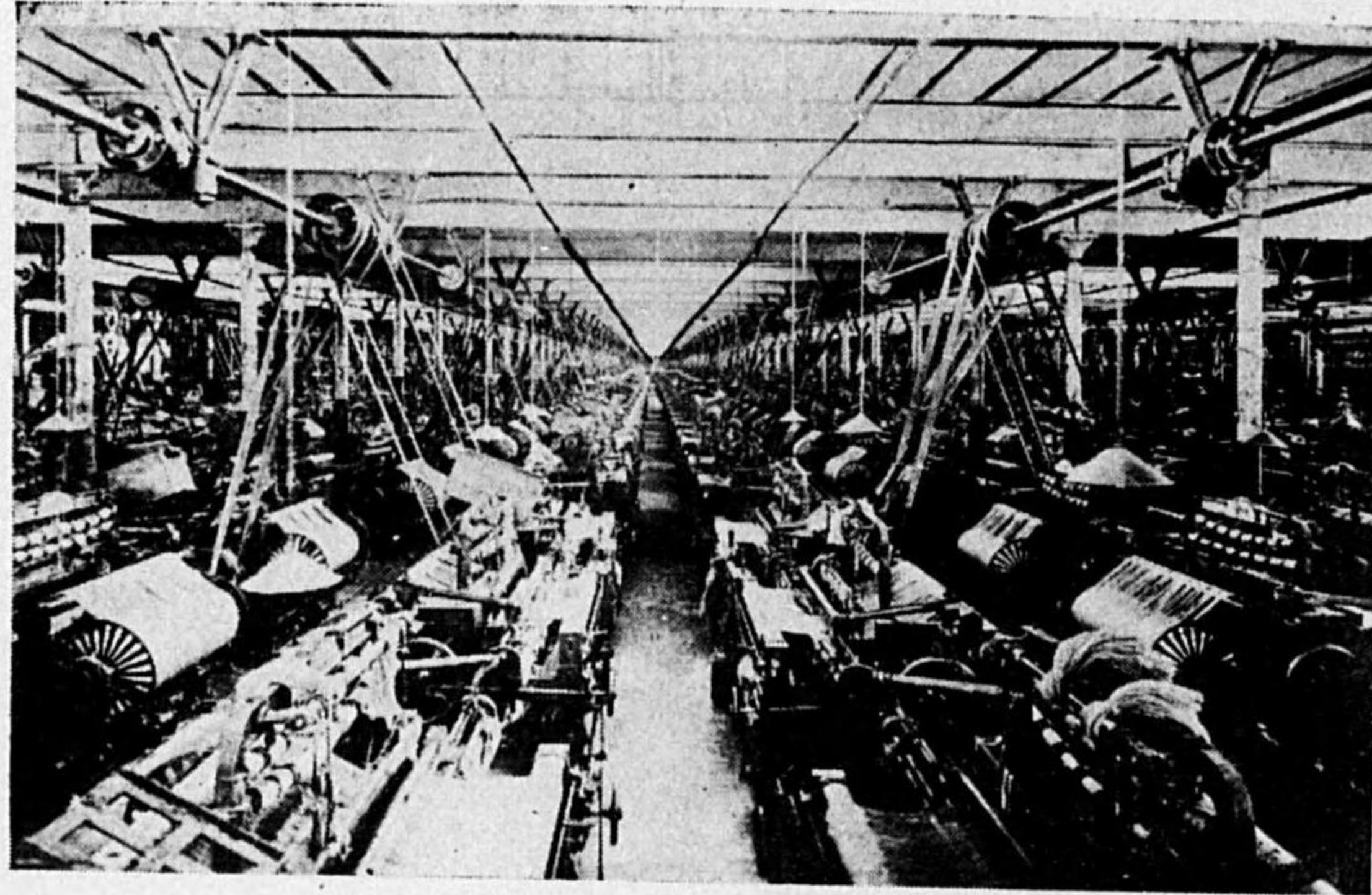
Spining



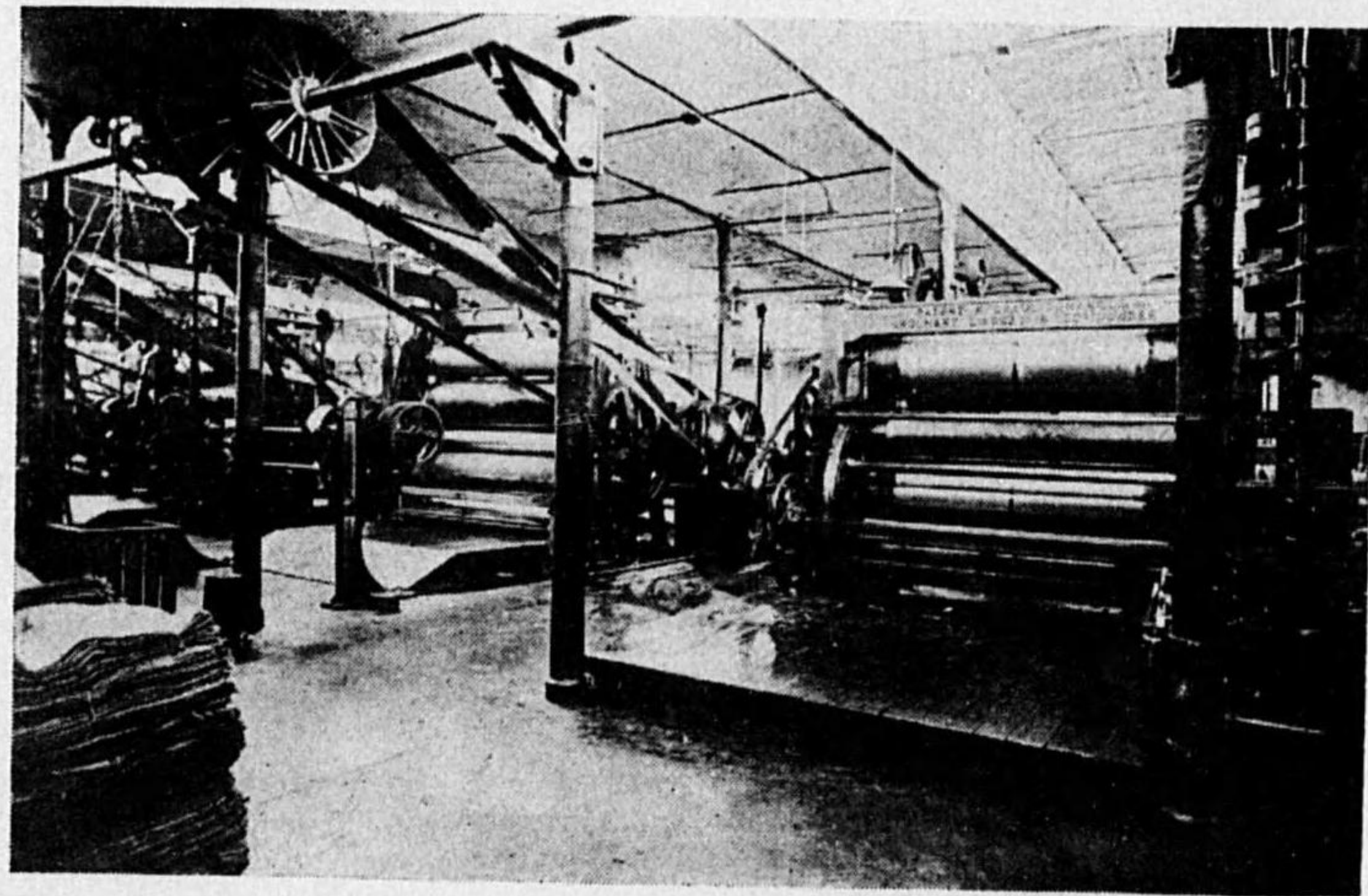
Beaming

Copyright 1914

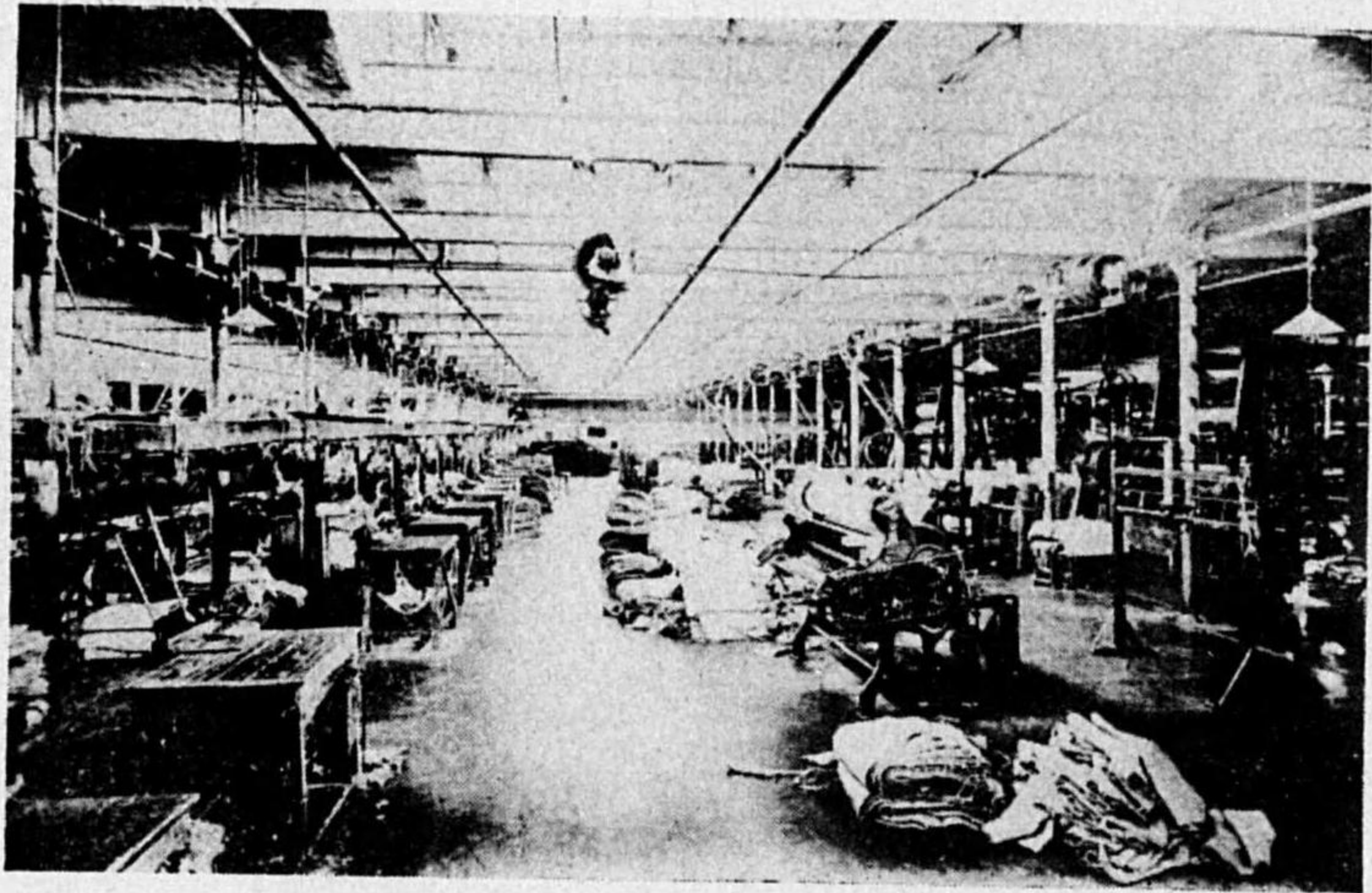
Photo by G. L. ...



Factory (Weaving)



Mangling



Finishing Department



Finished Goods Godown

(ニ) Cutting Machine.

袋に要する丈の長さに布を切る機械にして、二臺あり一日一臺にて三萬五千碼を切る。一臺二人を要し、一週賃銀は二留比十二安である。

(ホ) Sewing.

即ち Over head sewing machine を使用する。先づ一袋分の布の兩端約一吋折り曲げて縫ひ次に布を二つ折となし、兩側を縫ひ合して袋となす。

(ク) Cropping Machine

此の工程は Mangled Hessian を作る時經るもので、織機から外れた布は小さな毛を澤山有するを以つて此の機械にて刈取るものである。三臺ありて一臺に付き職工三人を要し、賃銀は一週間二留比十二安乃至二留比四安にして仕上高は二分間に一臺に付き六碼である。

(ト) Mangled Machine.

毛を刈りたる麻布を機械に掛けてローラーにて壓搾して、目をなくするものにして、二臺ありて一日一萬碼の仕事となす。一臺に付き職工七人を要し、賃銀は二留比六安である。

(8.) Packing.

麻布は二千碼、袋は普通四百袋を約二千噸の壓力を有する水壓機に掛けて鐵帶、時に麻繩を持つて包装をなす。水壓機四臺ありて、各機一日六十捆乃至七十捆の荷造をなす。一臺に付職工七人を要し、荷造を終りたるものは製品倉庫に移されて船積を待つのである。

第三節 生産高

商業會議所の調査に係る甲谷陀工場の生産高及其の概算金額の累年高を次に掲ぐる。

黄麻製品の生産高累年表

年次	麻袋数量	麻布数量	麻袋、麻布生産額
自一八七九—一八八四年	五四,九〇〇,〇〇〇枚	四,四〇〇,〇〇〇碼	一二,四九〇,〇〇〇
一八八四—一八八九年	七七,〇〇〇,〇〇〇	一五,四〇〇,〇〇〇	一六,二九〇,〇〇〇
一八八九—一八九四年	一一一,五〇〇,〇〇〇	四一,〇〇〇,〇〇〇	二八,九三〇,〇〇〇
一八九四—一八九九年	一七一,二〇〇,〇〇〇	一八二,〇〇〇,〇〇〇	五一,八〇〇,〇〇〇
一八九九—一九〇四年	二〇六,五〇〇,〇〇〇	四二七,二〇〇,〇〇〇	八二,六五〇,〇〇〇
一九〇四—一九〇九年	二五七,八〇〇,〇〇〇	六九八,〇〇〇,〇〇〇	一四四,二七〇,〇〇〇
一九〇九—一九一〇年	三六四,四〇〇,〇〇〇	九四〇,一〇〇,〇〇〇	一七〇,九六〇,〇〇〇
一九一〇—一九一一年	三六〇,九〇〇,〇〇〇	九五五,三〇〇,〇〇〇	一六九,九四〇,〇〇〇
一九一一—一九一二年	三八九,九〇〇,〇〇〇	八七一,五〇〇,〇〇〇	一六〇,〇八〇,〇〇〇
一九一二—一九一三年	三一一,七〇〇,〇〇〇	一,〇二一,八〇〇,〇〇〇	二二八,七一〇,〇〇〇
一九一三—一九一四年	三六八,八〇〇,〇〇〇	一,〇六一,二〇〇,〇〇〇	二八二,七三〇,〇〇〇
一九一四—一九一五年	三九七,六〇〇,〇〇〇	一,〇五七,三〇〇,〇〇〇	二五八,二〇〇,〇〇〇
一九一五—一九一六年	七九四,一〇〇,〇〇〇	一,一九二,三〇〇,〇〇〇	三七九,七八〇,〇〇〇
一九一六—一九一七年	八〇五,一〇〇,〇〇〇	一,一三〇,九〇〇,〇〇〇	四一六,七二〇,〇〇〇

第四章 黄麻製品の種類

黄麻製品は之を大別してガンニー(袋)とヘツシヤン(布)とに區別する。ガンニーは下等黄麻を原料とせる太き絲を以て製織したるもので、ヘツシヤンとは上等の黄麻を原料とせる細き絲を以て織りたる布を云ふ。而して前者は更に袋の形にされて輸出し、後者は多く布の儘にて輸出される。

第一節 麻袋 (Gunny bag)

麻袋は織機より取外されたる布を所要の長さに切り、之を二つに折りて、折目を袋の底となし、兩側を縫ひ付けたる

一九一七—一九一八年	七五八,四〇〇,〇〇〇	一,一九六,八〇〇,〇〇〇	四二八,四三〇,〇〇〇
一九一八—一九一九年	五八三,一〇〇,〇〇〇	一,一〇三,二〇〇,〇〇〇	五二六,五二〇,〇〇〇
一九一九—一九二〇年	三四二,七〇〇,〇〇〇	一,二七五,一〇〇,〇〇〇	五六一,〇五〇,〇〇〇
一九二〇—一九二一年	五三三,九〇〇,〇〇〇	一,三五二,七〇〇,〇〇〇	五二九,九四〇,〇〇〇
一九二一—一九二二年	三八六,七〇〇,〇〇〇	一,一二〇,五〇〇,〇〇〇	二九九,九五〇,〇〇〇
一九二二—一九二三年	三四四,二〇〇,〇〇〇	一,一五四,三〇〇,〇〇〇	四〇四,九四〇,〇〇〇
一九二三—一九二四年	四一三,七〇〇,〇〇〇	一,三四八,七〇〇,〇〇〇	四三二,八三〇,〇〇〇
一九二四—一九二五年	四二五,一〇〇,〇〇〇	一,四五六,二〇〇,〇〇〇	五一四,八八〇,〇〇〇
一九二五—一九二六年	四二五,〇〇〇,〇〇〇	一,四六一,三〇〇,〇〇〇	五七五,二一〇,〇〇〇
一九二六—一九二七年	四四九,〇〇〇,〇〇〇	一,五〇三,一〇〇,〇〇〇	五二八,三二〇,〇〇〇

儘のもの、即ち袋の口が切りはなしたる儘のものと絲の解けざる様、口が更に折り曲げられたるものとあり、前者を Un-hemmed 後者を Hemmed と云ふ。されば Un-hemmed と Hemmed とに要する布の長さの差は口を折り曲げるに要する布の長さ丈けにして、甲谷陀黄麻工場組合は Hemmed には實際の袋の長さの二倍に三吋を加へたるものを以つて該袋製造に要せし布の長さとし、Un-hemmed に要する布の長さを定むるに一吋を加ふることは一見不合理に見ゆれ共、總て袋は長く連続せる布を切り、其の一片を折り曲げて袋となし、出来上りたる寸法を取り之を該袋の大きと云ふものなれば八十碼の布を二碼毎に切り、正味長さ一碼の袋を四十造ること不可能なれば、此の一吋は袋を造るに當り生ずる布の消耗として之を規定されたるものである。又 Hemmed に三吋を加ふるは、適當に切られたる一袋分の布の兩端を約一吋宛折り曲げてある爲である。

以上述べたる Hemmed には三吋 Un-hemmed には一吋を加ふることは或る袋の目方及値段を計算するに當り常に必要である。

麻袋は之を布の織り方に依り區別すれば平織と綾織とすることが出来る。

Heavy Cee bag, E. bag 等は平織にして A. Twill, B. Twill 等は綾織である。總て麻袋には品質織方に相異なるため、一々標準物がある。之を Standard として同品質、同織方なれば或る程度迄は、希望通りの大きさの袋を得ると同時に目方値段は Standard に正比例するものである。

主なる標準物を擧ぐれば左の如し。

Heavy Cee	40×28	hd	2 1/4	lbs	8×9	Packing	400	Pieces
E. bag	40×28		1 1/4		5×8		500	

Light Cee	40×28				8×9		400	
							or 500	
A. Twill	44×26 1/2		2 5/8		8×9		400	
Corn sacks	41×23		2 1/4		8×9	3Blue Stripes	300	

附記 麻袋の大き、目方等は上記の如く略記するを普通とす。第一には袋の種類、大か Hemmed なるか Un-hemmed なるか袋の重さ、次に一平方呎中に有る經、緯絲の數、最後に一捆は幾袋なるかを示す。經絲は Porter と云ふ緯絲は Cee と云ふ。即ち Heavy Cee の Porter は 8 に一吋 Shot は 9 である。

## 第二節 麻 布 (Hessian)

麻布は米國へ輸出さるゝ小麥袋の如く袋の形となりて輸出されることあれども、大部分は布の儘輸出せらるゝを普通とする。

麻布は之を大別して 9 Porter と 11 Porter との二つとする。

前者は輕目附のもの、後者は重目附のものにして 9 Porter (經) 11 Porter に對して 12 Shot (緯) を普通とする。麻布の中は常に四十吋にして四十吋ならざる時は、此の旨明記するを要する。九經絲、十一經絲には、各々其標準物ありて九經絲四十吋にして一碼の目方八オンスのものを標準となし、十一經絲は巾四十吋、一碼の重量十オンス半のものを標準となす。

今之を略記すれば左の如くである。

9 Porter Standard

第二編 印度に於ける黄麻工業

40"×80z 9×10 (Porter Shot を略す)

II Porter Standard

40"×10<sup>1</sup>/<sub>2</sub>oz 11×12 (Porter Shot を略す)

以上に付き標準物として九經絲は四十吋八オンスを中心として半オンス飛びの目方を以つて七オンス迄、十一經絲に四十吋十オンス半を中心として、之れ亦半オンス飛びの目方を以つて九オンス半より十二オンス迄、種々目方の異なる麻布がある。

今之等麻布を擧ぐれば左の如し。

9 Porter

40" / 7 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> oz	9×10	(Porter Shot を略す)
40" / 8 "	9×10	( " " )
40" / 8 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> "	9×10	( " " )
40" / 9 "	9×10	( " " )
11 Porter	( " " )	( " " )
40" / 9 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> oz	11×12	( " " )
40" / 10 "	11×12	( " " )
40" / 10 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> "	11×12	( " " )
40" / 11 "	11×12	( " " )
40" / 11 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> "	11×12	( " " )

40" / 12 " 11×12 (Porter Shot を略す)  
中は前述の如く普通目方の如何に不拘、四十吋なれども、九經絲、十一經絲は三十二吋より五十四吋迄種々の特別巾のものがある。

此の特別巾の麻布の内、或るものゝ目方は四十吋の麻布の重さと何等關係なきもの、例へば四十五吋にて十一オンスと云ふが如きものあれども、普通は四十吋の麻布の重さを基礎とするものにて、四十吋なれば八オンスの目方あるもの四十五吋ものと云ふものが多い。されば之等の種別を略記すれば次の如くである。

45" / 11 oz 11×12 (Porter Shot を略す)

45" / 8<sup>1</sup>/<sub>4</sub> oz 9×10 ( " " )

今特別巾のものゝ内、最も普通のを列挙すれば左の如し。

23" / 10 oz / 40"	11×12	(Porter Shot を略す)
36" / 7 " / 40"	9×9	( " " )
36" / 8 " / 40"	9×10	( " " )
36" / 10 " / 40"	10×12	( " " )
36" / 10 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> " / 40"	11×12	( " " )
37" / 10 " / 40"	11×12	( " " )
45" / 8 " / 40"	9×10	( " " )
45" / 9 " / 40"	9×10	( " " )
45" / 10 " / 40"	9×10	( " " )

## 第五章 黄麻製品の荷造

### 第一節 荷造の種類

黄麻製品の荷造に左の如き三種類がある。

1. Pucca iron bound bale.
2. Pucca rope bound bale.
3. Kutcha rope bound bale.

1. Pucca iron bound bale は麻布包み鐵帶締め Hard pressed bale にして現在海外輸出の各製品の荷造に一般に使用せらるゝものである。

2. Pucca rope bound bale は麻布包みの上に中央に一本の鐵帶を掛け、其左右に各一本乃至二本の麻繩を掛け Hard pressed したる荷造にして、印度内地向け積出しに使用せらるゝことがある。

3. Kutcha rope bound bale は麻布を使用せず裸荷の儘にて麻繩を以つて締めたる Loose pressed bale にして、主として Karachi 方面への麻袋荷造に使用せらるゝ。

麻袋及麻布ともに外部の包装には Sacking cloth を使用するも、其の地質は必ずしも一定しない。現在多數の工場に於て使用せるものは Plain cloth 28" in width 14.96 oz 6<sup>1</sup>/<sub>2</sub> × 8<sup>1</sup>/<sub>2</sub> である。

Wool Packs は一俵五十枚、Twill 及び Plain の麻袋は二百五十枚、三百枚、四百枚、五百枚、六百枚等の各種類あり、Hessian bogs は八百枚又は千枚 Hessian cloth は一千碼及び二千碼 Sacking cloth 一千碼、麻糸は十マウンド及び五

マウンド入りに荷造するを普通とする。此等の荷造に使用する鐵帶の数は内容品の寸法及數量により異なること勿論なれども大體に於て左の如き標準による。

Heavy Cee Bags.	400 pieces per bale, 3 iron hoops
A. Twill Bags.	400 " " " 3 " "
E. Bags	500 " " " 3 " "
Cuban Sugar Bags.	400 " " " 3 " "
Australian Corn Sacks.	300 " " " 3 " "
Wool Packs.	50 " " " 3 " "
Hessian cloth 40" Wide,	2,000 yard per bale 4 iron hoops
Hessian cloth 45"—50" wide,	1,000 yard per bale. 4 " "
Hessian cloth 45"—50" wide,	200 yard per bale. 5 " "

Folded Packing ㄱ Flat Packing

Folded Packing は袋を折り合せて重ねたる荷造なるに反し、Flat Packing は袋を平にしたる儘重ねて荷造りしたるものである、特殊の麻袋以外は特別の協定なき限り Dead Space を避くる爲め Folded Packing とする。

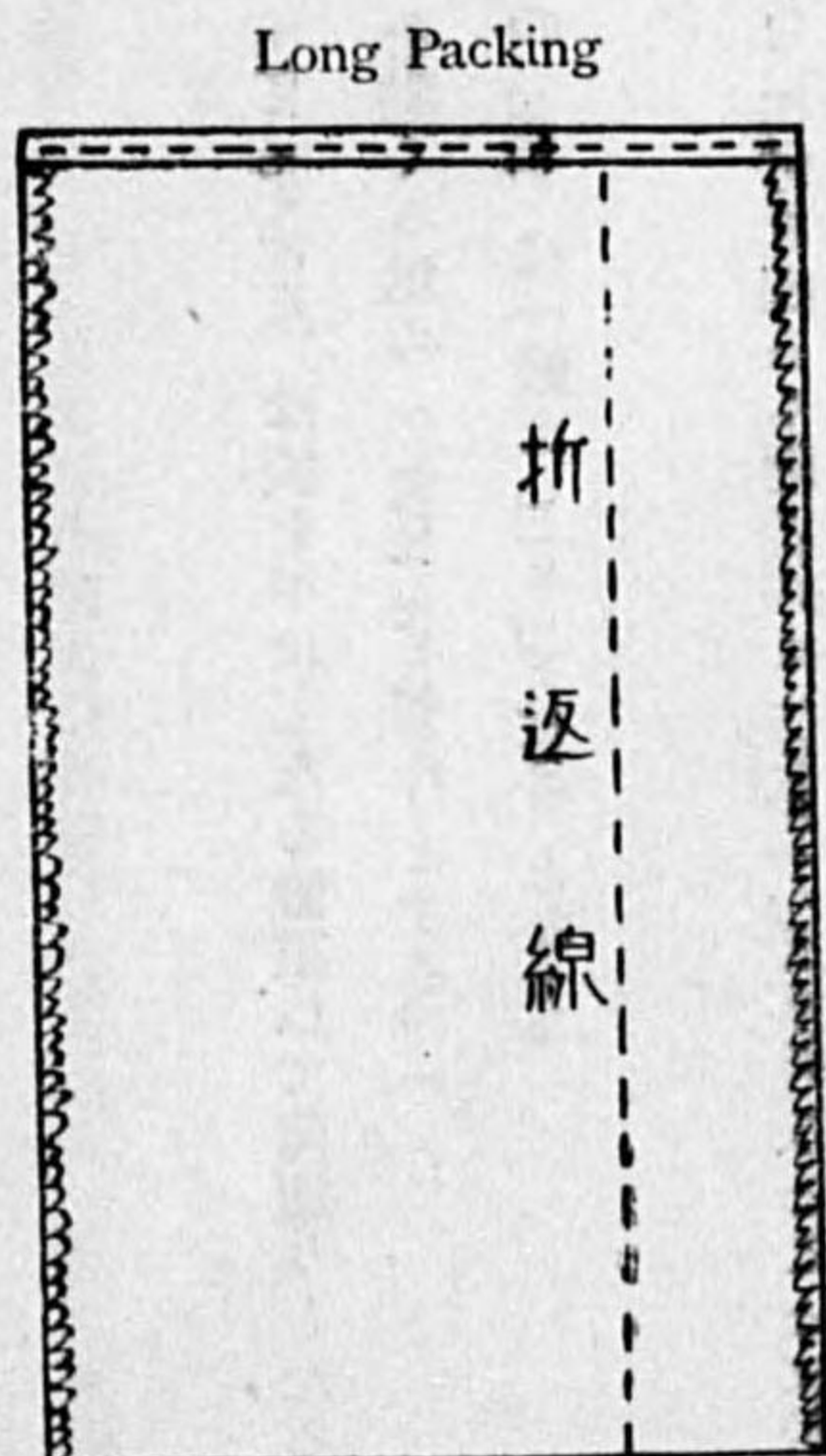
Wheat Bags, Fiji Pockets 及び Rangoon 向ひの Khardal Mill の H.C. せ一般に Flat Packing となす。

Square Packing ㄱ Long Packing

此の問題は主として支那及び日本向け輸出せらるゝ H.C. Bags に付き起るも兩者共に Folded Packing なることに於ては相違がなす。Square Packing は袋を左記圖の如く約三分の一の箇所にて折返し、荷造するに對し、Long Packing は



糸縫に添ひ折返して長方形の荷造となす。



左に掲ぐる表は、各種麻袋及び麻布を以つて造られたる袋を、輸出に先ちて示したるものなれば各袋の用途は、別に説明せずとも仕向地に於ける産物は袋其ものゝ名稱に依つて容易に知ることが出来る。

麻袋の仕向地に依る製品の區別表

需要地及銘柄	大サ		重量	種類	織目(一吋平方)	一梱ノ枚數
	長	幅				
日本支那及極東向	四時	二時	封度	椽取二吋青筋	八本一九本	四〇〇枚
H. C.	四三—二九	二—二分一		同 二吋鐵筋	同	同
同	四〇—二八	二—四分一		同 筋ナシ	同	同
同	同	同		同 二吋青筋	同	五〇〇乃至四〇〇
L. C.	四三—二九	二—四分一				

L. C.	四〇—二八	二—〇〇	椽取二吋鐵筋	八本一九本	四〇〇枚
同	同	同	同 筋ナシ	同	同
柴 昆 向	四〇—二八	二—四分一	椽取二吋青筋	八本一九本	四〇〇
H. C.	三六—二八	一—四分一	同 筋ナシ	五本一八本	五〇〇
E. Bags	四三—二九	二—二分一	椽取二吋鐵筋	八本一九本	四〇〇
E. Bags	四五—二九	二—〇〇	同 筋ナシ	五本一八本	五〇〇
E. Bags Standard	四〇—二八	一—四分三	同 同	同	同
K. Bags Standard	同	一—八分七	同 同	六本一八本	同
瓜 哇 向	四四—二九半	二—八分五	椽取三吋青筋	八本一九本	四〇〇
A. Twills	四〇—二八	二—〇〇	同 筋ナシ	八本一八本	五〇〇乃至四〇〇
Coffe Bags	同	同	同 筋ナシ	同	同
ベルマ及海峽植民地	四二—二八	二—四分一	無椽筋ナシ	八本一八本	四〇〇
H. C.	同	同	椽取三吋青筋	同	五〇〇
C. Twills	三六—二六半	同	無椽筋ナシ	五本一八本	同
E. Bags	四五—二九	同	同	同	同
同	四八—二九	同	同	同	同
同	五二—二九	同	同	同	同
同	五一—三一	同	同	同	同

第二編 印度に於ける黄麻工業

Grain Sacks	六〇—三〇	五〇〇〇	11吋 Mojenta Stripe	六本—八本	二〇〇
同	五〇—三〇	三〇四分一	同	同	一五〇
Liverpool Twills	三六—二六半			八本—八本	三〇〇
A. Twills	同			六本—八本	同
キーンズイ向				八本—八本	三〇〇
E. Twills	四四—二六半	二〇四分一	縁取三吋青筋	八本—八本	三〇〇
英本國及大陸向				六本—八本	三〇〇
Liverpool Twills	四四—二六半	二〇二分一	縁取三吋青筋	同	同
No. 2 Twills	同	二〇四分一		八本—八本	同
B. Twills	同	二〇二分一	同	八本—八本	同
Flour Bags	五六—二八	二〇二分一	縁取同三吋青筋	乃至七本—九本	四〇〇
D.W. Sals	四五—二六	一〇四分三	縁取三吋青筋	六本—八本	三〇〇
キーンズタウン向	四四—二六半	二〇四分一	同	八本—八本	三〇〇
B. Twills	同	二〇二分一	同	八本—九本	同
Liverpool Twills	同	一〇〇〇	同	八本—八本	五〇
No. 2 Twills	同	八〇〇	縁取三吋青筋	同	同
Wool Packs	同	二八〇〇		八本—八本	五〇〇
同	三六—二二	二八〇〇		八本—九本	三〇〇
各植民地向	四一—二三	二〇四分三			
Twills Ceneant					

Corn Sacks	四四—二六半	二〇四分一	Odd Size Sacks		二五〇乃至三〇〇
同	四八—二六半	二〇八分七			二五〇乃至三〇〇
New zealand Corn Sacks	四六—二六半	二〇八分七			同
Woodpocks (西海州アデレード メルボルン向)	四四—二六半	二〇四分三	縁取半吋赤筋	Fixedtop	一五〇乃至三〇〇
同 (シドニー、メルボルン、 シラン向)	同	一一〇四分一			五〇
埃及及レノンアメント向	同	一一〇二分一	二吋青筋	Loosetop	五〇
同	同	三〇四分一	三吋青筋	同	二五〇
B. Twills	同	三〇四分一			四〇〇
Sugar Bags	四四—二六半	二〇四分一			四〇〇
キーンズ諸港向					
Cubou Sugar	四八—二八	二〇二分一	有織 Sewn day Sewn	七本—九本	四〇〇
南アフリカ西海岸向 Nitrate Sals	四八—二六	二〇五分三	縁取二吋青筋	八本—八本	六〇〇
同	三五—二五	二〇五分三	縁取筋ナシ	六本—八本	同
Nitrate	四五—二六	二〇〇〇	縁取筋ナシ	六本—八本	同
同	三五—二五	二〇〇〇	無縁筋ナシ	八本—八本	五〇〇
Twills Ore Pockets	四〇—二八	二〇四分三	同	八本—八本	五〇〇
キーンズ向					八〇〇
No. 2 Twills	四四—二六半	二〇二分一	縁取三吋青筋		三〇〇
L.C. Bags	四五—二九	二〇〇〇	四〇—二八		四〇〇

第二編 印度に於ける黄麻工業

## 第二節 荷造費

### 一、麻袋の荷造費

一俵三百枚又は四百枚入りの麻袋、例へば A. Twill, B. Twill, Cuban Sugar Bags, Australian Corn Sacks, Heavy Cees 等の荷造費は Pucca iron bound bale 及び Pucca rope bound bale 共に一俵 Rs 3/- にし、Kutchra rope bound bale は一俵 Rs 1/8 である。

一俵五百枚入りの麻袋、例へば E. bags, Nitrate Salt Bags, K. bags, Light Cees 等の荷造費は Pucca iron bound bale 及び Pucca rope bound bale 共に一俵 Rs 2/8 にし、Kutchra rope bound bale を行ふものはなし。

Odd size bags 及び一般の標準荷造と異なる枚数を荷造せんとする場合は豫め賣買當事者間に於て一俵の荷造費を協約するを要する。

### 二、麻布の荷造費

Hessian cloth は總て荷造費を含みたる建値を以つて唱へらる。且つ、Odd size の値段も此の建値に比例して計算せらるゝを以つて、麻袋の如く荷造費を区分する必要殆んどなしと雖も、一俵二千碼入りの Hessian cloth を一俵一千碼入り荷造に變更する場合、甲谷陀の工場は一般に割増荷造費として百碼に付き十二安乃至十四安を要求することがある。

## 第三節 容積

麻袋及び麻布一俵の容積に付いては、印度黄麻工場組合制定の契約書は單に "Well pressed" と記載せるのみにして

其の最大限度に付き黄麻の如く才量を明示せずと雖も、嘗て一九一〇年に六箇月間の有効期限を附して工場と輸出業者との間に協定せられたる制限が今尚ほ不文律として存続するものと解して差支へない。當時協定せられたる容積の最大限度は次の通りである。

For Heavy goods

$7\frac{1}{2}\%$  over actual dead weight that is including the excess weight and tare.

For Hessian cloth.

10% over actual dead weight, that is including the excess weight and tare.

此の規定より麻袋及び麻布一俵の容積の最大限度を計算せば即ち左の如くである。

(1.) Heavy Cee 40" x 28" Hd.  $2\frac{1}{4}$  lbs. Packing 400 pieces per bale.

$$50 \text{ cft} \times \frac{2\frac{1}{4} \text{ lbs} \times 400 \times (1 + 7\frac{1}{2}\%)}{2,240 \text{ lbs}} = 21,596 \text{ cft.}$$

(2.) A. Twill 44" x 26 $\frac{1}{2}$ " Hd.  $2\frac{1}{8}$  lbs. Packing 400 pieces per bale.

$$50 \text{ cft} \times \frac{2\frac{1}{8} \text{ lbs} \times 400 \times (1 + 7\frac{1}{2}\%)}{2,240 \text{ lbs}} = 25,195 \text{ cft.}$$

(3.) Hessian cloth 49" - 8 oz 9 x 10 Packing 2,000 yards per bale.

$$50 \text{ cft} \times \frac{8 \text{ oz} \times 2,000 \times (1 + 10\%)}{16 \text{ oz} \times 2,240 \text{ lbs}} = 24,553 \text{ cft.}$$

(4.) Hessian cloth 40" - 10 $\frac{1}{2}$  oz 11 x 12 Packing 2,000 yards per bale.

$$50 \text{ cft} \times \frac{10\frac{1}{2} \text{ oz} \times 2,000 \times (1 + 10\%)}{16 \text{ oz} \times 2,240 \text{ lbs}} = 32,227 \text{ cft.}$$

(5.) Hessian cloth 45" - 11 oz 11 x 12 Packing 1,000 yards per bale.

$$50 \text{ cft} \times \frac{11 \text{ oz} \times 1,000 \times (1+10\%)}{16 \text{ oz} \times 2,240 \text{ lbs}} = 16,881 \text{ cft.}$$

従つて上記の制限を超過したる場合は Excess measurement として工場に其賠償を要求し得るものとす。萬一工場にして此の賠償に應ぜざる場合は Bengal chamber of commerce の規定する Arbitration により其の責任を追求すべきである。

現在不文律として一般に認めらるゝ上記の容積制限は、標準物の標準荷造に對する規定なるを以つて之を特種の荷造又は Flat packing に適用することを得ぬ。此の場合は各自に於て賣手の工場と豫め一依の容積を協約すべきである。

## 第六章 黄麻製品の取引

### 第一節 工場との直接取引

黄麻工場の大部分は歐羅巴人仲買組合に屬する仲買人を通じて其の製品を販賣する。又、土人仲買人組合の仲買人を通じても行はれてゐる。何れにしても、甲谷陀に於ける黄麻製品は必ず仲買人を通じて賣出されるのである。

即ち仲買人は工場より賣注文を取り、輸出業者より買注文を取り、契約が成立した時は印度黄麻工場組合の規定せる契約書用紙に必要な事項を記入し、之を相互に交附する。双方は契約書を確めたる上、契約書の受取書を仲買人に渡し、同時に相手方と契約承認書を取交す、契約書の用紙には、用式が A フォームと B フォームとの二種があつて、A フォームは普通の契約に對して用ひられ、B フォームはオプション付契約に用ひらる。

先物の取引は四、五箇月を普通とする。稀に六箇月以上の先物取引も行はれるが、需要地よりの先物買注文も普通四

五箇月先積出を例としてゐる爲、自然甲谷陀に於ても四、五箇月以内を普通とされてゐる。

現物取引の外、先物は末日を受渡日とするも、輸出業者の積出便宜上、各五の日を受渡日として契約することもある。

買方たる輸出業者が受渡日七日前に、積出指圖書を工場に送りて積出方を請求しない時は、工場は出庫指圖書引換に代金の請求をなす、即ち輸出業者が受渡日に商品を受取り直ちに之を船積するには少く共、七日前に積出指圖書を工場に送り其の旨を通知せねばならぬ。

工場が輸出業者より積出指圖書を受取り、商品の積出を終了した時はドツクの受取書、又は船内積込書に工場の明細書を添へ輸出業者へ代金の請求をする。

工場が受渡日に貨物引渡に換へて、發行する庫出指圖書は記名式のもの多く、持参人渡のもの少い。庫出指圖書の譲渡には必ず記名者の裏書を要することは一般と變りなく、其の指圖書に對する荷物が引取らるゝ迄、猶豫期間を一箇月として其間は通常保管料を徴收しない。夫れ以後は持参人に於て負擔し、又保険も附けねばならぬ。

尙ほ指圖書は效力を一箇月乃至二箇月と定められ、期間經過後は再發行を必要とする旨記載せられるも、事實は三、四箇月間も轉々として賣買せらるゝことがある。仲買人の口錢は歐洲人は七厘五毛、土人は五厘で常に賣手の負擔である。

### 第二節 Second Hand Business.

是は工場と直接取引をなさず工場が賣手とならない取引、換言すれば輸出業者間の取引、或は輸出業者とバザールと云ふ土人商人との取引及びバザール間の取引を普通 Second Hand Business と云ふ。

此の種の取引にも現物渡の外、月末渡、又は二、三箇月の先物取引がある。此の場合も契約は必ず仲立人を通じて行はれるは勿論にして、前項工場との直接賣買と少しも變ることはない。但し此の取引にては庫出指圖書を受取りたる時は自己名義に書換へることを要する。

輸出業者が工場より買付けたる商品を輸出せざる時、或は輸出するよりも、甲谷陀の市場にて轉賣する方が有利である場合には、此の輸出業者が賣手となり、工場より買付くるより割安なるか、又は自己の好む品物を工場よりは買付得られない者が買手となりて取引が成立するのである。

又受渡日に庫出指圖書を受取ることなく船積をなさんとする者は、其旨を期日七日前に賣方へ通知し、斯る場合賣方は亦自己に對する賣手に通知し、最後に積出指圖書は工場の手許に到達することとなる。受渡期日前七日迄に積出指圖書を發せない時は、賣手は受渡日に工場の庫出指圖書を提出し、之と引替に代金の支拂を受ける。

庫出指圖書を得たる買手は工場に對して自己名義に書換を請求するを普通とし、書換を終りたる後は、積出其他總ては工場と直接交渉となる。

バザービールの信用程度は、唯に其の調査困難なるのみならず、事實に於て歐洲人商店同様に信用し得ないものが少くない。故に輸出業者は此の取引に際しては相手方の契約不履行より生ずる損害を防ぐ手段を講ぜねばならぬ。即ち仲買人をして賣買の結果に對して保證せしむる方法にして、之は普通口錢に更に二厘五毛を加へて支拂ふ。

### 第三節 建 値

甲谷陀に於ける黄麻製品の取引單位は、麻布は百碼、麻袋は百枚とす。而して、此の値段は常に工場より船側迄の運

搬費用を含む。即ち F.A.S. (Free Along Side ship) (船側渡) 値段である。但し羊毛袋は一枚建とす。

而して是等の相場は、麻袋は各種類毎に其の標準物に付建値せられ、種々異なる目方の麻布は此の標準相場を基礎として、目方に依り規定の値引又は増額を加減して値段を計算する。即ち、麻袋に於ては、或る袋の値段は其の袋の目方と標準物の目方と正比例して計算せられ、麻布に在りては九經絲は標準物、即ち、40" / 8oz より目方半オンスを増す毎に値段百碼に付七安を増し、八オンスより半オンス減する毎に値段百碼に付き四安を減する。十一經絲は標準物、即ち 40" / 10 1/2oz より半オンス宛増す毎に七安を増し、半オンス宛減する毎に六安を減する規定である。

### 第四節 値段計算法

#### 一、麻袋の値段計算法

總て袋の値段は同品質の標準物の面積、従つて目方に比例するもの故先づ第一に麻袋が、Heavy Cae なるか E. Bag なるかを見て、次に製造に要したる布の總面積を求むれば、此の總面積と標準物の總面積との比を求め、之を標準物の値段に乘じて求めんとする袋の値段を得る。又或る袋の目方を求めんとするには總面積の比を標準物の目方に乘すれば容易に得ることが出来る。

袋の總面積を計算するに當り、注意すべきは、Hemed と Un-hemed とである。今 40" × 28" の袋が Hemed と Un-hemed との袋を造るに要する布の長さ及面積を示せば次の如くである。

Hemed 長サ 40" × 2 + 3 = 83吋 面積 (40 × 2 + 3) × 28 = 2324 平方吋

Un-hemed 長サ 40" × 2 + 1 = 81吋 面積 (40 × 2 + 1) × 28 = 2268 平方吋

尙値段計算に當り注意を要する點は、普通麻袋の値段には荷造費を含んで居る故、之を其儘標準物の値段として面積又は目方の比により計算する時は、荷造費も面積又は目方に比例することとなる。然るに荷造費は常に一梱三留比と規定されており、袋の品質或は大きさに關係がない故に荷造費を含める値段なる時は、荷造に従つて百袋に對する荷造費を計算し、之を控除して後比例式を用ひて袋の値段を出し、後荷造費を加へて求めんとする袋の値段を出し得るのである。

今 Heavy Cae 標準物

40×28 hd 2<sup>1</sup>/<sub>4</sub> lbs = Rs. 37/00 (荷造費ヲ含ム) なる時 Heavy Cae.

43×20 hd の目方並に値段を見出すには

$$\text{目方 } 2\frac{1}{4} \times \frac{(43 \times 2 + 3) \times 29}{(40 \times 2 + 3) \times 28} = 2\frac{1}{4} \times \frac{2581}{2324} = 2.4983 \text{ 即ち約 } 2\frac{1}{2} \text{ 封度である。}$$

$$\text{値段 } (37 - 0/12) \times \frac{(43 \times 2 + 3) \times 29}{(40 \times 2 + 3) \times 28} + 0/12 = \text{Rs. } 40/13/11$$

$$\text{或は } (37 - 0/12) \times \frac{2\frac{1}{4}}{2\frac{1}{4}} + 0/12 = \text{Rs. } 40/13/11$$

三十七留比より差引きたる十二安は百袋に對する荷造費である。即ち Heavy Cae の荷造費は四百袋にして一梱の荷造費三留比なれば百袋は十二安となる。而して三十七留比は荷造費を含むを以つて、先づ十二安を引き面積或は目方に正比例せしめ、更に荷造費を加へたものである。

E. Bag の標準物

40×28 hd 1<sup>3</sup>/<sub>4</sub> lbs Rs 29 (荷造費ヲ含ム) なる時 45×29 Hd の目方並に値段を見出すは

$$\text{目方 } 1\frac{3}{4} \times \frac{(45 \times 2 + 3) \times 29}{(40 \times 2 + 3) \times 28} = 1\frac{3}{4} \times \frac{2699}{2324} = 2.0308 \text{ lbs}$$

$$\text{値段 } (29 - 0/8) \times \frac{(45 \times 2 + 3) \times 29}{(40 \times 2 + 3) \times 28} + 0/8 = \text{Rs } 34/11/9$$

$$\text{或は } (29 - 0/8) \times \frac{2.0308}{1\frac{3}{4}} + 0/8 = \text{Rs. } 34/11/9$$

二十九留比より差引きたる八安はE袋百袋の荷造費である。E袋は普通一梱五百袋包装にして、荷造費は特に二留比半なれば百袋八安である。尙外の麻袋と異りE袋は

40×29 unhemed を標準とすることありて、結局E袋には標準物二つある譯である。

而して、45×29 は時々 40×29 unhemed を標準とすることがある、然る時は

40×28 Hemed を標準としたる時と、僅かの差を生ずることは免れぬ。

其他 A. Twill, B. Twill 等總て以上の例に準じて計算することが出来る。

## 二、麻布の値段計算法

麻布には九經絲と十一經絲との二種ありて目方半オンス宛の差を付けられたる種々の麻布あることは既に述べた通りである。

九經絲のものは標準物即ち

40"/8。より目方半オンス毎に七安を増し、八オンスより半オンス宛目方を減する毎に値段四安を減する。

十一經絲は標準物即ち

40/10"/oz より半オンス毎に七安を増し、半オンス宛目方の減する毎に六安を減す。

以上は巾を常に四十吋としたる場合であるが、巾が四十吋でない麻布の値段を知るには次の如く計算す。

即ち、巾四十吋ならざる麻布には

- 40"/7 1/2 oz.....ニテ 37 inches 巾ナルモノ
- 40"/9 oz.....ニテ 45 inches 巾ナルモノ或ハ
- 40"/10 oz.....ニテ 42 inches 巾ナルモノ等アリ

値段を見出さんとする麻布の巾が四十吋より大なる時は、先づ同品質にて四十吋なる時の値段を計算し、之を正比例に依りて四十二吋或は四十五吋の巾なれば何程かと云ふ様に計算をなす、それが反對に巾が四十吋より小さい時は先づ同品質にして四十吋の値段を計算して、之を正比例により三十六吋或は三十七吋の巾なれば何程と値段を計算し、其の得たる値段に差金として、四十吋巾一吋を減少する毎に一安を加へたるものが眞の値段である。

尙以上は十オンス四十五吋のもの四十五吋巾と云ふ如く、四十吋巾なる時の目方明なる場合にして計算も従つて簡單であるが、單に四十五吋十一オンスと云ふ様に、四十五吋巾にて十一オンスなるもの、値段を計算せんとする時は、最初四十吋の巾なれば何程の目方なるかを正比例にて計算することを要す。後四十吋巾なる時の値段を計算し得るのである。然し、斯る場合四十吋巾に直した目方何オンスと云ふ如く整数であることは稀にして、常に九、七オンスとか一、〇六六とか云ふ場合が多い。故に斯る場合には半オンスに切上げて四十吋の目方となすのが普通である。

- A. 巾四十吋ナル時 40"/8oz R 14/9(Porter)ナル時 40"/7 1/2
- ノ値段ハ 14/-0/4=R<sub>s</sub>, 13/12
- 40"/8 1/2 ノ値段ハ 14/+0/7=R<sub>s</sub>, 14/7
- 40"/9 " 14/+0/14=" 14/14

- 40"/10 1/2 oz ガ R<sub>s</sub>, 18/- ナル時ハ(Porter)
- 40"/10 oz ノ値段 18/-0/6=R<sub>s</sub>, 17/10
- 40"/11 oz " 18/+0/7=" 18/7
- 40"/11 1/2 oz " 18/+0/14=" 18/14

- B. 巾四十吋ナラザル時ハ
- 相場ハ Porter R<sub>s</sub>, 14/-
- 11 Porter R<sub>s</sub>, 18/-

- 40"/7 1/2 oz モノノ 36 inches 巾ノ値段ハ
- 40"/7 1/2 oz ノ値段 14/-0/4=R<sub>s</sub>, 13/12
- 36" ノ値段ハ 13/12 × 30/40 = R<sub>s</sub>, 12/6
- 4吋 = 對スル差金4安
- 36"巾ハツツヤンノ値段 12/6/0+0/4/0=R<sub>s</sub>, 12/10/0
- 40"/10oz モノノ 45 inches 巾ノ値段ハ、
- 40"/10oz ノ値段 18/-0/6=R<sub>s</sub>, 17/10-
- 45" ナレバ 17/10 × 45/40 = R<sub>s</sub>, 19/13/13
- 45/11oz モノノ値段
- 45吋 = テ 11 オンストハ 40 吋 = テ何オンス = 當ルカ

第二編 印度に於ける黄麻工業

- 11 × 45/40 = 9.777 オンス
- 9.777 オンスヲ切上テ 10 オンスト見ル
- 40"/10oz ノ値段ハ 18/-0/6 = 17/10
- 45"/10oz ノ値段ハ 17/10 × 45/40 = Rs. 16/13/3

### 第五節 取引の選擇權

#### 一、麻袋取引の選擇權 (Option)

麻袋並に麻布取引に當り、賣手が買手に對し提供する種々の選擇權 (Option) がある。今麻袋取引上の選擇權を大別すれば次の如くである。

1. Length option or cutting option 即チ長サ
2. Width option 即チ巾
3. Stripe option 即チ Blue, Green ノ筋ヲ附スルヤ否ヤ
4. Packing option 400 B/S 又ハ 500 B/S ノ包裝ナルヤ又ハ同時 = Iron bound カ Pucac bound カ何レデアルカ
5. Option for other kind of bags.

Heavy Cee ノ契約 = 對シ Light Cee option ヲ附スルカ如シ。

以上五種となすことを得、而して、右の内(2)、(3)、(5)は之を織り方 (Fabric option) 又は品質 (Quality option) と云ひ買手が之を指定するには期日四十五日前なるを要し、又(1)、(4)とは三十日前に指定せねばならぬ。尙ほ選擇權を指定した

る時は鐵、青に不拘百袋に付更に四安を支拂はねばならぬ。巾、長さの選擇權は指定したる品物と契約してある品物との目方に正比例して値段を計算するを普通とするけれ共、時に此の品物をと指定すれば何程の追加か、此の品物なれば何程の追加と特に選擇權に追加の額を定むることがある。

#### 二、麻布取引の選擇權

麻布の選擇權を大別すれば次の如くである。

1. Weight option.
2. Width option.

此の麻布の選擇權は總て期日四十五日前に指定せねば、契約の品物を引渡すを以つて足るものと看做されてある。

上記した麻袋及び麻布の選擇權は必ずあると云ふ譯ではなく、三十日以内に受渡をなす様な短期の取引に選擇權の無いことは勿論にして、それ以上の先物も全く選擇權の無いことが尠くない。又總て選擇權附なることがある。又筋の選擇權のみなることありて一定しては居ないが、要するに市況沈靜であつて工場が進んで賣出す時は全部の選擇權附も容易に出来るが、之に反して市場強氣にて工場が既約定品にて満腹して居る時等には選擇權を得ること困難なるは勿論にして、當時に於ても、選擇權を得るには多少の高値を拂はねばならぬのが普通である。

買手として選擇權を得て置く利益は、只々必要に應じて選擇を許す限り、何れの品をも融通し合ふことを得るに止らず、相場騰貴せし時は目方の大なるものを、即ち選擇權中の最も高値なるものを指定して利益の高を大ならしめ、相場下落の際には可成値段の安きものを指定して以つて損害の額を小ならしむる等、相場變動に際し、適宜の所置をなし自己の利益を擁護することを得るのである。今主なる標準物賣買の最も普通な選擇權を略記せば次の如くである。



Heavy Cee 40×28 hd. 2<sup>1</sup>/<sub>4</sub> lbs Plain(無地)

option width 29"-26<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"

Length 32"-48"

Stripe 2" Blue-Green.

或る二三の工場は Light Cee の option を與ふ。

E. bag 40"×28" hd. 1<sup>1</sup>/<sub>4</sub> lbs Plain

option width 29"

Length 32"-52"

或る工場は K. bag の option を與ふ。

A. Twill 44"×26<sup>1</sup>/<sub>2</sub>" Hd. 2<sup>1</sup>/<sub>8</sub> lbs 8×9 option Packing 25<sup>1</sup>/<sub>2</sub>/400 for country market

或る工場は Liverpool twill option を與ふ。

B. Twill 44"×26<sup>1</sup>/<sub>2</sub>" Hd. 2<sup>1</sup>/<sub>4</sub> lbs

option Packing 3/400

時に No.2. Twill の option を與ふ。

追加金は普通 Rs. 3/-

Hession 9 Porter 40"/8 oz 9×10

option weight 7<sup>1</sup>/<sub>2</sub>-9 oz

width 36"×45"

時には 42"/9 oz /40"

Hession 11 Porter 40"/10<sup>1</sup>/<sub>2</sub> oz 11×12

option weight 9<sup>1</sup>/<sub>2</sub>-12 oz

width 36" 39" 45"

## 第六節 相場

黄麻製品の相場は黄麻同様種々なる原因を材料とし人氣作用により騰落するものなりと雖も、其の主なる原因として左の五種を掲げ得る。

### 一、原料相場

原料たる黄麻の相場は製品原價採算の基礎をなし、黄麻工場の製品賣約方針を決定する主因となるべきものなるを以て、製品の相場が黄麻の市況と不離不隔の因果關係にあることは説明を俟たざる所である。

### 二、在荷高の増減

積出盛んにして甲谷陀市場及び黄麻工場の在荷高減少する時は、相場昇騰の氣配を示すに反し、積出不振にして在荷高漸増の状態にある時は、相場下押の傾向あるを免かれない。然れども、甲谷陀に於ける黄麻製品は殆んど總て各黄麻工場の倉庫に保管せらるゝを以て在荷高の實數を補足することは頗る困難なれども、常に各地向けの積出高の増減に注意する時は大勢を窺ふことが出来る。

### 三、需要地の向背

黄麻製品には多數の種類ありて其の需要期を異にし、従つて需要期接近にて海外より引合旺盛なる種類の製品は、非

需要期にありて買氣乏しき製品に比し、相場割高なるを常例とするを以て、黄麻製品の相場を考察せんとする時は常に各種の製品に付き、其の積出旺盛期を研究して進退を決する必要がある。

#### 四、定期市場

Fatha 市場は Group "A" 及び "B" に屬する黄麻工場の製造せる Porter Hessian cloth のみを上場取引する爲、其の供給高は著しく制限せられ、従つて人爲的に其相場を支配する機會多く、而かも、Fatha 市場の麻布の相場は一般製品の相場を變動せしむる誘因となるを以て、需給關係を無視せる相場を出現せしめ市場を攪亂すること稀なりとしなす。

#### 五、操業日數

現在甲谷陀に於ける黄麻工場は操業を一週五十四時間に短縮し、生産高の制限を行つて居る。操業時間の延長は直に製品の産額を増加するものなるを以て、此の問題の解決如何は直に市場の人氣に反映するものである。

## 第七章 黄麻製品の輸出

### 第一節 積出指圖

黄麻製品の積出に當つては契約品を Alongside すべき日より 7 clear working days 以前に賣手宛に積出指圖書を發送するを要する。然し買手のなした積出指圖の Alongside の日が受渡期限の最終日なる Due date 以前なる時は、當日までに Alongside するの義務あり、又一口の積出數量は二十五俵を以て最少數量となすを以て、二十五俵以下の積出指圖に對しては特約あるか、或は二十五俵分の船賃と指圖數量の船賃との差額を買手に於て負擔せざる限り、賣手は "Under

boat load" として此の積出指圖を拒絶することを得る。

7 Clear working days とは日曜日及公休日を除きたる正味の中間就業日數七日間の意味であつて、一九二八年五月渡の契約品を其月の Due date なる五月三十一日に Alongside せしめんとせば、五月二十日及び二十七日の日曜日並に五月二十九日の公休日を除き正味七日間を廻りたる五月十九日までに買手は賣手宛に積出指圖書を發送することを要する。

黄麻工場が買手の積出指圖に應じ契約品を積出したる時は、積出案内書を以て積出品の明細及び船番號を買手に通知する、若し買手が之を他に轉賣せる場合は同様 Arrival notice を以て現品の到着を通知するを要する。

黄麻工場の積出案内書 (Advice note or Boat note) には船が本船に Alongside せられた時より二十四時間又は四十八時間以内に積込まざる場合は夫れ以後の碇泊料は買手の負擔なる旨を記載せるを以て、買手は常に本船積込の状態に注意し不時の費用を避くることに努むるを要する。

### 第二節 通關手續

- (イ) 輸出申告書
- (ロ) 輸出依頼書
- (ハ) 輸出保證狀
- (ニ) 積戻申請書
- (ホ) 積荷明細書

右に關する手續は總て黄麻積出の場合と全然同様なるを以て此處に其の説明を繰返すことを省略するが、黄麻製品の

輸出に當りては上記各手續の外に、更に輸出品内容證明書を税關に提出するを要する。此の目的の爲め輸出申告者は Mills Specification を用ふる。

(ハ) 内容證明書

輸出申告書に記載せられた製品の内容及び重量に相違なきことを立證する爲めに本船の出港認可當日より二十日以内に工場の發行する内容證明書を税關に提出することを要する。

第三節 輸出諸掛

(イ) 輸出税及び公課

印度政府は關稅徵收の目的の爲め黄麻製品を Sacking と Hessian の二種に區別し、Sacking は Cloth, Bags, Twist yarn, Rope 及び Twine を包含し Hessian には Cloth 及び Bags を包含し、夫々其稅率を異にしてゐる。今其の諸掛を表に示せば左の通りである。

輸出諸掛表

項目	單位數量	袋	布
港務河口稅	二、二四〇封度一噸に付	一留比四安	一留比四安
輸出稅	同	二〇留比	三三留比
關手數料	同	一二安	一二安

即ち Sacking の輸出税及び公課は百封度に付き〇・九八二一四三留比にして、Hessian の輸出税及公課は百オンスに付き〇・〇九四八六六留比である。

(ロ) 港務局諸掛

港務局諸掛は黄麻の場合と同様なるに付第一編第八章第三節第三項参照

第四節 輸出引合

濠洲及び「ニュージランド」向け輸出引合には、甲谷陀黄麻製品輸出組合の制定せる濠洲麻貨契約形式を使用し、英國及び歐洲大陸諸國向け引合には同じく、甲谷陀黄麻輸出組合の制定せる Standard U.K. 麻貨契約形式を使用するを原則とし、東洋、南洋方面の取引は Standard U.K. 麻貨契約形式に記載の條件を準用する者多いが甲谷陀に於ける輸出商社と海外の取引先との間の取引條件は各自に特殊の打合あるを以て必ずしも一定せりと云ふを得ぬ。

(1) F.a.s. Calcutta.

甲谷陀市場に於ける一般の取引條件は既に説明せる如く契約品を積込みたる艀船が甲谷陀港の境界線内に入ると同時に海上に於ける危險は總て買入に於て附保すべきものと規定さるゝを以て、海外の取引先と F.a.s. Calcutta 條件を以て取引する場合は甲谷陀港内に於ける危險を執れに於て附保すべきやを協定する必要がある。

(2) Fob. Calcutta.

此の條件の建値中には甲谷陀港内に於ける艀船の危險に對する保險料を含むは勿論、本船への積込賃及び輸出税其他の公課を含むものとする。然し本船運賃中には常に積込賃を含むを一般の慣習とするを以て F.a.s. より Fob. Calcutta

建値とするには單に *Craft Risks* の保険料、港務河口税、輸出税、税關手数料を加算せば足りる、甲谷陀港内に於ける船の危険を單獨にて附保せんとする時は *Fob* にて *C&F* の高率保険料を課せらるゝを以て海上保険と同時に附保するを便利とする。

(3.) C. & F.

*Fob, Calcutta* 條件の建値に仕向地までの運賃を加算した値段である。甲谷陀に於ては殆んど各航路に船會社の運賃同盟ありて運賃を協定し割戻制度又は特安運賃制度により特約せる荷主を保護するの方針をとる爲め、社外船の割込みは頗る困難である。黄麻製品の運賃は北米合衆國の大西洋及び太平洋岸諸港は一噸 *50 cts* 建なるも、北米合衆國のメキシコ灣岸諸港及各國への運賃は總て一噸 *50 cts* 建なるを以て運賃採算の際には注意を要する。

(4.) Cif.

*C&F* 建値に更に仕向地までの海上保険料を算入したる値段である。海上保険は附保すべき危険の種類及び範圍、損害の程度、戦時危険の有無等により保険料率を異にするを以て豫め海上保険の種類及び附保の範圍に就き協定するを要する。甲谷陀に *Calcutta Marine Insurance Association* あつて、有力な保險會社は殆んど總て此れに加入し各地に至る海上保険料を協定してゐる。

### 第五節 輸出諸掛恒數

輸出諸掛を採算するに當り、輸出税及び公課の恒數と一俵の容積に對する恒數とを記憶せば、計算に頗る便宜なるを以て、以下税額恒數と才量恒數とに分けて説明する。

#### (1) 税額恒數

A. Sacking (Cloth, Bags, Twist yarn, Rope, and Twine) Port Commissioner's River Due Rs. 1-4-0 per ton of 2,240 lbs.

Export Duty Rs. 20-0-0

Custom House Cess Rs. 0-12-0

Total Rs. 22-0-0

Constants of Duties Rs. 0.982143 per 100 lbs.

即ち一枚の目方一封度の麻袋百枚、一碼の目方一封度の囊布百碼、麻糸百封度の税金は〇・九八二一四三留比なるを以て一枚二封度四分の一の麻袋百枚又は一碼二封度四分の一囊布百碼の税額は二・五七八一二五三七五留比である。然るに麻製品の目方は既税の通り多少不同増減を免れざるを以て、一般に輸出商社は百封度一留比として税金を計算する。

Constants of Duties for Sacking Rs. 1-0-0 per 100 lbs.

B. Hessian (Cloth and Bags)

Port Commissioners River Due Rs. 1-4-0 per ton of 2,240 lbs.

Export Duty Rs. 32-0-0

Custom House Cess Rs. 0-12-0

Total Rs. 34-0-0

Constants of Duties Rs. 0.094866 per 100 oz.

即ち一碼の目方一オンスの麻布百碼、一枚の目方一オンスの麻袋百枚の税金は〇・〇九四八六六留比なるを以て、一碼八オンスの麻布百碼の税金は〇・七五八九二八留比にして、一枚十二オンスの麻袋百枚の税金は一・一三三三九二留比である。

Constants of Duties for Hessian Rs.0.0948 per 100 oz.

(二) 才量恒數

A. Sacking (Cloth and Bags)

囊布の重量は正味重量の七%二分の一以上なることを得ざる不文律あるを以つて

$$100 \text{ lbs} = \frac{1100 \text{ lbs} \times (17\frac{1}{2}\%)}{2,240 \text{ lbs}} = 0.048 \text{ ton of 50 cft.}$$

と見積るべきである、即ち一枚二封度四分の一の麻袋百枚又は一碼二封度四分の一の囊布百碼の容積は0.108ton of 50 cft 以上なることを得ず、一枚二封度八分の五の麻袋百枚又は一碼二封度八分の五の囊布百碼の容積は0.126 ton of cft 以上なることを得ぬ。

B. Hessian (Cloth and Bags)

麻布の容積は正味重量の10%以上なることを得ずとの不文律あるを以つて

$$100 \text{ oz} = \frac{110 \text{ oz} \times (1+10\%)}{16 \text{ oz} \times 2,240} = 0.0031 \text{ ton of 50 cft.}$$

と見積るべきである、即ち一碼八オンスの麻布百碼又は一枚八オンスの麻袋百枚の容積は0.0248 ton of 50 cft 以上なることを得ず、又一碼十二オンスの麻布百碼又は一枚十二オンスの麻袋百枚の容積は0.0372 ton 50% 以上なることを得ぬ。

Constants of Tonnage for Sacking 0.048 ton of 50 cft. per 100 lbs.

Constants of Tonnage for Hessian 0.0031 ton of 50 cft. per 100 oz.

第六節 麻布の輸出高

一、麻布輸出高累年表 (單位碼)

年次	麻布	囊布	合計
一九二〇年	一,四二四,四五七,六〇〇	三三,四一六,六〇〇	一,四五七,八七〇,二〇〇
一九二一年	一,〇八六,九〇四,七〇〇	一三,〇六一,六〇〇	一,一〇九,九六六,三〇〇
一九二二年	一,二一七,五〇〇,一〇〇	三六,五二四,一五〇	一,二五四,〇二四,二五〇
一九二三年	一,三〇五,六一八,六〇〇	五八,六七二,九八〇	一,三六四,二九一,五八〇
一九二四年	一,三五八,七二五,六五〇	五六,一七三,六七〇	一,四一四,八九九,三二〇
一九二五年	一,四四〇,三八六,七五〇	六一,〇五九,七八〇	一,五〇一,四四六,五三〇
一九二六年	一,四二二,五七二,四七三	七九,五七八,二九〇	一,五〇二,一五〇,七六三
一九二七年	一,四八一,〇〇五,四五〇	七一,四二八,八六〇	一,五五二,四三四,三一〇

二、仕向地別麻布輸移出高表 (單位碼)

仕向地	一九二七年		一九二六年		一九二五年	
	麻布	囊布	麻布	囊布	麻布	囊布
倫敦	1,411,200	1,134,100	1,314,500	2,151,200	1,124,300	1,134,000
英領リバープール	4,624,000	1,804,000	6,248,000	5,124,000	6,104,000	4,144,000

第二編 印度に於ける黄麻工業



合 計	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
六月	三,七〇,七〇〇	三,五三,七三三	三,五八,四五四	三,五八,四五四
七月	一,五三,四〇〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇
八月	一,五三,四〇〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇
九月	一,五三,四〇〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇
十月	一,五三,四〇〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇
十一月	一,五三,四〇〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇
十二月	一,五三,四〇〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇
合計	一,五三,四〇〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇	一,五八,四七〇

第七節 麻袋の輸出高

一、麻袋輸出高累年表 (單位枚)

一九一〇年	四六四、六二七、八〇〇	一九一一年	三五八、四五四、三〇〇
一九一二年	三七八、二〇六、三〇〇	一九一三年	四三三、七六〇、八〇〇
一九一四年	四二〇、七四二、〇五〇	一九一五年	七三四、〇五八、一〇〇
一九一六年	八六一、七二〇、四〇〇	一九一九年	四〇三、〇三七、六〇〇
一九二〇年	五五八、五七七、九一〇	一九二一年	四六八、九八八、七〇〇
一九二二年	四〇一、五七八、一〇〇	一九二三年	四五八、三八一、七五〇
一九二四年	四七六、六二六、〇五〇	一九二五年	五一七、〇七一、四〇〇

一九二六年

四九七、九六二、五〇〇

一九二七年

五一六、八二八、四五〇

二、仕向地別麻袋輸移出高累年表 (單位枚)

仕向地	一九二七年	一九二六年	一九二五年	一九二四年
ロンドン	八、五五、〇〇〇	六、一〇一、七〇〇	七、六二、四〇〇	七、六二、四〇〇
リバープール	三、三六、七〇〇	三、〇七、一〇〇	三、〇七、一〇〇	三、〇七、一〇〇
ダンデル	四、七三、〇〇〇	四、七三、〇〇〇	四、七三、〇〇〇	四、七三、〇〇〇
フランドル	三、〇七、一〇〇	三、〇七、一〇〇	三、〇七、一〇〇	三、〇七、一〇〇
その他	三、〇七、一〇〇	三、〇七、一〇〇	三、〇七、一〇〇	三、〇七、一〇〇
英國	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
フランス	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
ノールウェイ	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
アントワープ	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
ポランド	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
ドイツ	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
スペイン	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
その他	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
北米	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
ニューヨーク	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
サンフランシスコ	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
ポートランド	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇
ニューオーレアンズ	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇	一、〇七、一〇〇







第一表

北米合衆國向黄麻及黄麻製品高 (價格單位留比)

品名	1919—20年		1920—21年		1921—22年		1922—23年		1923—24年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
Jute Raw tons	77,649	25,759,639	110,005	28,058,156	66,422	18,635,191	89,691	33,941,803	87,185	24,654,280
Twist and Yarn lbs	123,648	52,914	1,095,800	402,509	—	—	2,460,499	642,981	937,082	327,359
Manufactures	—	—	—	—	4,000	4,000	—	—	—	—
canvas/yds guny bags	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sacking guny bags	9,866,091	6,663,711	7,511,300	4,221,209	3,702,300	1,461,125	2,605,700	1,320,071	1,937,900	367,608
{ Hessian guny bags	33,168,070	8,166,421	64,300,400	19,219,890	49,589,000	9,165,336	29,086,000	6,041,791	31,219,000	7,550,923
total guny bags	43,034,091	14,830,132	71,811,900	21,441,079	53,291,300	10,626,461	31,691,700	7,361,161	33,156,900	8,520,525
cloths,	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sacking guny cloths	3,206,600	980,344	4,564,300	1,223,171	6,055,830	1,411,695	22,933,868	4,187,155	27,132,795	5,377,100
{ Hessian guny cloths	815,680,200	190,693,901	928,392,169	185,759,482	810,687,500	108,824,873	920,234,257	172,729,499	918,904,755	156,023,525
total guny cloths	818,886,800	191,674,245	932,956,469	186,982,653	816,736,330	110,236,568	952,228,125	176,914,654	946,037,550	661,400,625
Total guny Bags and cloth	—	206,574,377	—	208,423,732	—	120,867,122	—	184,275,815	—	169,921,153
Rope and Twine cwts	44	1,613	7	50	4	93	5	340	198	5,467
Other Kinds	—	—	20	680	—	—	1179	11,832	—	—
Total value of Manufactures	—	206,575,997	—	208,424,462	—	120,867,122	—	184,287,982	—	169,926,620

第二表

英國向黄麻及黄麻製品輸出高 (價格單位留比)

品名	1919—20年		1920—21年		1921—22年		1922—23年		1923—24年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
Jute Raw tons	304,759	130,038,541	135,275	52,282,773	90,373	28,596,244	155,579	58,973,860	156,309	46,104,344
Twist and Yarn lbs	1,206,650	412,024	257,540	1,761,476	506,089	37,092	871,241	26,666	875,330	694,287
Manufactures	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
canvas yds guny bags No. 3.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sacking guny bag	48,150,790	26,678,824	36,906,016	17,305,276	16,433,100	6,443,471	23,249,250	11,250,655	27,425,909	13,510,880
{ Hessian guny bag	10,169,710	4,134,738	11,107,300	4,467,449	14,339,900	4,100,481	7,468,500	2,679,701	13,295,750	4,325,158
Total Guny cloths	58,311,500	30,813,562	48,013,316	21,772,725	30,773,000	10,553,952	31,319,750	13,930,356	40,721,659	17,836,038
Sacking guny cloth yds	21,914,500	6,862,071	17,274,100	4,528,450	6,268,800	1,109,385	4,764,000	998,406	6,314,400	1,311,509
{ Hessian guny cloth yds	78,184,230	19,401,225	77,309,192	17,668,558	53,543,327	8,894,396	44,556,734	9,487,201	59,765,100	11,524,349
Total	100,098,730	26,263,296	94,583,232	22,177,008	59,511,127	10,003,871	49,320,734	10,485,607	66,109,500	12,836,258
Total Guny bags and cloth	—	57,076,858	—	43,969,733	—	21,557,533	—	24,415,963	—	30,672,296
Rope and Twine cwts cloth	5,356	96,790	6,146	197,743	—	—	213	18,854	2,214	17,283
Other kinds cloth	—	—	259	16,578	—	—	4	160	2	168
Total Manufactures	—	57,173,618	—	44,184,014	—	20,557,733	—	24,434,977	—	30,700,807
Total Jute(Including raw)	—	187,624,213	—	98,228,263	—	46,191,669	—	83,435,503	—	77,499,438

第三表

日本向黄麻及黄麻製品輸出高 (含大連) (價格單位留比)

品名	1919—20年		1920—21年		1921—22年		1922—23年		1923—24年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
Jute Raw	10,566	3,449,156	7,345	1,886,045	12,002	2,408,375	11,457	3,827,474	12,323	3,483,305
Twist and yarn lbs	4,480	1,909	—	—	—	—	—	—	—	—
Manufactures Guny bags	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sacking guny bag No. 8	21,202,000	11,927,473	13,738,000	6,988,825	35,765,333	13,089,669	10,808,100	4,299,773	12,275,600	5,010,039
Hessian guny bag No. 6	120,000	84,400	12,000	112,000	—	—	—	—	100,000	43,000
Total guny bag Guny cloths yds	21,322,000	12,011,873	13,858,000	7,100,828	35,765,333	13,089,669	10,808,100	4,299,773	11,375,600	5,083,039
Hessian guny cloth	800,000	170,857	400,000	81,544	503,000	78,219	200,000	38,200	475,000	75,250
Total guny bag and Guny cloth	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Rope and Twine cwt	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Other Kinds	—	—	23	14	—	—	—	—	—	—
Total Manufactures	—	12,182,723	—	7,182,572	—	13,167,888	—	4,350,093	—	5,158,289

第四表

伊太利向黄麻及黄麻製品輸出高 (價格單位留比)

品名	1919—20年		1920—21年		1921—22年		1922—23年		1923—24年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
Jute Raw Tons	28,076	12,776,832	22,869	8,541,642	25,325	8,541,642	34,872	15,153,550	49,777	15,837,092
Manufactures Guny bags	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sacking guny bags No. 3	—	—	50,000	15,250	50,000	14,875	45,200	21,136	365,100	193,244
Hessian guny bags	—	—	700,000	245,584	610,000	105,900	700,000	176,000	240,000	59,750
Total Guny cloth	—	—	750,000	260,834	660,000	120,775	745,200	197,136	605,100	252,994
Hessian guny cloth	—	—	—	9,900	118,000	18,991	60,000	14,475	2,000	300
Total Guny bag and cloth	—	—	49,500 yds	270,734	—	139,766	—	211,611	—	253,294

第五表

支那向黄麻及黄麻製品輸出高 (價格單位留比)

品名	1919—20年		1920—21年		1921—22年		1922—23年		1923—24年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
Jute Raw Tons	1,012	215,065	1,360	225,520	1,239	255,589	1,902	664,823	2,413	630,496
Twist and Yarn yds	—	—	—	—	—	—	—	—	107,780	36,894
Manufactures	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Gunny bags No. 3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sacking	6,794,900	3,738,667	16,978,900	7,587,817	9,506,450	3,520,332	3,774,200	1,776,701	5,808,800	2,686,107
Hessian	500,000	200,880	1,270,000	446,506	760,600	239,005	—	—	165,400	57,266
Total Gunny Cloth yds	7,294,900	3,939,547	18,248,900	8,034,323	10,273,050	3,759,337	3,774,200	1,776,701	5,974,200	2,743,375
Hessian	4,171,000	1,231,825	5,825,000	1,382,818	3,366,000	592,659	6,981,000	1,446,672	10,049,000	2,084,741
Total bag and cloth	—	5,171,372	—	3,417,141	—	4,351,993	—	3,223,373	—	4,828,116
Rope and Twine cwts	514	20,285	846	31,889	656	20,701	1,194	44,420	7,176	72,001
Total Manufactures	—	5,191,657	—	9,440,030	—	4,372,700	—	3,237,796	—	4,900,117

第六表

獨逸向黄麻及黄麻製品輸出高 (價格單位留比)

品名	1919—20年		1920—21年		1921—22年		1922—23年		1923—24年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
Jute Raw Tons	3,609	1,382,576	72,067	23,725,230	143,563	41,952,168	140,121	55,242,126	162,029	51,184,286
Manufactures Gunny bags	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sacking gunny bags No. 8	—	—	—	—	250,300	97,855	886,700	422,035	1,546,550	758,024
Hessian gunny bags No. 5	—	—	—	—	—	—	880,000	355,037	—	—
Gunny cloth. Hessian gunny cloth	—	—	—	—	800,000	116,723	1,153,500	323,338	320,000	44,149
Rope and twine cwts	—	—	—	—	—	—	720	10,600	390	2,730
Other Kinds	—	—	—	—	40	275	—	—	—	—

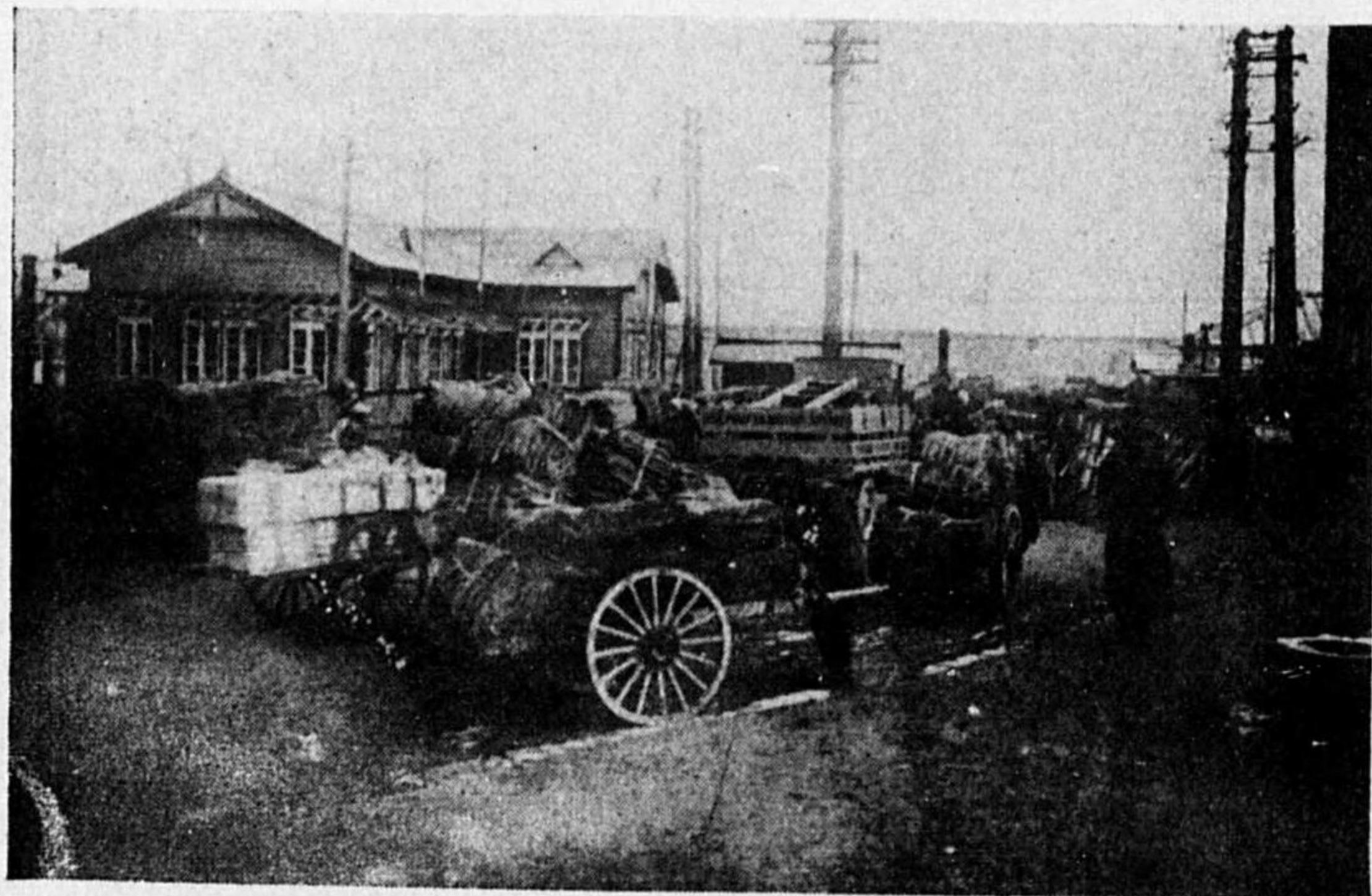
第七表

佛蘭西向黄麻及黄麻製品輸出高 (價格單位留比)

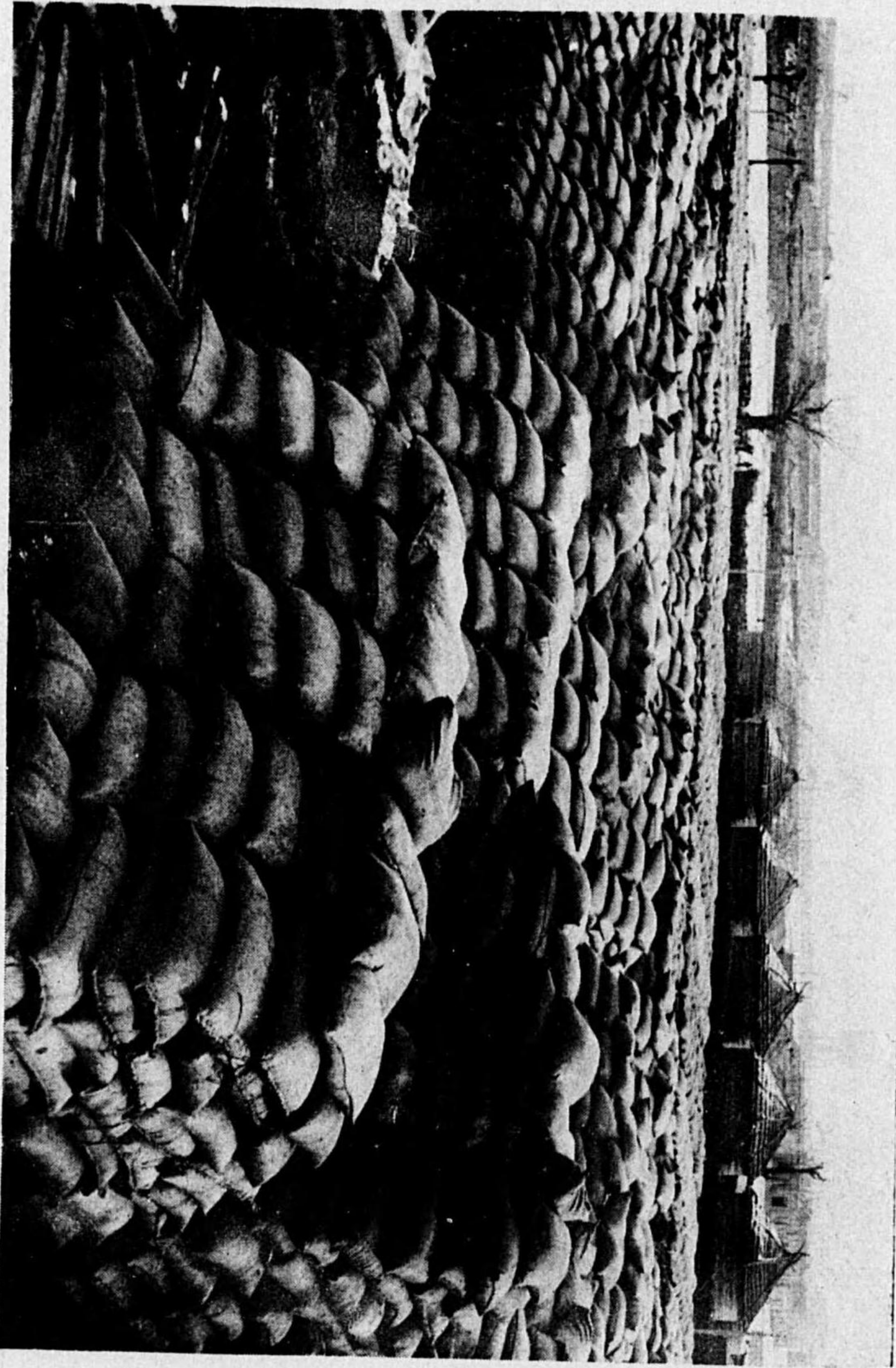
品名	1919—20年		1920—21年		1921—22年		1922—23年		1923—24年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
Jute Raw Tons	80,731	37,632,533	50,044	33,102,802	55,837	17,094,350	56,938	22,360,544	74,457	21,864,612
Twist and Yarn yds	10,000	2,679	22,400	10,773	—	—	—	—	—	—
Manufactures Guny bags	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
{ Sacking guny bags No. 5	3,255,600	1,576,292	7,216,600	3,066,217	135,000	48,965	506,400	264,702	382,100	191,097
{ Hessian guny bags No. 5	1,936,000	753,480	5,894,000	2,762,436	—	—	—	—	—	—
Total	5,191,600	2,329,772	13,810,600	5,828,653	135,000	48,965	506,400	264,702	382,100	191,097
Guny Cloth	180,000	55,380	—	—	—	—	—	—	—	—
{ Sacking guny cloth yds	30,033,000	7,139,835	18,980,299	4,321,424	62,200	14,552	—	—	—	—
{ Hessian guny cloth	30,263,000	7,195,215	18,930,292	4,321,424	62,200	14,552	—	—	—	—
Rope and twine cwts	—	9,524,989	—	10,150,077	—	63,517	—	264,702	—	191,097
Total Jute Raw	—	37,632,533	—	22,102,802	—	17,094,350	—	22,360,544	1,760	21,864,612
Manufactures	—	9,527,887	—	10,150,077	—	63,517	—	234,702	—	210,937



大連吾妻橋第二ホーム古麻袋の運輸



大連吾妻橋第二ホーム古麻袋の搬入



(豆大) 例 の 用 利 袋 麻

豆大例の用利袋麻



(一) (へ 驛 り よ 舍 田) 例の用利袋麻



(二) (へ 驛 り よ 舍 田) 例の用利袋麻

### 第三編 滿洲に於ける麻袋

#### 第一章 麻袋の輸入

##### 第一節 滿洲に於ける麻袋の總輸入高

東洋方面即ち海峽植民地、日本、支那及瓜哇等の麻袋の總需要高は一億萬枚を超過する。而して其中滿洲は最大需要地にして、殊に特産物産額の増大に連れ、其の需要は益々増加し、日本及支那各地に輸入されたる大部分は滿洲に再輸出せらるゝ状態である。就中大連が滿洲に需要せらるゝ麻袋の輸入港として多量の輸入を見るは航路の關係に依ると勿論であるが、他面當業者の大手筋が、主として本據を大連に置く所以に外ならないのである。

滿洲に輸入さるゝ麻袋は主として青筋、鐵筋と稱せらるゝもの大部分を占め、其他セメント袋、砂糖袋等に使用さるゝ無筋麻袋の輸入を見るも、其の數量は極めて僅少である。最近五箇年間に於ける全滿洲總輸入高を掲ぐれば次の如くである。

麻袋の全滿洲輸入高 (單位枚) 北支那貿易年報

海關別	年次	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年
大連港		一七,三五九三	一九,八九三,二〇	三〇,六九,三五七	三九,五五三,二二六	三三,三二八,三三三	三三,一六八,九四
營口港		一,〇四,四五九	四,三三〇,七二〇	一,四七,七,五八	二,七六,三九二	二,八三〇,九三七	三,四六六,三六

第三編 滿洲に於ける麻袋



第三編 滿洲に於ける麻袋

港名	新	古	合
安東港	二,三〇,九六六	九,七〇,七〇〇	一一,〇一〇,六六六
哈爾濱管内	一〇〇,〇〇〇	一,六三,七三三	一,七三,七三三
愛春	一〇〇,〇〇〇	四,一五,三五〇	四,二五,三五〇
龍井村	二,三〇,〇〇〇	一,四〇,〇〇〇	三,七〇,〇〇〇
合計	三,七〇,〇〇〇	一,一六〇,〇〇〇	四,八六〇,〇〇〇

一一四

第二節 各海關別麻袋輸入高

第一項 大連港輸入高

大連輸入の主なる徑路として次の四を擧げることが出来る。

- 一、支那各港經由（主として上海）
- 二、日本經由（主として神戸）
- 三、産地よりの直輸入
- 四、香港經由

尙ほ此の外朝鮮、英吉利、獨逸等より輸入せらるゝことあるも問題となすべき數字ではない。以下順次表を掲げて説明することとする。

大連港麻袋輸入高累年表（單位枚）

年次	新	古	合
大正二年	六,七四九,四七六	一,六一二,八二八	八,三六二,三〇四
大正三年	五,八三三,〇三六	四,三九三,五七六	一〇,二二六,六一二
大正四年	一三,七二二,七四四	三,五二五,三三〇	一七,二三八,〇四四
大正五年	九,一六五,五八五	一,七七五,〇六〇	一〇,八九一,六四五
大正六年	一七,八九〇,〇〇四	三,六三七,八六四	二一,五二七,八六八
大正七年	一〇,七七〇,七九〇	四,五四六,九〇八	一五,三一七,六九八
大正八年	二一,〇七七,六三四	三,一七二,二一九	二四,二四九,七六三
大正九年	二六,六七二,八八三	一,二七五,五六七	二七,九四八,四五〇
大正十年	四二,三八四,七〇九	一,〇四九,六六四	四三,四三四,三七三
大正十一年	一三,五四六,六七五	三,六七五,五三二	一七,二二二,一九七
大正十二年	一五,〇一三,二四五	四,五七八,〇五〇	一九,五九一,二九五
大正十三年	一七,四一九,七三五	三,二〇八,九六二	二〇,六二八,六九七
大正十四年	一六,三九四,一一二	九,六一四,〇七六	二六,〇〇八,一八八
昭和元年	二六,一〇八,五〇八	八,九一一,六六五	三五,〇二〇,一七三
昭和二年	二五,〇七一,九六三	八,四四七,五一四	三三,五一九,四七七

右統計面の上よりすれば、麻袋の大連に於ける需要は大正十年に於て絶頂に達し、其の後は却て減退したるかの如き

觀あるも事實は然らず、大正九年、十年に於いて輸入の激増したるは、之等兩年に於ける思惑輸入の甚だ旺盛なりし爲であつて、當時の實需を現すものではない。之れが爲め大連市場は同年以降二三年に亘りて在庫品の消化に憚まされ、延いては取引市場も常に産地との相場の逆鞘に苦しみたるが、十四年に至り漸く持込品の一掃を見たので、産地の好況と相俟つて輸入の増加を來し、市場も亦頗る活況を呈するに至つた。  
尙ほ最近數年間に於ける仕出地別麻袋の輸入數量並に價額を示せば次の如くである。

大連港輸入麻袋仕出地別數量價額累年表(滿洲貿易詳細統計)

仕出國	一九二七年		一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
日本	古麻袋 七、六四一、二六	海關兩 二七、六七三	古麻袋 七、八三六、六四	海關兩 四三、三九七	古麻袋 八、〇〇九、七五四	海關兩 二九、九三三	古麻袋 二、三六八、七七	海關兩 六、〇〇、七〇	古麻袋 二、二六六、三五	海關兩 一、二六、九七
朝鮮	古麻袋 七、六八〇	海關兩 二四、六九五	古麻袋 七、四六〇	海關兩 二四、六六二	古麻袋 九、三〇二	海關兩 二九、〇一〇	古麻袋 一、五七六	海關兩 二、二二	古麻袋 一、一〇	海關兩 四、一
香港	古麻袋 一、四四八、八八〇	海關兩 四四、五九九	古麻袋 一、〇五七、四九	海關兩 三、八九、〇五	古麻袋 二、六四七、七七	海關兩 八、〇〇、一〇	古麻袋 五、四二、九三	海關兩 一、六、三五	古麻袋 二、四七、〇〇	海關兩 五、〇〇、〇〇
英領印度	古麻袋 二、三三三、〇三	海關兩 七三、一九三	古麻袋 一、七二、七	海關兩 一、七、六六	古麻袋 一、〇〇、〇〇	海關兩 一、〇〇、〇〇	古麻袋 一、〇〇、〇〇	海關兩 一、〇〇、〇〇	古麻袋 一、〇〇、〇〇	海關兩 一、〇〇、〇〇
上海	古麻袋 一、四九三	海關兩 一、四九三	古麻袋 一、四九三	海關兩 一、四九三	古麻袋 一、四九三	海關兩 一、四九三	古麻袋 一、四九三	海關兩 一、四九三	古麻袋 一、四九三	海關兩 一、四九三

仕出地	一九二七年		一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
天津	古麻袋 三、〇八三	海關兩 九、五六〇	古麻袋 五、五六六	海關兩 一、五四八	古麻袋 四、七五〇	海關兩 八、〇三三	古麻袋 三、三〇〇	海關兩 四、七〇七	古麻袋 三、〇〇〇	海關兩 三、〇〇〇
威海衛	古麻袋 三、三三三	海關兩 九、〇〇〇	古麻袋 三、三三三	海關兩 九、〇〇〇	古麻袋 三、三三三	海關兩 九、〇〇〇	古麻袋 三、三三三	海關兩 九、〇〇〇	古麻袋 三、三三三	海關兩 九、〇〇〇
芝罘	古麻袋 二、二六六	海關兩 一、三三三	古麻袋 二、二六六	海關兩 一、三三三	古麻袋 二、二六六	海關兩 一、三三三	古麻袋 二、二六六	海關兩 一、三三三	古麻袋 二、二六六	海關兩 一、三三三
英國	古麻袋 六、九七七	海關兩 七、九七七	古麻袋 六、九七七	海關兩 七、九七七	古麻袋 六、九七七	海關兩 七、九七七	古麻袋 六、九七七	海關兩 七、九七七	古麻袋 六、九七七	海關兩 七、九七七
海峽殖民地	古麻袋 一、九八〇	海關兩 一、九八〇	古麻袋 一、九八〇	海關兩 一、九八〇	古麻袋 一、九八〇	海關兩 一、九八〇	古麻袋 一、九八〇	海關兩 一、九八〇	古麻袋 一、九八〇	海關兩 一、九八〇
青島	古麻袋 三、〇七三	海關兩 一、五二八	古麻袋 三、〇七三	海關兩 一、五二八	古麻袋 三、〇七三	海關兩 一、五二八	古麻袋 三、〇七三	海關兩 一、五二八	古麻袋 三、〇七三	海關兩 一、五二八
廈門	古麻袋 八、五五〇	海關兩 二、七三六	古麻袋 八、五五〇	海關兩 二、七三六	古麻袋 八、五五〇	海關兩 二、七三六	古麻袋 八、五五〇	海關兩 二、七三六	古麻袋 八、五五〇	海關兩 二、七三六
安東	古麻袋 一、七二七	海關兩 一、七二七	古麻袋 一、七二七	海關兩 一、七二七	古麻袋 一、七二七	海關兩 一、七二七	古麻袋 一、七二七	海關兩 一、七二七	古麻袋 一、七二七	海關兩 一、七二七
龍口	古麻袋 五、一七七	海關兩 一、一八二	古麻袋 五、一七七	海關兩 一、一八二	古麻袋 五、一七七	海關兩 一、一八二	古麻袋 五、一七七	海關兩 一、一八二	古麻袋 五、一七七	海關兩 一、一八二
北米	古麻袋 一、二八二	海關兩 一、二八二	古麻袋 一、二八二	海關兩 一、二八二	古麻袋 一、二八二	海關兩 一、二八二	古麻袋 一、二八二	海關兩 一、二八二	古麻袋 一、二八二	海關兩 一、二八二
廣東	古麻袋 五、〇〇〇	海關兩 五、〇〇〇	古麻袋 五、〇〇〇	海關兩 五、〇〇〇	古麻袋 五、〇〇〇	海關兩 五、〇〇〇	古麻袋 五、〇〇〇	海關兩 五、〇〇〇	古麻袋 五、〇〇〇	海關兩 五、〇〇〇
福州	古麻袋 一、六八三	海關兩 一、六八三	古麻袋 一、六八三	海關兩 一、六八三	古麻袋 一、六八三	海關兩 一、六八三	古麻袋 一、六八三	海關兩 一、六八三	古麻袋 一、六八三	海關兩 一、六八三
山東	古麻袋 二、六二六	海關兩 二、六二六	古麻袋 二、六二六	海關兩 二、六二六	古麻袋 二、六二六	海關兩 二、六二六	古麻袋 二、六二六	海關兩 二、六二六	古麻袋 二、六二六	海關兩 二、六二六

江蘇(古麻袋)	合計		新麻袋	古麻袋	總計
	新麻袋	古麻袋			
二五,〇七二,九三三	八〇,五五九,五九九	三六,〇八八,八〇八	八〇,三三三,三三五	一六,五九四,一三三	四七,七六三,二二二
八,四七五,五四	一,四七五,七三三	一,四八八,六四四	九,六四〇,六六六	一,七四一,三三二	三,〇二八,九六二
三,五九四,四七七	九,四六一,〇三三	三,〇〇八,二八八	六,五〇〇,〇三三	三,〇二八,六九七	四,〇四七,八八〇
					一九,九一三,九五五
					二,九四九,七五五
					四,八八三,六六六
					四,五八八,五五五
					三,〇二八,九六二
					三,〇二八,九六二
					三,〇二八,九六二

更に大連へ輸入せらるゝ麻袋が全滿洲輸入數量に對し如何なる割合を示してゐるかを見るに左の如し。  
全滿洲輸入高に對する大連港輸入の割合 (單位枚)

年次	全滿洲輸入高	大連港輸入高	割合
大正十二年	二六,〇四七,四一九	一九,五九一,二九五	七五・二%
大正十三年	二四,八三五,一一一	二〇,六二八,六九七	八三・一
大正十四年	三三,三〇〇,四八三	二六,〇〇八,一八八	七八・一
昭和元年	四六,〇七七,二〇四	三五,〇二〇,一七三	七六・〇
昭和二年	四五,八〇七,〇一七	三三,三三三,四七七	七三・二

右の如く全滿洲總輸入高に對し大連の輸入高は常に七割乃至八割に及んでゐる。而して大連に輸入せらるゝ麻袋の約八割は奥地に積出さるゝものである。次表に依れば古麻袋の奥地向發送高が其輸入高より著しく減少してゐるが之は、大連奥地間の通ひ袋即ち奥地より農産物を充滿して搬出せられ来たつたものが、更に奥地へ空袋となりて返送さるゝに際し之等通ひ袋は滿鐵の返送證明あれば無稅搬出が出来る關係上、古麻袋として奥地に入るものは一部分に過ぎずして他は悉く通ひ麻袋として奥地へ返送されてゐる爲である。即ち其の數量は左の如くである。

大連港經由奥地積出麻袋數量

年次	新麻袋	古麻袋	通麻袋	合計
大正十二年	六,七五七,二二三		八,六一六,四八三	一五,三七三,六九六
大正十三年	六,二五六,四四二		六,七四九,七九九	一三,〇〇六,二四一
大正十四年	一一,〇二七,八五〇		一三,七六五,七六九	二五,九二一,六二二
昭和元年	七,七六八,一四九		一〇,一三一,六三四	一八,一七九,四六一
昭和二年	一一,八三五,〇三二		一一,〇一九,八〇一	二四,二五四,一六六
大正七年	一一,四四〇,一三七		一二,六九〇,九一六	二四,八二七,二八六
大正八年	一四,六一七,〇八一		一四,二九三,六五四	二九,二六一,四二六
大正九年	一九,六一一,六六六		一一,九一一,七〇〇	三三,七二八,一五〇
大正十年	二七,一八一,一八〇		一〇,四二九,四七五	三七,七八三,六〇〇
大正十一年	一六,五九三,四四五		一一,六八九,七九八	二八,三六四,八二五
大正十二年	一七,五五二,五二六		一六,四九三,三七六	三四,九七九,〇四〇
大正十三年	一五,三三六,七五八		一八,八八七,〇八五	三四,四二六,〇八〇
大正十四年	一三,三五六,二〇〇		二九,六一六,五二〇	四五,四七八,三六八
昭和元年	一二,四四四,〇二九		二六,四七九,五九二	四五,四二〇,四三二
昭和二年	一七,五〇六,四八〇		三一,三四六,一三四	五一,七六三,九六八
昭和三年	二四,一六三,〇二二		二二,七二八,九〇四	四九,八三七,二四八

第二項 營口港輸入高

營口に於ける麻袋の輸入數量は、既に全滿洲輸入總數量を述ぶるに際して示した如くであるが、今少し詳細に（仕出地別並に新舊別）掲ぐれば次表の如くである。

營口港麻袋輸入高累年表（單位枚）

年次	數量	年次	數量
大正六年	一、三五九、六四七	大正十二年	三、九六三、〇二〇
大正七年	一、一五六、二二五	大正十三年	一、五九四、九〇二
大正八年	一、二八三、六六〇	大正十四年	二、四〇五、四〇〇
大正九年	一、三二五、三一九	昭和元年	二、八六八、八六七
大正十年	三、八一四、九一〇	昭和二年	三、四九四、二〇七
大正十一年	三、〇三四、三六五		

備考（大正十年迄は其他袋類を含む）

尙ほ仕出地別輸入の數量及び價格を示せば左の如し。

營口港輸入麻袋仕出地別數量價格累年表（滿洲貿易詳細統計）

仕出地	一九二七年		一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
日本 新麻袋	一四、四八二	三、〇八三	五、九二七	一、〇八四	三、二七五	六、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
香港 新麻袋	二、五七二	七、〇八三	一、三六三	四、四〇五	九、五四三	八、六〇五	二、四七三	一、七〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
香港 古麻袋	五、四六三	一、三二一	五、六一〇	一、〇一五	七、〇九八	三、三二八	二、四七〇	一、〇六八	一、七〇〇	一、七〇〇
上海 新麻袋	三、六三二	一、三二一	九、四七一	三、〇六三	四、〇八七	三、三二七	二、四七〇	一、〇六八	一、七〇〇	一、七〇〇
上海 古麻袋	三、六三二	一、三二一	九、四七一	三、〇六三	四、〇八七	三、三二七	二、四七〇	一、〇六八	一、七〇〇	一、七〇〇
天津 新麻袋	一、九〇八	五、四六三	一〇、三六〇	三、〇六三	一、八六六	二、九七九	一、七〇〇	六、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
天津 古麻袋	一、九〇八	五、四六三	一〇、三六〇	三、〇六三	一、八六六	二、九七九	一、七〇〇	六、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
廣東 古麻袋										
廈門 古麻袋										
龍口 古麻袋										
登州 古麻袋										
汕頭 古麻袋										
芝罘 古麻袋										
合計 新麻袋	二、八〇一	八、三〇〇	二、五七六	七、〇八三	三、二七五	六、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇

第三編 滿洲に於ける麻袋

一一一

總計	一古麻袋	二古麻袋	三古麻袋	四古麻袋	五古麻袋	六古麻袋	七古麻袋	八古麻袋	九古麻袋	十古麻袋
二,441,077	1,456,856	1,010,111	1,284,010	1,452,633	1,364,633	1,452,633	1,452,633	1,452,633	1,452,633	1,452,633

更に營口へ輸入せらるゝ袋麻及其他袋物が全滿洲輸入總數に對する割合を見るに左の如くである。

全滿輸入高に對する營口港輸入の割合 (單位枚)

年次	全滿洲輸入高	營口港輸入高	割合
大正十二年	26,047,419	3,963,020	15.2%
大正十三年	24,835,111	1,594,902	6.4%
大正十四年	33,300,483	2,405,400	7.2%
昭和元年	46,077,204	1,868,867	4.1%
昭和二年	45,807,017	3,494,207	7.6%

以上の如く大體に於て全滿輸入高の約六、七%の割合を占めてゐるに過ぎぬ。

第三項 安東港輸入高

安東港麻袋輸入高累年表

年次	數量	年次	數量
大正六年	5,111,149枚	大正八年	6,363,136枚
大正七年	4,881,081	大正九年	6,165,340

安東港輸入麻袋仕出品別數量價格表

仕出國	一九二七年	一九二六年	一九二五年	一九二四年	一九二三年
大正十年	2,434,484	2,434,484	2,434,484	2,434,484	2,434,484
大正十一年	2,130,998	2,130,998	2,130,998	2,130,998	2,130,998
大正十二年	2,491,863	2,491,863	2,491,863	2,491,863	2,491,863
大正十三年	927,790	927,790	927,790	927,790	927,790

(備考 大正十年迄は其他袋類を含む)

仕出國	一九二七年		一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
日本(新麻袋)	1,410,000	10,775	1,328,000	10,775	1,328,000	1,328,000	1,328,000	1,328,000	1,328,000	1,328,000
朝鮮(古麻袋)	1,174,000	10,775	1,174,000	10,775	1,174,000	1,174,000	1,174,000	1,174,000	1,174,000	1,174,000
香港(新麻袋)	1,244,000	10,775	1,244,000	10,775	1,244,000	1,244,000	1,244,000	1,244,000	1,244,000	1,244,000
上海(新麻袋)	1,313,000	10,775	1,313,000	10,775	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000
英領印度(新麻袋)	1,313,000	10,775	1,313,000	10,775	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000
芝罘(新麻袋)	1,313,000	10,775	1,313,000	10,775	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000
天津(袋類)	1,313,000	10,775	1,313,000	10,775	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000
龍口(袋類)	1,313,000	10,775	1,313,000	10,775	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000	1,313,000

第三編 滿洲に於ける麻袋

一一三

第三編 滿洲に於ける麻袋

年次	近海(袋類)		支那諸港(袋類)		合計(古麻袋)		總計
	新麻袋	古麻袋	新麻袋	古麻袋	新麻袋	古麻袋	
大正十二年	26,047	47,419	2,100	2,100	28,147	49,519	76,666
大正十三年	24,835	41,191	2,100	2,100	26,935	43,291	70,226
大正十四年	24,835	41,191	2,100	2,100	26,935	43,291	70,226
大正十五年	24,835	41,191	2,100	2,100	26,935	43,291	70,226
昭和二年	24,835	41,191	2,100	2,100	26,935	43,291	70,226
合計	126,047	198,801	10,500	10,500	136,547	209,301	345,848

一二四

全滿洲輸入高に對する安東港輸入の割合

年次	全滿洲輸入高	安東港輸入高	割合
大正十二年	226,047	22,491	9.9%
大正十三年	214,835	19,779	9.2%
大正十四年	214,835	19,779	9.2%
大正十五年	214,835	19,779	9.2%
昭和二年	214,835	19,779	9.2%
合計	1,085,801	107,327	9.9%

第四項 哈爾濱輸入高

哈爾濱輸入麻袋數量累年表

大正十一年	110,917	大正十四年	4,733,907
大正十二年	22,241	昭和元年	6,622,602

大正十三年 一,六八三,七二二 昭和二年 六,四〇五,九四五

哈爾濱管内仕出地別麻袋輸入數量價格累年表 (單位枚價格單位海關量)

年次	仕出地		支那黑龍江	合計
	太平洋沿岸露西亞	西伯利露西亞		
一九二七年	6,405,318	627	6,405,945	6,405,945
一九二六年	2,208,514	94	2,208,608	2,208,608
一九一六年	6,619,933	2,679	6,622,612	6,622,612
一九二五年	2,242,905	386	2,243,291	2,243,291
一九二四年	4,724,388	8,892	4,733,280	4,733,280
一九二三年	1,543,401	995	1,544,396	1,544,396
一九二二年	1,678,379	2,943	1,681,322	1,681,322
一九二一年	404,791	417	405,208	405,208
一九二〇年	741	176	917	917
一九一九年	58	176	234	234

全滿洲輸入高に對する哈爾濱輸入の割合

年次	全滿洲輸入高	哈爾濱輸入高	割合
大正十二年	226,047	22,491	9.9%
大正十三年	214,835	19,779	9.2%
合計	1,085,801	107,327	9.9%

第三編 滿洲に於ける麻袋

一二五

大正十四年	三三、三〇〇、四八三	四、七三三、九〇七	一四・二
昭和元年	四六、〇七二、七〇四	六、六三二、六〇二	一四・四
昭和二年	四五、八〇七、〇一七	六、四〇五、九四五	一四・〇

### 第三節 麻袋輸入徑路の變遷

麻袋の滿洲に輸入せらるゝ徑路如何と云ふに、歐洲戰時の投機熱の勃興に伴ひ神戸に於ける麻袋の取引著しく振作を呈し來りたる爲め、滿洲に於ても亦大に殷盛を極めたが、尙産地よりも直接輸入は極めて僅少にして、概ね神戸を經由し、取引所開設の今日に在つても依然として此の状態を持續してゐる有様である。

大連市場の取引漸次殷盛の兆を呈し來るや、一部の取引商人は神戸市場が從來其の仲繼地なるに過ぎざる所以を以つて、近き將來に於て必ず衰滅するものと豫想したるも、事實は全然之を裏切り當地の振作は却て彼の地の隆昌を助長するの因由となり、茲に産地を加へ嚴として三市場の鼎立を現出した。這是神戸市場が投機旺盛の爲産地カルカッタに比し市價常に割安なる爲、商談容易なるに加へ産地との間に別に一箇の緩衝的市場を設くることは轉賣、買戻上に齎らす利便鮮少なからず、殊に航路の關係上神戸を經由するを便とし、産地直接輸入を嫌忌すること甚だしきを以つて、將來を通じて神戸を疎外するが如きは到底不可能なるは勿論、滿洲も亦神戸を通じてはじめて市場の充分なる繁盛を期待し得べく、要するに兩地の市場は互に唇齒輔車の關係を生ずるに至つた。然れども市場の氣配は今や大連より神戸に移るの狀態にして往時の傾向は頗みに一變化を來した。之れは從來麻袋の底下は主として銀の瓦落に基けるが、銀の高下に關しては内地に比し當地の感觸殊に鋭敏なると、當地市場は昨今取引旺盛を極め神戸市場を凌駕するに至りたる結果にし

て、嘗て神戸に對し註文者の地位に在つた當時は、遂に轉じて彼の地の商人中取引關係を希望し來れるもの少なからず、次第に主客その位置を顛倒せんとするの觀あり、以て當地市場の前途が如何に好望なるかを窺知することが出来る、殊に向後特産商にして直接當地に出入し支那側商人も亦之に参加するに於ては、斯界の進展は正に刮目すべきものがある。

## 第二章 麻袋の滿鐵主要驛分布狀態

### 第一節 大連驛發着數量

大連に輸入されたる麻袋が如何に分布せらるゝかに就ては、沿線各驛及聯絡發着數量を見れば、其の大勢を察するところが出来る。今左に滿鐵統計年報に依る大正七年以降昭和二年に至る麻袋輸送數量を掲げて其の一般を窺はんとする。

大連驛發各驛到着數量累年表 (單位枚)

別方地	驛名	昭和二年	昭和元年	十四年正	十三年正	十二年正	十一年正	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年
州内各驛	營口	二、〇三、八五六	一、八七、四四四	一、五五六、六七三	一、三六、九四四	一、四〇、六〇三	八〇〇、天四	六四、八〇〇	三、四一四	五三、三三四	五、四四〇、四
	遼陽	一、一六、四四〇	一、五五、〇七六	二、五〇、一六〇	一、九三、九四四	九三、九四四	一、三三、七四四	一、二六、四六六	一、八二、八〇八	一、四六、一〇四	一、四六、一〇四
	撫順	六、三三、四四〇	五、四四、三三〇	六、九八、八五六	四、九、六〇四	五、七、六六六	三、〇、七四四	四、五、三三〇	三、〇、〇九六	四、三、九六八	四、八、六六六
	奉天	一、一〇、〇七六	七、〇、六六六	六、三、四六六	六、六、〇〇〇	七、八、四〇〇	六、五、二〇〇	六、五、〇〇〇	七、八、三三三	一、〇、二、四八八	七、三、六六六
	其他各驛	一、四、三、〇〇八	一、〇、一、三三〇	一、四、四、四六六	一、〇、七、三三三	六、七、七六六	一、〇、三、八四四	一、〇、一、一〇〇	三、六、三三三	一、〇、六、三三三	一、二、六、三三三









奉天以南		奉天以北						奉天以南	
州内各驛	營口	遼陽	撫天	奉天	計	安東發送	計	州内各驛	營口
昭和二	九,五五四	二,七四五	二,八八六	二,二九三	一,六八八	一,四六八	一,四六八	昭和二	九,五五四
昭和一	一三,〇六一	一,五八一	一,四五一	一,四五一	一,四五一	一,四五一	一,四五一	昭和一	一三,〇六一
十四年正	八,一八九	二,九〇三	一,九六九	一,九六九	一,九六九	二,九〇三	二,九〇三	十四年正	八,一八九
十三年正	五,七五五	四,六四三	五,七五五	一,二〇三	一,二〇三	一,二〇三	一,二〇三	十三年正	五,七五五
十二年正	八,六一	一,〇五九	三,三七八	二,〇七四	二,〇七四	二,〇七四	二,〇七四	十二年正	八,六一
十一年正	四三三	二,一四六	一,一九六	一,一九六	一,一九六	一,一九六	一,一九六	十一年正	四三三
大正十年	一三,〇一〇	三,三〇〇	一,六六五	一,六六五	一,六六五	一,六六五	一,六六五	大正十年	一三,〇一〇
大正九年	二,五九三	八,六四〇	三,〇七六	三,〇七六	三,〇七六	三,〇七六	三,〇七六	大正九年	二,五九三
大正八年	一,七六	一,七六	一,七六	一,七六	一,七六	一,七六	一,七六	大正八年	一,七六
大正七年	三,四五六	一,七六	一,七六	一,七六	一,七六	一,七六	一,七六	大正七年	三,四五六
合計	一,四五一	一,四五一	一,四五一	一,四五一	一,四五一	一,四五一	一,四五一	合計	一,四五一

備考 合計の安東沙河鎮を合して計に符合せざるは、安東發送沙河鎮着、沙河鎮發安東着の數量が表に現はせざる爲で合計が所謂安東沙河鎮の輸送總數量である。

各驛發送安東沙河鎮到着 (單位枚)

奉天以南		奉天以北						奉天以南	
州内各驛	營口	遼陽	撫天	奉天	計	安東發送	計	州内各驛	營口
昭和二	二,七〇〇	一,四九六	一,四九六	一,四九六	一,四九六	一,四九六	一,四九六	昭和二	二,七〇〇
昭和一	五,〇九八	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	昭和一	五,〇九八
十四年正	五,〇九八	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	十四年正	五,〇九八
十三年正	一〇,四二五	一,八四一	一,八四一	一,八四一	一,八四一	一,八四一	一,八四一	十三年正	一〇,四二五
十二年正	七,八七三	一,七三三	一,七三三	一,七三三	一,七三三	一,七三三	一,七三三	十二年正	七,八七三
十一年正	一八,九七七	一〇,五六八	一〇,五六八	一〇,五六八	一〇,五六八	一〇,五六八	一〇,五六八	十一年正	一八,九七七
大正十年	一四,八四三	二,三六四	二,三六四	二,三六四	二,三六四	二,三六四	二,三六四	大正十年	一四,八四三
大正九年	九,〇七〇	三,四五六	三,四五六	三,四五六	三,四五六	三,四五六	三,四五六	大正九年	九,〇七〇
大正八年	二,〇六三	二,〇六三	二,〇六三	二,〇六三	二,〇六三	二,〇六三	二,〇六三	大正八年	二,〇六三
大正七年	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	大正七年	二,五九二
合計	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	二,五九二	合計	二,五九二

合計	安東發送 沙河鎮發送	安奉線發送		北發			以	
		朝鮮線	鐵道省線	東支線	吉長線	長春	范家屯	公主嶺
九七、八一		六、三三		二、七〇	二、五三	二、〇七	三、五九	五、八
五九、四三	五、八四〇	三、七六	六	三、三三	五、八	六、五	六	一、三三
一四、六四	六、二五	四、五八	五、七	一、二四	一、八	六	一、七	一、三三
一三、〇〇	四、〇〇	三、三六	三、〇	六、四〇		一、七	六	七、六
一四、九二	四、四七	六、四	三、〇	三、二二		九、一	一、三	八、四
三三、八四	六、六六	四、四三		六、三三		三、六六		三、〇四
二九、六三	七、二六	五、九五		三、九〇		五、四三	二、五	一、七六
三九、〇八	五、九六	三、九〇	八、四	四、三〇		一、五、五三		
五、六六		二、二、六〇	八、九、四	四、三〇		二、五、九三		
五、七、一〇〇		六、六	四、九、六	三、三、六		三、四、六		

### 第三章 麻袋の取引

#### 第一節 取引の沿革

滿洲に於ける輸入品の大部分は、荷渡後一箇月乃至二箇月後にその代金を支拂ふも麻袋は初めより一切現品引換拂の

取引にして、掛賣の危険なく、總て現金取引なること實に此の取引の特色にして、支那人も麻袋のみは現金拂を納得して居る。

從來の賣買條件は甲谷陀何月積、香港上海何月積と云ふが如く、積月に依る商取引盛んに行はれたるも、滿洲は需要地なる關係上買手は多く實需者なるを以つて必ず現品の提供を望む爲め、積月の取引にすれば荷渡日不確定なる爲め、實需者の不便尠ならず、依つて組合員間に協議の結果數年前より大連何月積と云ふ取引方法に改め、船積による荷物延着の危険を輸入業者の負擔にすることになつた。

歐洲戰爭以前は、麻袋の取引なるものは極めて微々たるもので、各特産物商が自家の穀物包装用として買付ける傍ら麻袋の賣買をなしたる程度のものであるが故に、取引高も極めて僅少であつたが、戰時中麻袋が軍需品としての需要を喚起したる爲め、非常の昂騰を告げ相場の変動甚だしく、折柄思惑熱は高潮し、麻袋を投機の目的物とする思惑賣買が仲繼港たる神戸市場に現出し、取引旺盛を極めたる結果、大連市場も之に追隨し各店競ふて麻袋取引をなすに至り、麻袋同業組合等組織せられ相對賣買盛んに行はるゝに至つた。

大正九年三月大連株式商品取引所開場せられ、其の商品部に於て麻袋を上場し、先物取引開始せらるゝや恰も思惑熱最高潮に達したる時なるを以つて、取引益々旺盛を極め、當時日々の出來高多き時は六七十萬枚、少き時に於ても四、五十萬枚を算するに至り、茲に統一されたる麻袋市場が現出するに至つた。

#### 第二節 大連株式商品取引所

大連株式商品取引所は大正八年十二月十五日發布の關東州取引所令に準じ設立せられたる民營取引所にして資本金一